御陵山（おみはかやま）信仰遺物の研究

御陵山信仰遺跡研究グループ

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．遺跡の位置と歴史的環境
Ⅲ．調査経緯
Ⅳ．祠と資料発見状況
Ⅴ．遺　物
Ⅵ．考　察
Ⅶ．おわりに

Ⅰ．はじめに

長野県南佐久郡川上村の村史、『川上村誌　民俗編』の「御墓山」の項には、山頂の小祠内に「百余本の模造鉄剣」があることが記され、奉納品の一部として剣形鉄製品４点と和鏡１点の写真が掲載されている。山梨県を中心に山岳信仰遺跡の調査を進めてきた信藤祐仁は、かねてよりこの記載に注目し2003年５月に御陵山（御墓山）の祠に赴いたところ、祠中に薙鎌をはじめとする多種多様の鉄製模造品の存在を確認した。報告のため借用したが、総数約800点という膨大な数量であったことから個人的に図化するのは難しいと考え、研究グループを組織し共同で報告に向けて取り組むこととなった。

Ⅱ．遺跡の位置と歴史的環境

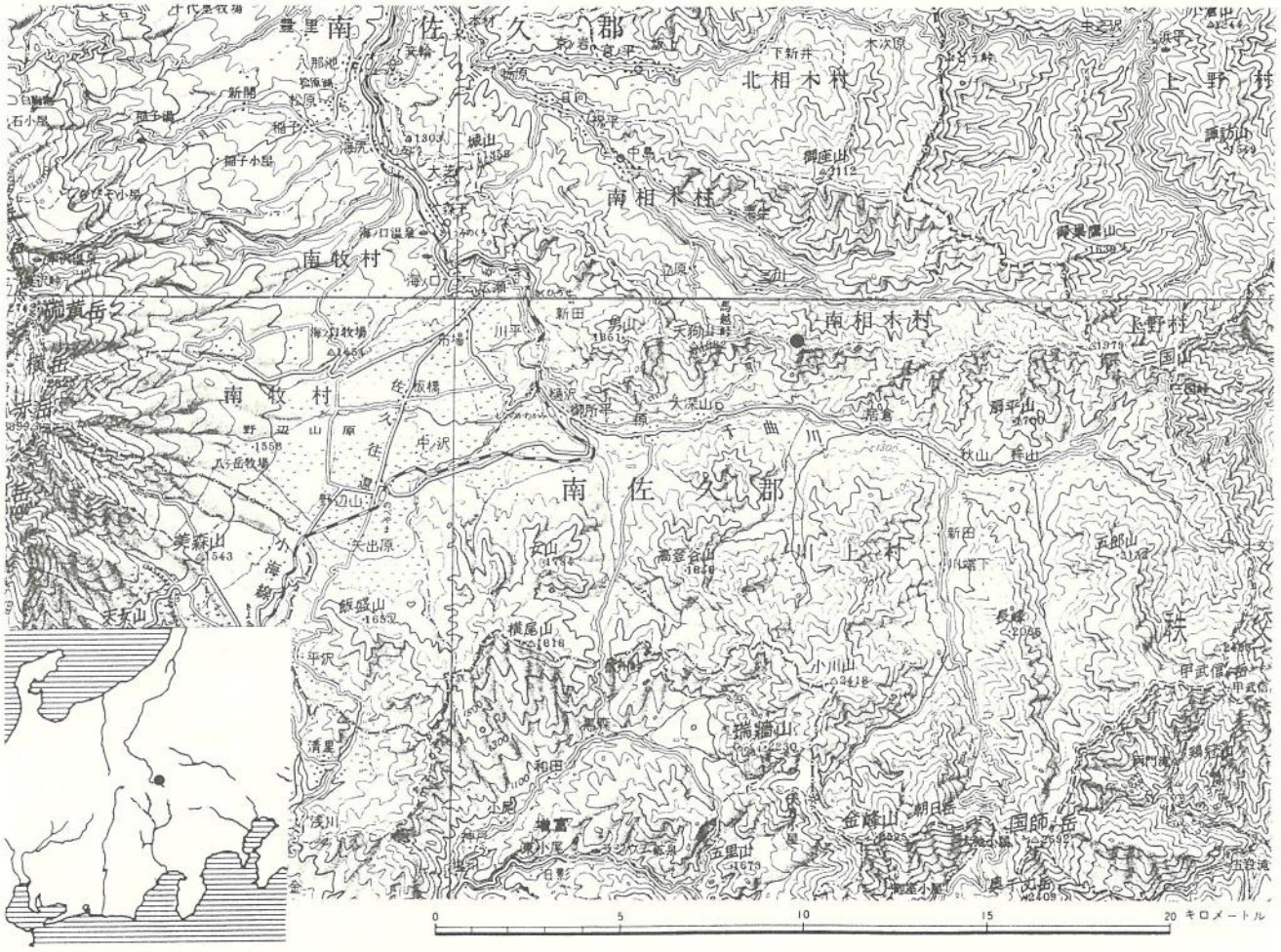
御陵山は長野県南佐久郡川上村にあり、川上村と隣接する南相木村との境にある馬越峠の東方1.3㎞に位置する。秩父山地の甲武信ヶ岳に源流をもち川上村内を西流する千曲川と、南相木村内を西流する千曲川支流の三川の間には東西に延びた山稜があり、東から三国山、御陵山、天狗山、男山等が東西に並ぶ。山稜には川上村大深山と南相木村三川を結ぶ馬越峠、川上村居倉と三川上流を結ぶ大門峠があり、御陵山は両峠の中間地点にあたる。馬越峠から徒歩でおよそ2時間の距離にある。

川上村側から見ると、馬越峠をはさんで左手の険しく荒々しい印象の男山、天狗山に較べ、右手の御陵山は比較的穏やかで女性的な山容を呈し、南麓斜面は緩やかで、高原野菜等の広大な畑地となっている。国史跡として知られる大深山遺跡のある川上村大深山集落の北東、南相木村三川集落の南側にあたり、御陵山山頂の標高は1822.4m、祠地点は1824.0mである。「御墓山」、「御神墓山」とも記され、オミハカヤマと訓じられている。

御陵山の山頂には1822.4mの三角点の標柱がある。その北側約80mの尾根続きには、幅10m足らずの南北に延びた細長い稜線があり、稜線北端のピーク上に小さな高まりがあって、樹齢100年近い1本のヒメコマツの古木が枝をのばしている。祠はその木の根元、西側に設置され、よくみると祠のある部分は直径２～３m、高さ50㎝程度の塚状の高まりを呈している。祠は高さ1.2mの小さな木製の祠で、西側（大深山集落側）を向き、祠の土台には祠を固定するように人頭大の河原石がたくさん積まれている。

川上村および南相木村では、御陵山は盤古王あるいは里仁親王の墓所とも、木花開耶媛命を祀るとも伝えられ、南相木村では「盤古社」「おみはか様」「盤古様」等と呼称されていた。正式な祠の呼称名はなく「盤古社」がふさわしいものの、川上村に「盤古神社」が別にあるので、混乱を避ける意味で本稿では祠を「御陵山社」と呼称することとする。

かつて川上村側と南相木村側では、雨乞いに験のある山として、御陵山の山頂でたびたび神事を挙行したといわれる。御陵山の信仰圏は定かではないが、とくに南相木村側で祭礼の日が定められ、山の神を祀るなど、南相木村でも三川集落を中心とした地域的な山岳信仰と考えられ、今回報告する剣形の中にも「三川」「日向」といった南相木村内の地名を見出すことができる。また現在の祠も南相木側の建立と伝えられる。したがって南相木村側からの信仰を主とし、反対側の川上村大深山地区でも雨乞いに利用したのであろう。



第１図　御陵山の位置

祠のある尾根上は西側が切り立った断崖となり、周囲の見通しがよく、三川・大深山集落をはじめ、西側は天狗山、男山の先に雄大な八ヶ岳を望み、南には信仰の山として知られる金峰山を眺望できる。

Ⅲ．調査経緯

2003年５月10日、信藤は御陵山調査を思い立ち、御陵山の御陵山社の祠を訪ねた。祠は尾根上にあって長年の風雨にさらされてきたため、屋根のトタンは半分ほど欠け、壁の一部は板を失っていた。正面の両開きの扉を開けると、中には無雑作に大量の鉄製品が詰め込まれていた。床は抜けかけた状態で、床下にも鉄製品がこぼれ落ちていた。鉄製品は剣形、刀形を主とする奉納品であったが、それらの中に薙鎌が相当数含まれているのが直ちに判明し、きわめて重要性の高い一括資料であることが直感された。資料は奉納状態を示す原位置をとどめていないという判断により、祠内から出されたため、祠内の収納状況に関する図面、写真は残念ながらない。信藤は資料報告のため、図化して直ちに返却する予定で、ほとんどの資料を借用して下山した。

御陵山資料は当初、信藤個人で報告する予定であった。しかし薙鎌以外にも興味深い資料が多数あり、とくに剣形鉄製品には線刻で地名、記年銘資料が含まれていたことから、全ての資料をクリーニングしたうえで実測作業をするため、全資料が山梨文化財研究所に持ち込まれた。報告に向けて以下の3名が共同で作業を進めることとなった。

信藤祐仁（甲府市教育委員会）
櫛原功一（山梨文化財研究所）
望月秀和（一宮町、現笛吹市教育委員会）

クリーニングは望月が行い、汚れやサビを硬めのブラシで擦り落とした。櫛原、望月が実測・トレースを進め、初鹿野博之（東京大学大学院）、土屋健作（帝京大学学生）の協力を得た。その後、薙鎌の

第２図　御陵山とその周辺

写真を望月が、観察表作成を望月、櫛原が初鹿野の協力を得て行った。

補足調査を２回実施した。１回目は2003年９月９日、櫛原・望月が川上村教育委員会に出向き、祠資料を借用・実測・報告する件に対する許可を得たのち御陵山に登り、信藤が残してきた残りの資料を借用した。また祠内周辺に散在した資料も、表面に見える範囲で調査を行い、写真撮影したうえで取り上げ、借用した。同日、下山した後、南相木村教育委員会で事情説明と御陵山についての資料の有無についてうかがい、『南相木村誌　南相木の民俗習俗』に御陵山の雨乞い神事のことが詳述されているのを知った。また三川集落にて御陵山についての祭事の現状、かつての祭事の話を聞き取りすることができた。

２回目は2004年４月10日、櫛原ほか萩原忠、塩谷風季（帝京大学学生）の協力を得て、光波測量機を山上に持ち上げ、三角点を基点とした地形測量を行うとともに、御陵山社の祠の実測作業を行った。

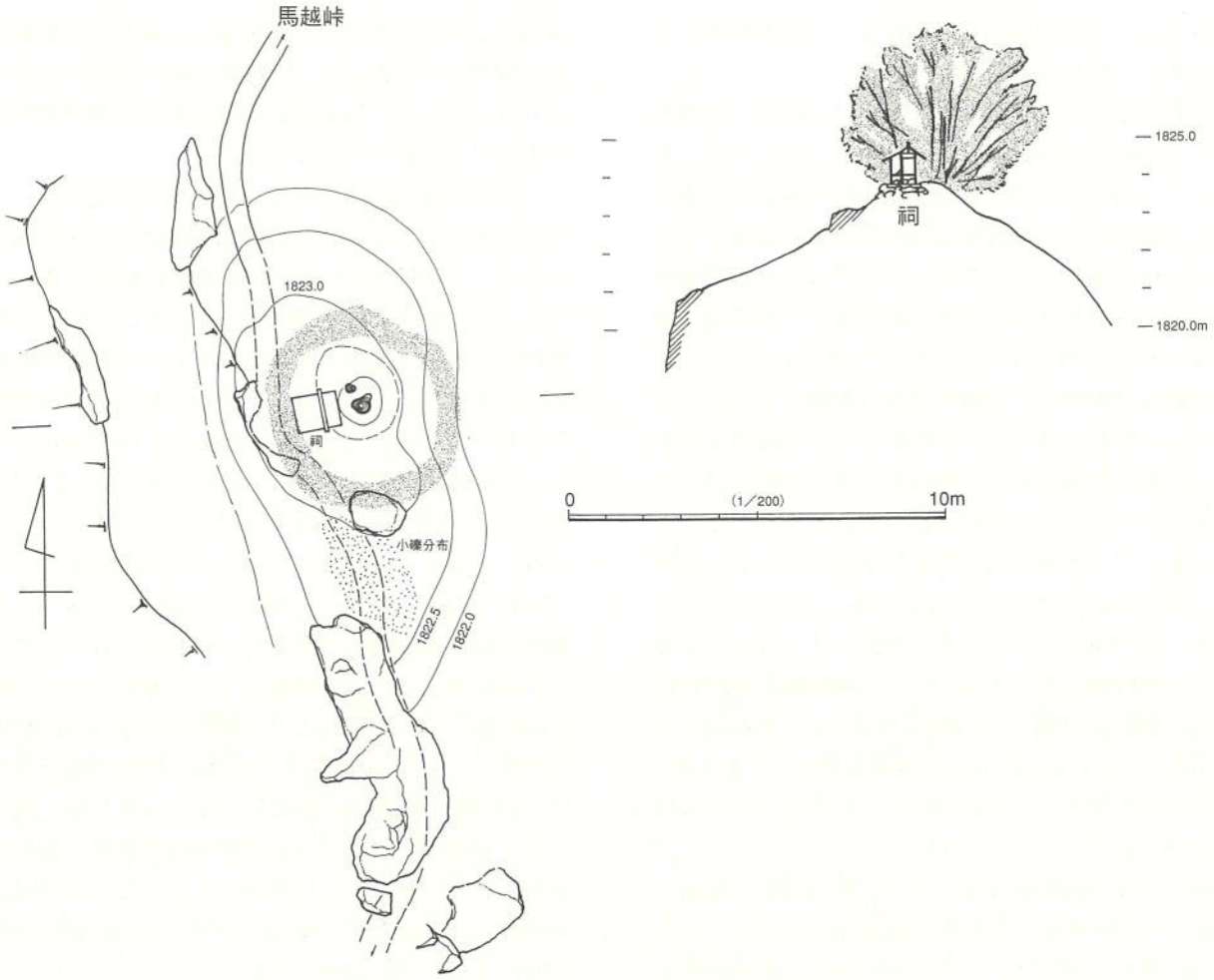
この間、実測作業と並行して、薙鎌を中心に文献資料等を集めた。平成16年（2004）は諏訪大社の御柱祭りということもあって、前年にあたる2003年９月１日に長野県小谷村境の宮で長野県指定無形文化財「式年薙鎌打ち神事」が執り行われ、望月が見学をし、薙鎌についての理解を深めた。

御陵山資料について、櫛原・信藤は『山梨文化財研究所報』第46号で一部資料を提示して概要報告を行った（櫛原・信藤2003）。また薙鎌については甲斐丘陵考古学研究会で報告したほか、山の考古学研究会で簡単な資料紹介を行い、各地の研究者からご教示を得た。また2004年６月８日～７月４日、諏訪市博物館の企画展「御柱と薙鎌―諏訪信仰の表象―」に御陵山の全ての薙鎌が展示、公開された。信藤・櫛原は６月13日に同展示を見学し、新資料を多数見学するとともに、「真光寺本　遊行上人縁起絵」に善光寺門前の社前に描かれた薙鎌図が存在すること、小柳義男氏（前長野県歴史館）が薙鎌研究を進めていることなどを見聞きするとともに、信州大教授の笹本正治氏の講演会「諏訪信仰と薙鎌」に参加した。また７月13日にも櫛原・望月で諏訪市博物館にて薙鎌資料の見学を行っている。

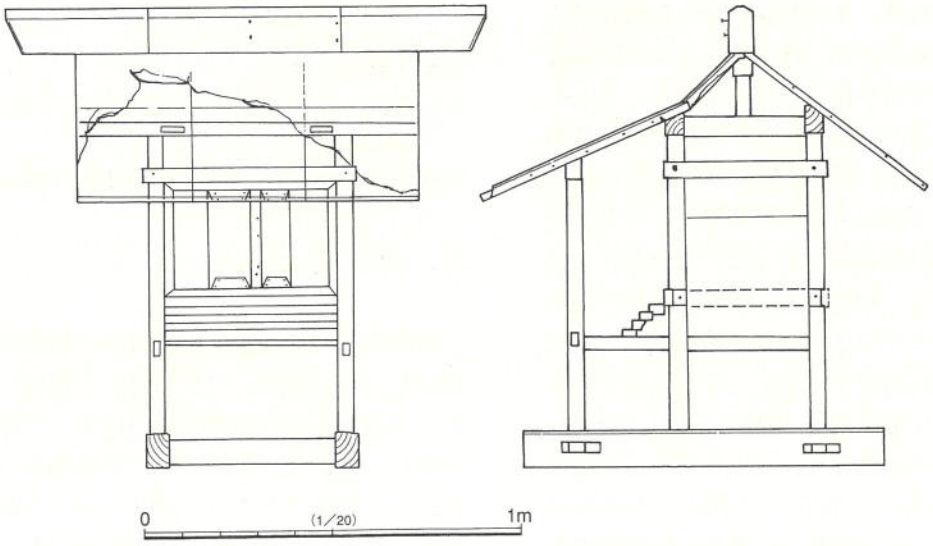
Ⅳ．祠と資料発見状況

御陵山社の祠は木造、切妻造、平入り、桁行、梁間ともに１間で、土台から棟までの高さ122m、庇柱から奥柱まで69cm、軒先幅90×119cm、内部空間は幅55cm、奥行43cm、高さ45cmである。向かって右壁上半の板を失い、裏壁と床ははずれ、骨組みを残して崩壊寸前の状況を呈している。棟と屋根には表面に赤錆びたトタンが貼られ、部分的に黄色のペンキが塗られた形跡があった。トタンは前面約半分が剥がれて欠失し、錆化が進んでいる。また扉の上下の辺もトタンで装飾を兼ねて補強している。土台および階段手前には祠を固定するように楕円礫の河原石が多数置かれていた。尾根部が頁岩を主体とした岩山であるのに対し、祠に置かれた礫は明らかな搬入礫で、『南相木村誌』によれば、川上村側で持ち上げたものといわれる。祠の扉前には「御陵山1822m」と記された山頂を示す表示板が置かれている。祠地点の標高は1824.0mである。

御陵山社の呼称名としては南相木村側で「おみはか様」と呼ぶのが通例で、「盤古社」「里仁親王祠」とも呼ぶ。川上村側での呼称名はなく、「盤古社」とも呼ばない。つまり川上村には「盤古神社」が大深山熊久保地籍に、「盤古奥宮」がその尾根の岩上にあり、大深山の雨乞いの神とされているからで、御陵山社は南相木村の帰属として川上村側では年中行事としての祭りは行っていない。『川上村誌』大深山地区文書には寛延７年（1749）を最古例とする盤古神社関連の記録が見られ、江戸時代後期以降、たびたび祭事が執り行われた。祭事の内容は不明であるが、９月９日が「盤古大王祭礼」日であったことがわかる。1800年代には盛んに「雨越」（雨乞い）の記録が登場することから、1800年代頃より雨乞いを主とした祭事が盛んになったことが判明する。ここでいう「盤古大王」社は大深山地内の盤古神社を指していると考えるのは自然である。南相木村側では盤古社が御陵山を指すのに対し、川上村側では御陵山ではなく、盤古神社といえば、千曲川対岸にある大深山地内の盤古神社、奥宮のことである。祠に関して、大深山地区文書に嘉永７年補修の記事があるが、これも盤古神社を指すと思われる。御陵山社は、現存の祠が古くからのものを昭和に入って改修した可能性もないわけでもないが、トタンを用いるところから昭和に入ってからの新調と考えられ、『南相木村誌』によれば三川集落建立と記されている。現在、南相木村三川地区では御陵山社を山の神



第３図　御陵山祠周辺図



第４図　御陵山祠

として祠り、秋まつりを行っている[1]。雨乞いの祭事として、八ヶ岳白駒池の水を奉納するというものであったが、今日では山上ではなく、三川の川沿いで形を変えて行われているという。

雨乞いとは別に『南相木村誌』によると、南相木村三川集落では5月3日が「おみは（や）か様」の祭日で、山の神様である御陵山の里仁親王祠（本稿でいう御陵山社）に男衆が供え物をもって詣でるという年中行事がある。また5月5日は「お明神様祭り」で、諏訪神社のお参りの日であり、本来は「おみはか様」と同じ5月3日に行われていたという。諏訪神社と御陵山、薙鎌の存在と関連するものとして大いに注目される。いずれにしても御陵山は主として南相木村側によって祭られ、川上村側では大深山地区で雨乞いのために登拝する程度であったようである。川上村側では、『川上村誌』によると御陵山、盤古奥宮とともに、山頂の神々として天狗山、男山、女山が記されている。天狗山は「雷山」と称し、山頂の祠に毎年5月1日、大深山青年会が登拝する。男山には山上に八幡社を祀り、「大天狗」と称され、女山には山上に山の神を祀り、「小天狗」と称されて男山とともにかつて「天狗まつり」の祭礼が盛んに行われたという。

御陵山社の祠中からは、膨大な量の剣形・薙鎌・刀形・弓形・矢形・筒形の鉄製模造品等が詰め込まれた状態で確認された。それらが本来の奉納状態を示すものかどうかについては、祠自体、昭和の造作とみられることから、古い祠から現在の祠に移す際に動かしたと思われる。また村誌調査等の調査時に出されたと考えられるほか、聞き取りによれば雨乞い祭事の際に剣形を持ち出して麓に下ろす、といったことも行われたようである。したがって個々の奉納品は奉納状態を示す原位置を保った状態ではない。奉納品のうち下部のものは、鉄製品から生じた錆の粉の中に埋もれた状態であった。祠の下の土台石の間や周囲からは、祠の底板の隙間から落ちた鉄製品を採集することができた。鉄製品は全体に錆化が進み、保存状態は良好ではない。なお、ほかにトタン製の御幣の破片があるが、祠内に安置してある。

かつて川上村誌の調査の折、祠内の鉄製品が調査され、村誌「御墓山」の項に、「大深山の人々の雨乞いの山」で、「小祠に百本余の模造鉄剣が奉納されている」こと、両村で祀られていたこと、記年銘資料は天保からで、三川の奉納であることが記され、和鏡1面、剣形4本の写真が掲載された。和鏡は柄のない青銅製と思われる擬漢式鏡で、鎌倉～室町期の所産と考えられる。今回借用した資料中には鏡および剣形の1本はなく、村誌担当の由井港氏に問い合わせたところ、写真は山上で撮影し、鏡などはそのまま戻したとのことであった。

『南相木村誌』のコラム「御陵山への道、今」はさらに詳しい。そこには御陵山が雨乞いの山であったこと、「川上村の人達が登った時には祠を南に向ける、相木の衆が行けば北へ向け」るというように、両村の人たちが祭事のたびに自分たちの集落方向に祠の向きを変えていたこと、祠内には「古人の奉納した剣・刀・鎌が、錆びつき無造作に積まれていた」、「木造祠は南相木建立、台石は川上産」とあり、祠は南相木村で作って持ち上げ、台石は川上村側から持ち上げたことが知られる。さらに鎌の註として「農耕用古鎌ではなく、奉納用のもの」とあり、南相木村誌の調査時点で薙鎌の存在は知られていたことがわかる。さらに在銘資料として剣形「天保□年三川菊池□□」を最古とし、集落名はすべて南相木村であったことが記されている。今回の調査では「三川菊池」の剣形は確認されておらず、鏡、剣形1本と合わせて持ち去られた可能性があり、各教育委員会、村誌編纂室にはないとのことで、それ以上の所在の追及はしていない。なお、南相木村誌調査の際にすでに鏡はなかったという。

註

1）南相木村猿田眞弘氏ご教示。

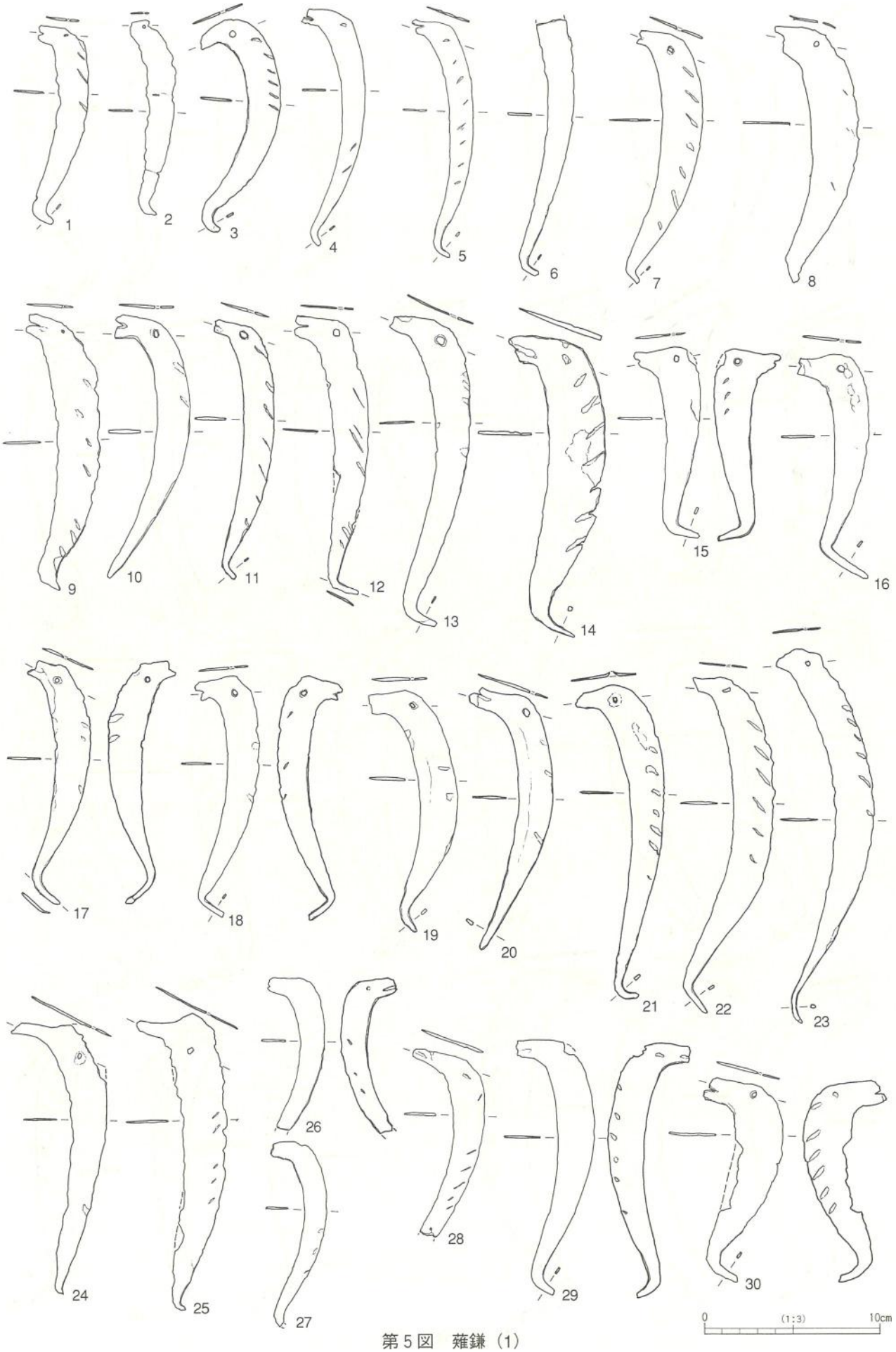
引用・参考文献

川上村誌刊行会　1994『川上村誌資料編　大深山・原林野保護組合文書』

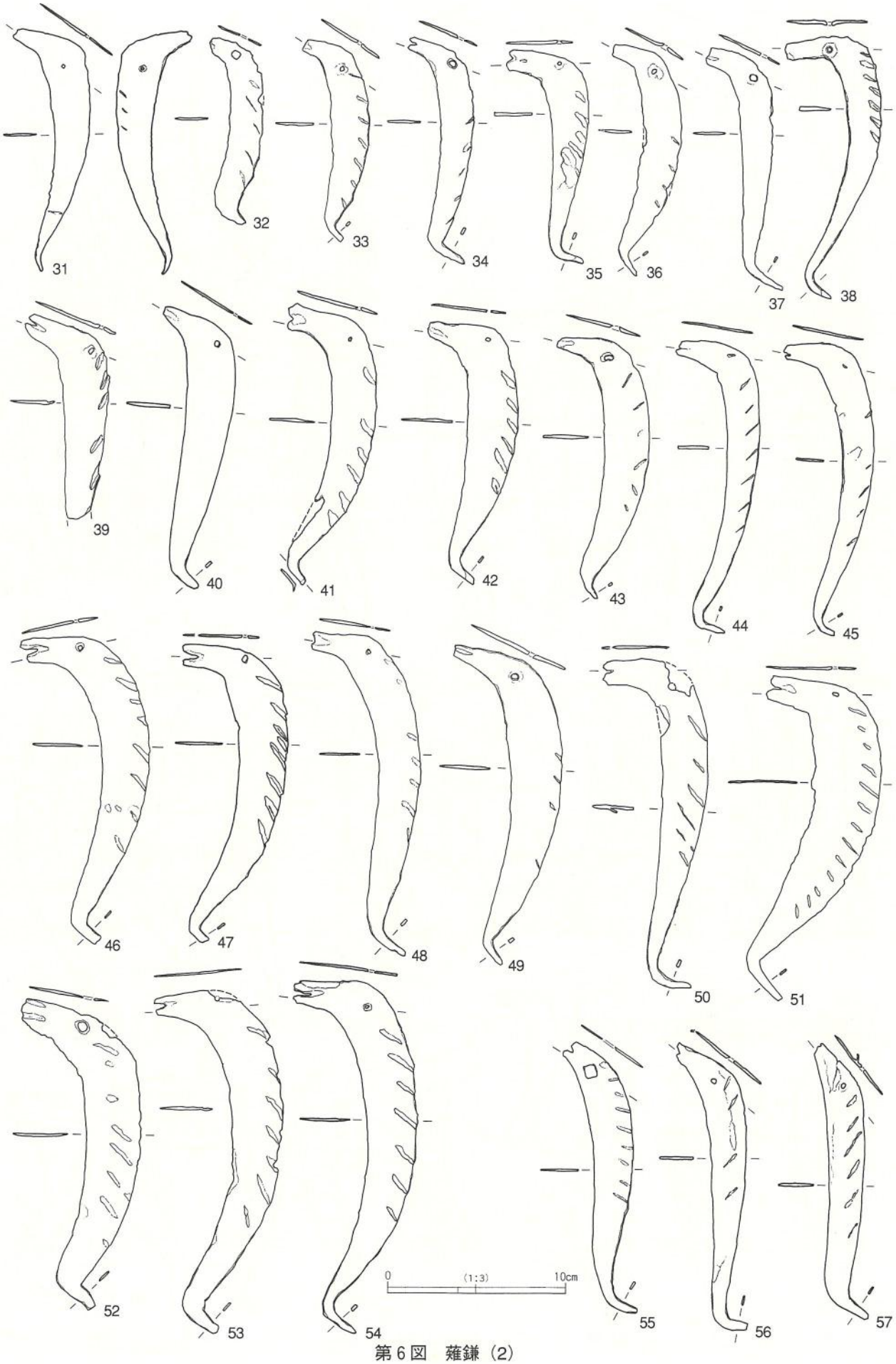
南相木村教育委員会　2003『南相木村誌　南相木の民俗習俗』

V．遺　物

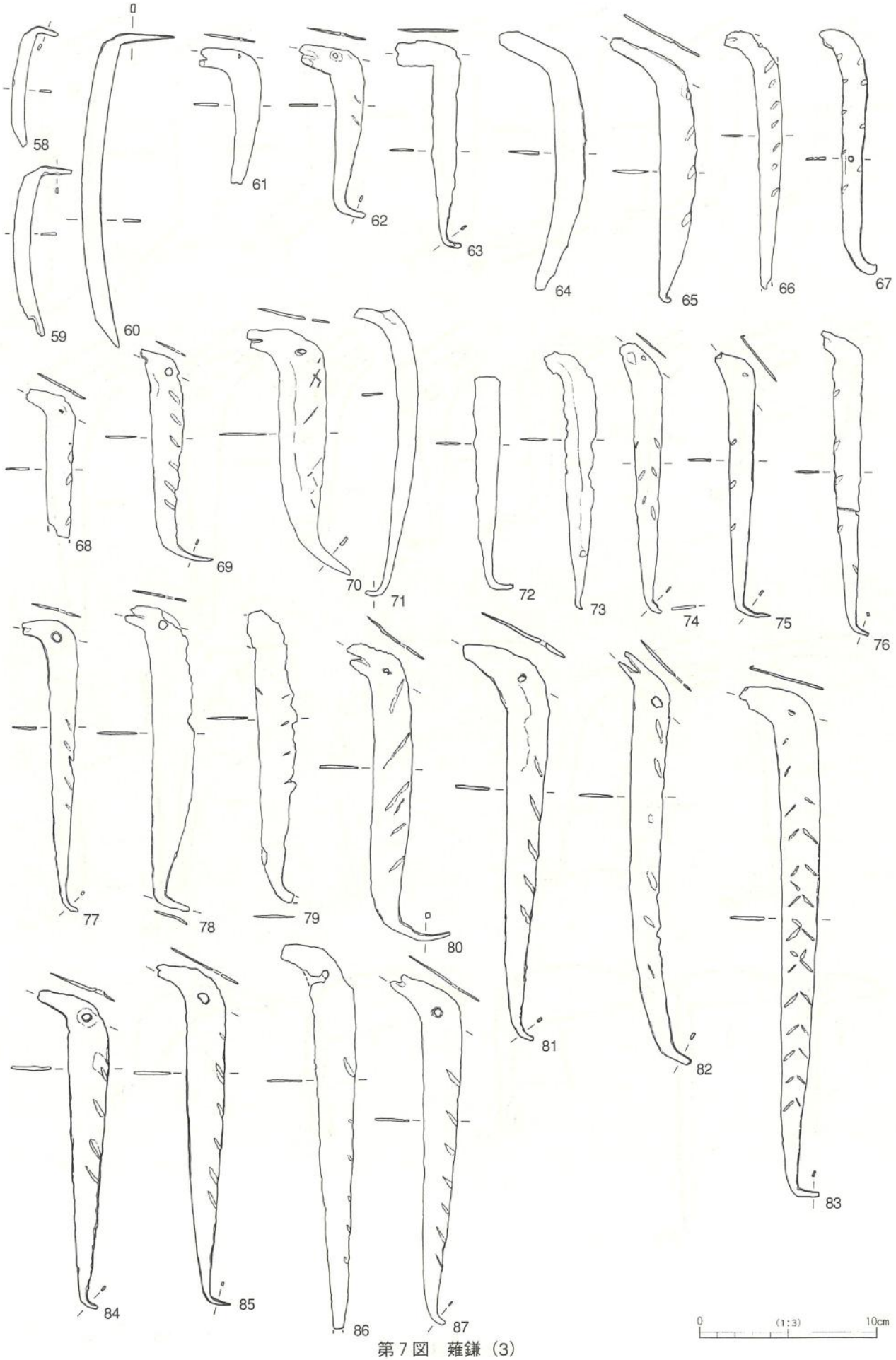
御陵山社の信仰遺物の内訳は、薙鎌112点、剣形458点、刀形150点、弓形19点、矢形5点、容器形44点、容器形底部の円板30点のほか、釘8点、鋸1点、古銭2点、鈴1点、鏡形1点、不明鉄製品1点、木製剣形1点の計833点である。それらのうち薙鎌、刀形、剣形、弓形、矢形、容器形鉄製品に限ると788点で、割合的には多い順に剣形（58%）、刀形（19%）、薙鎌（14%）、容器形（5.6%）、弓形（2.4%）、矢形


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
0
(1:3)
10cm

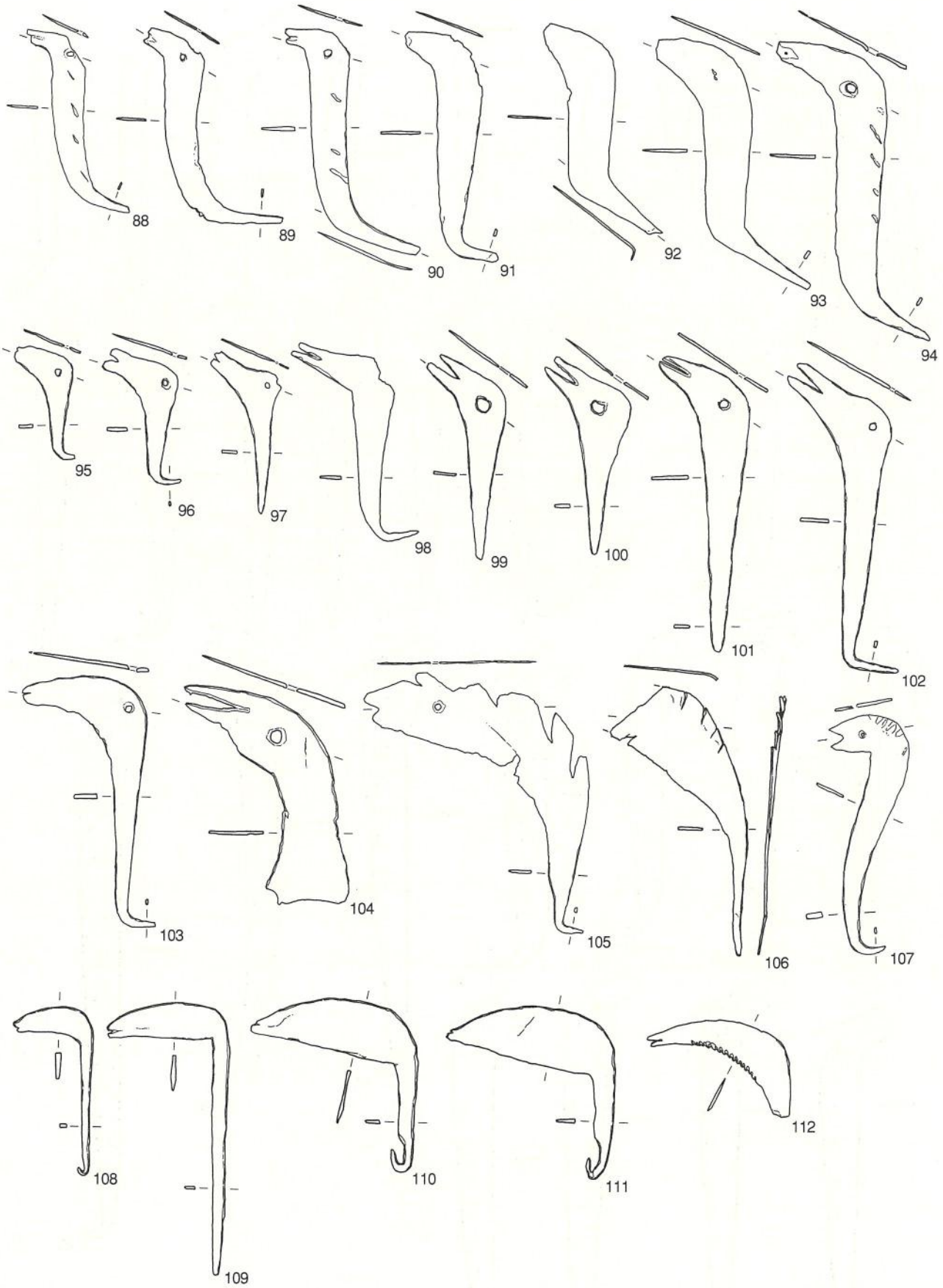
第５図　薙鎌（1）


31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
0
(1:3)
10cm

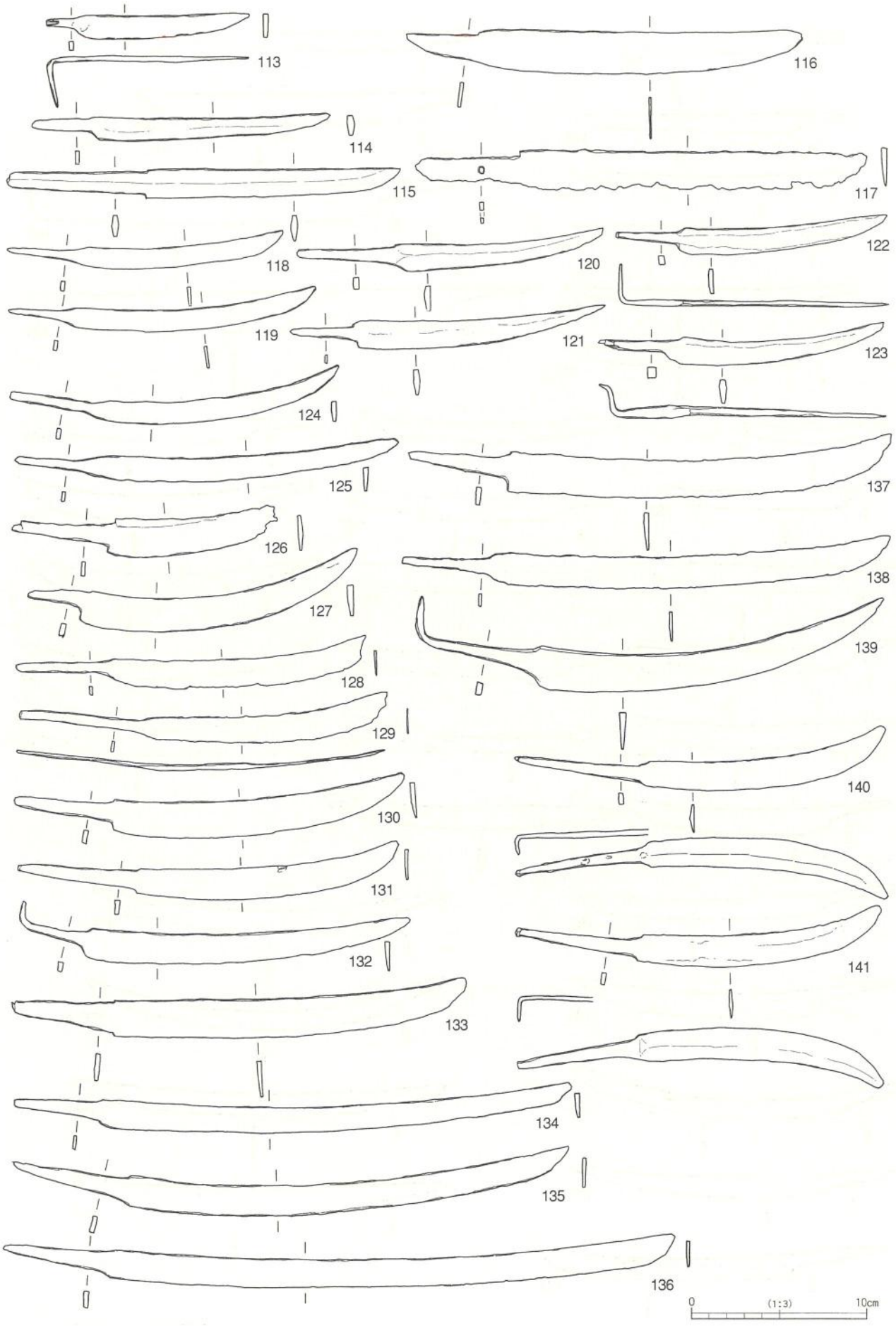
第６図　薙鎌（2）


58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
0
(1:3)
10cm

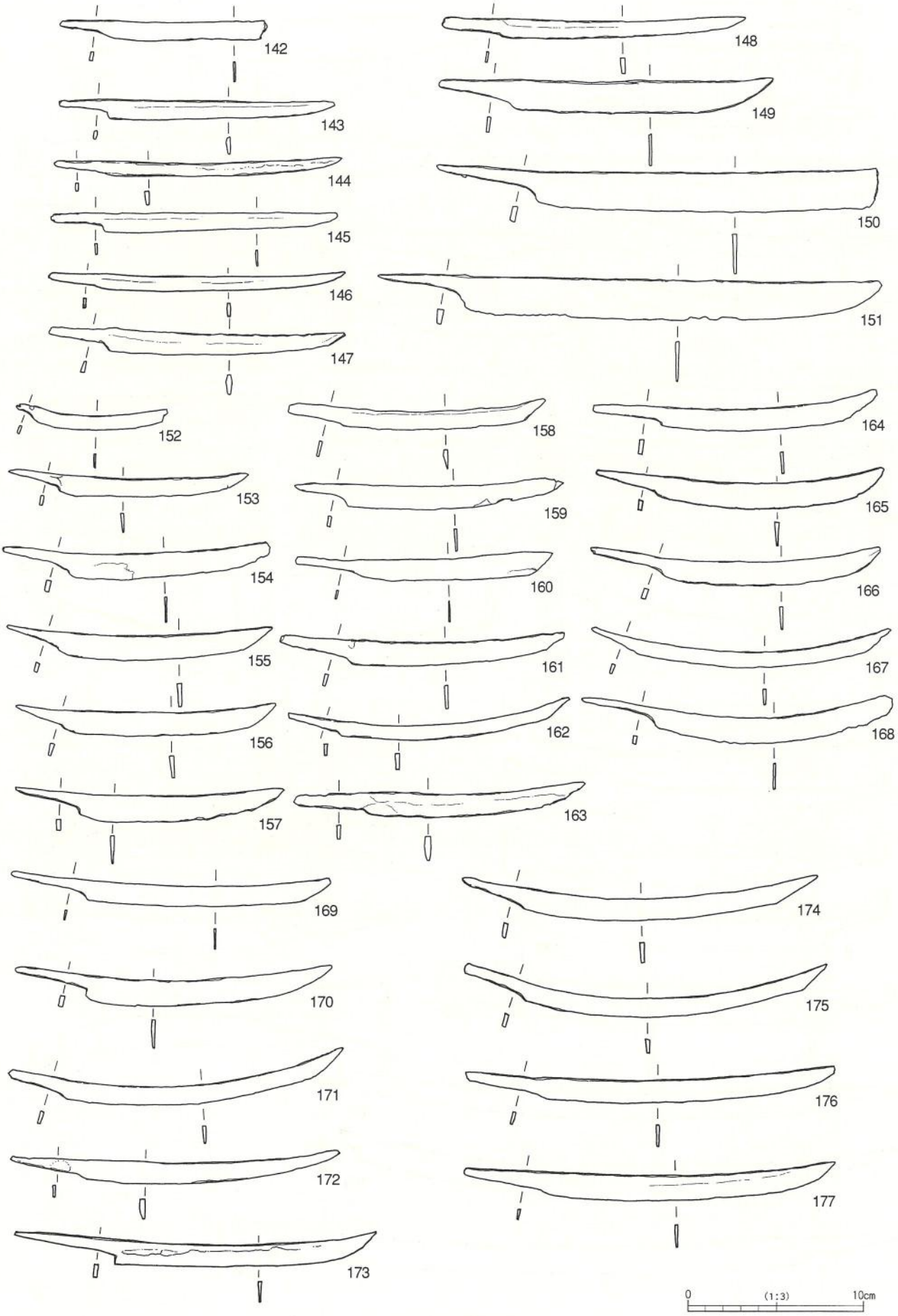
第７図　薙鎌（3）


88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
0
(1:3)
10cm

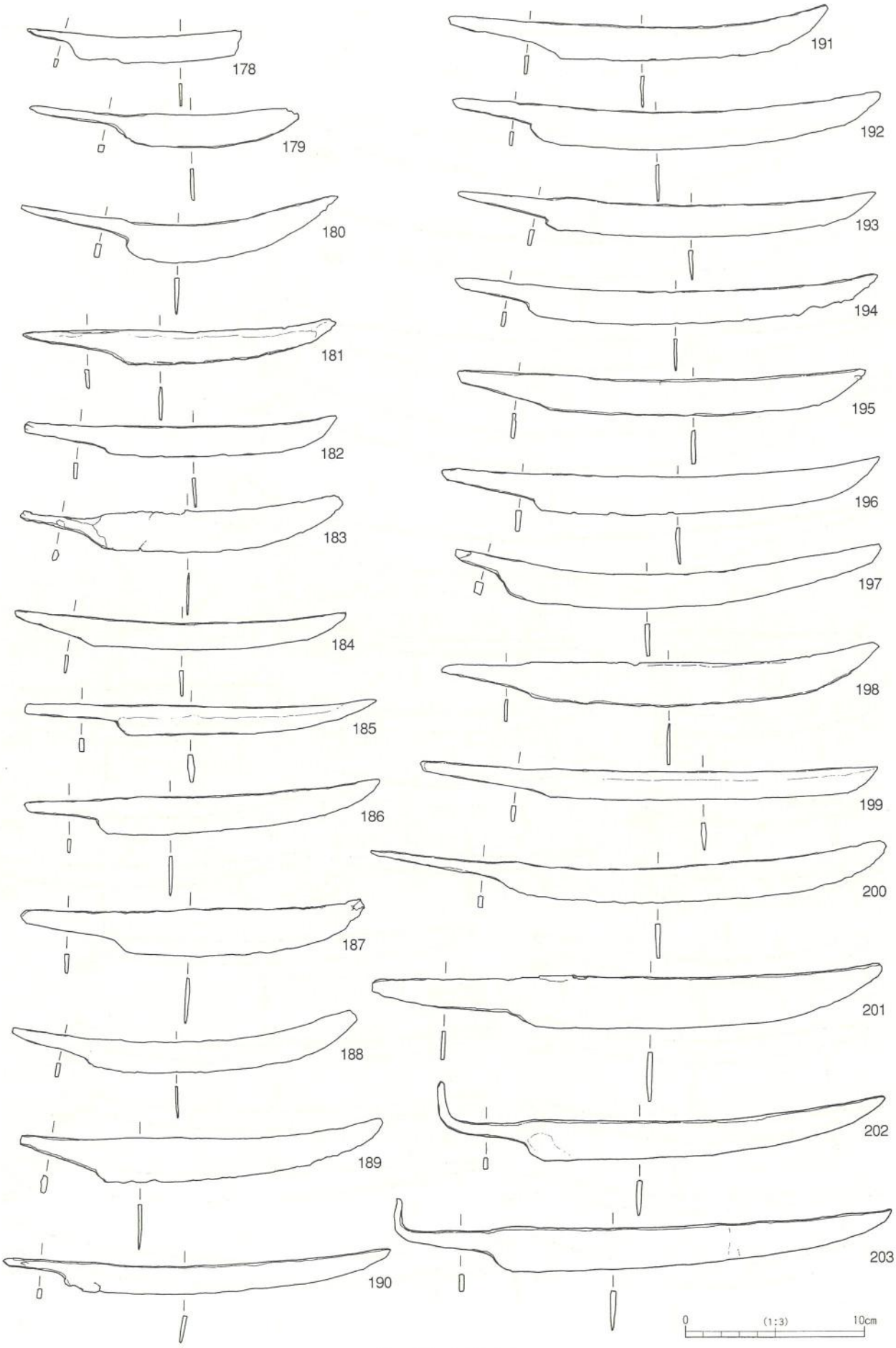
第8図　薙鎌（4）


113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
0
(1:3)
10cm

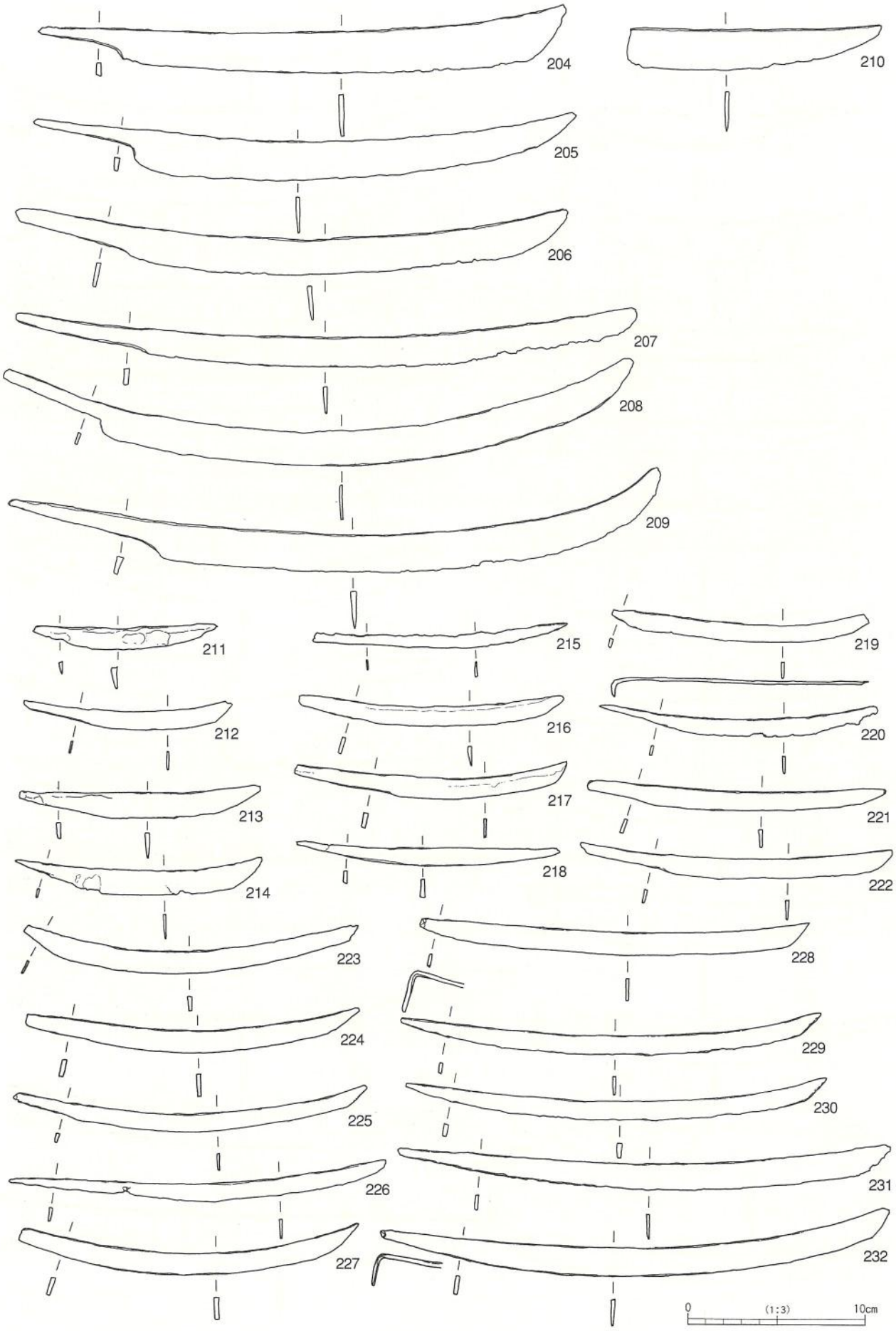
第９図　刀形（1）


142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
0
(1:3)
10cm

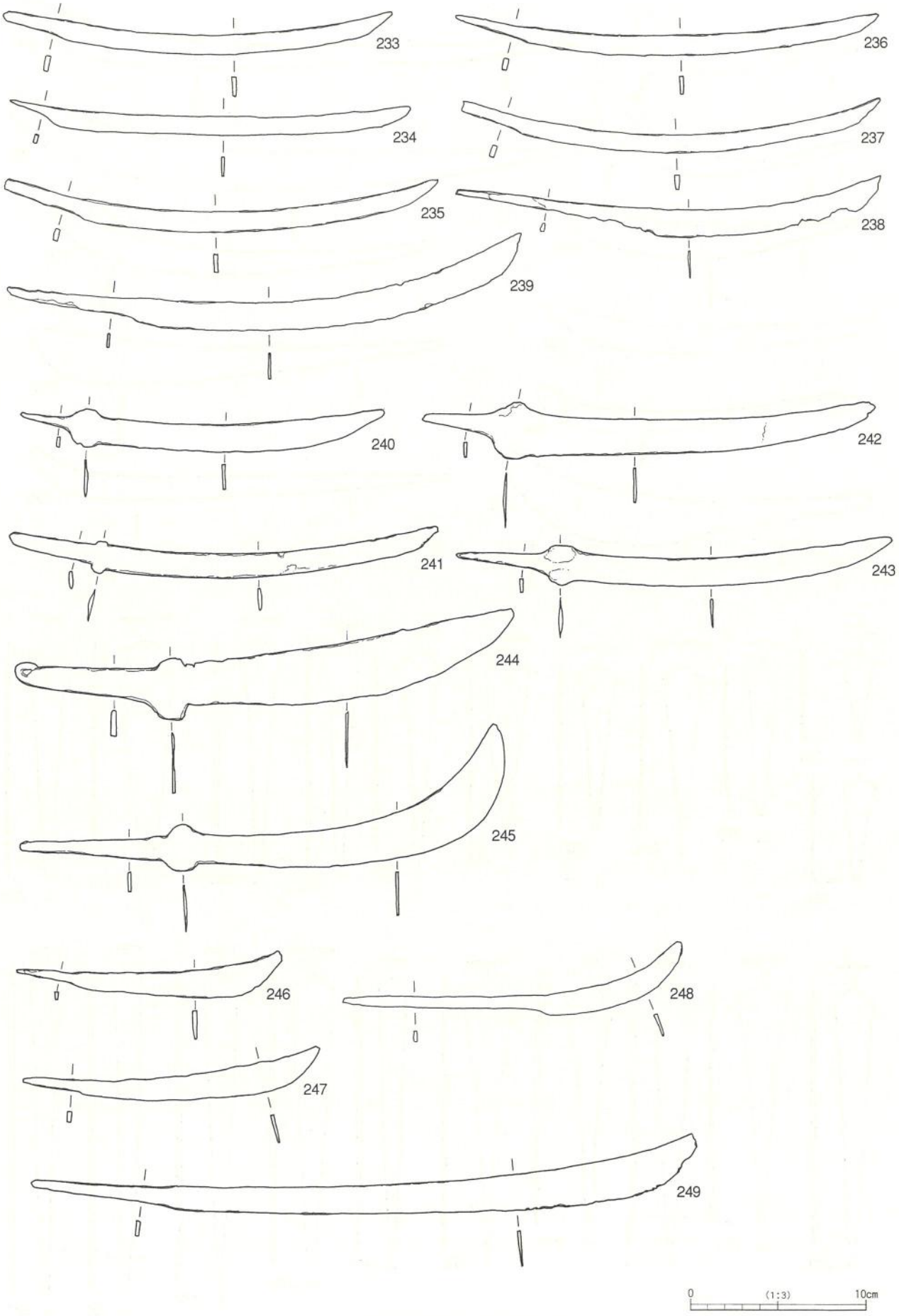
第10図　刀形（2）


178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
0
(1:3)
10cm

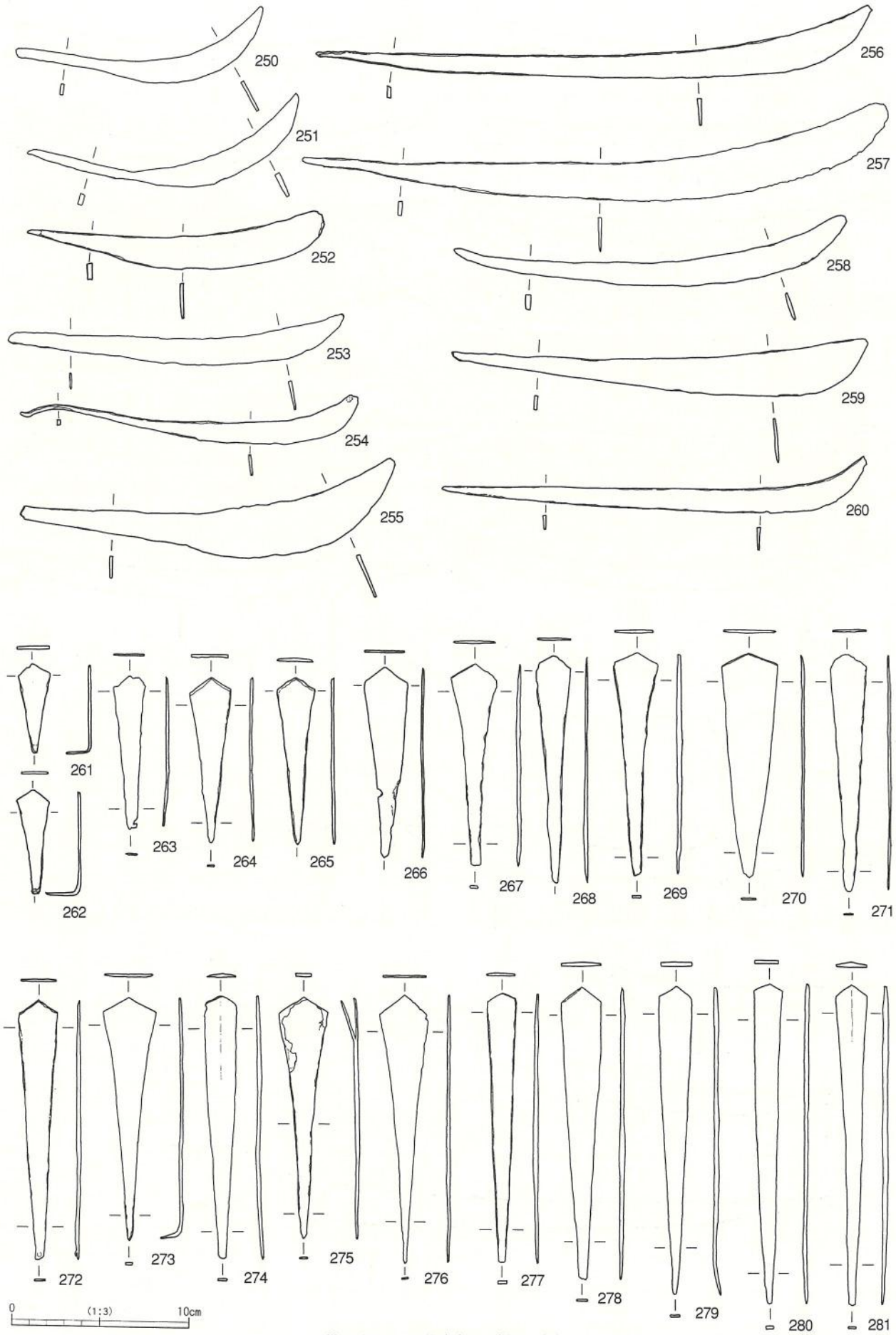
第11図　刀形（3）


204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
0
(1:3)
10cm

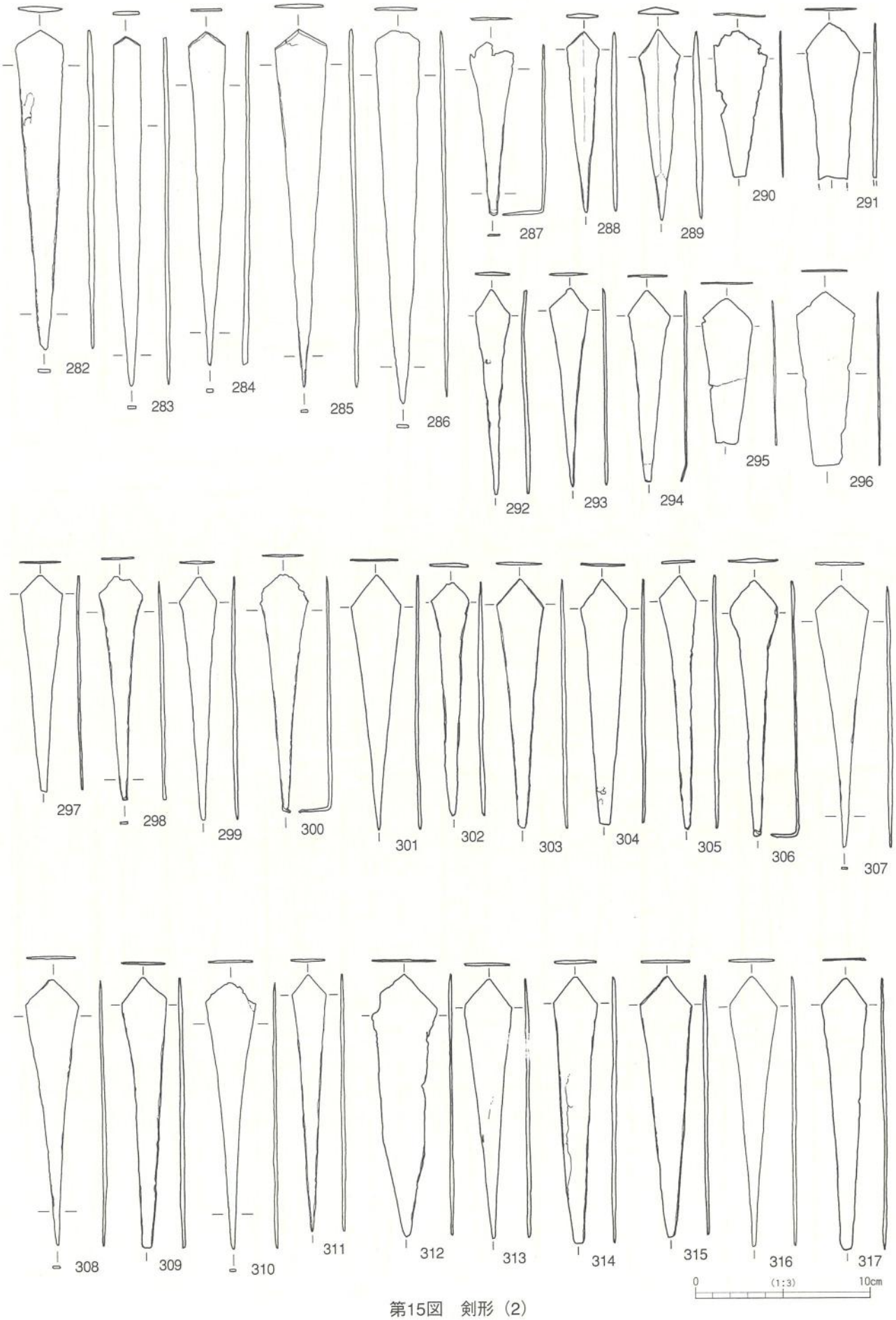
第12図　刀形（4）


233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
0
(1:3)
10cm

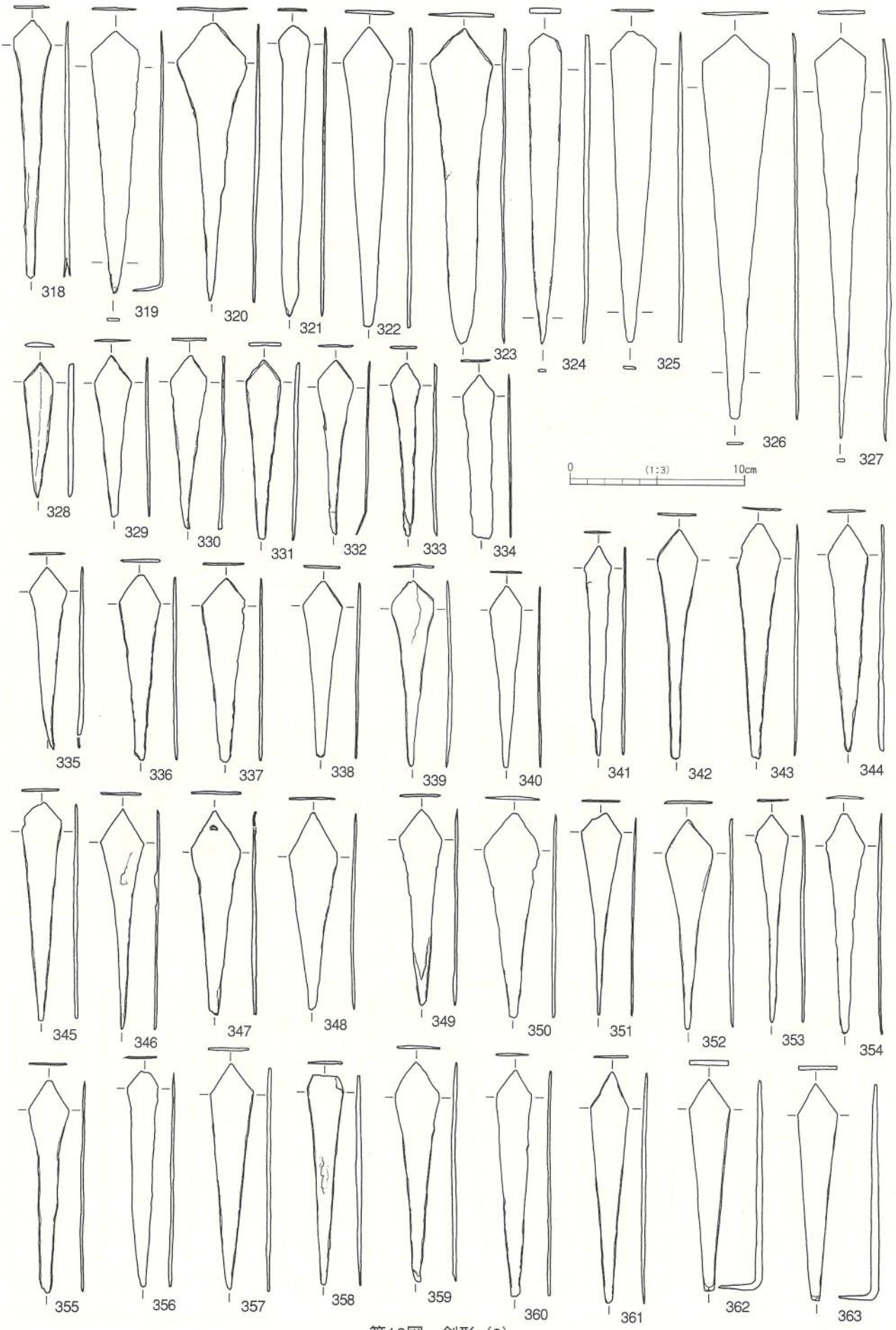
第13図　刀形（5）


250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
0
(1:3)
10cm

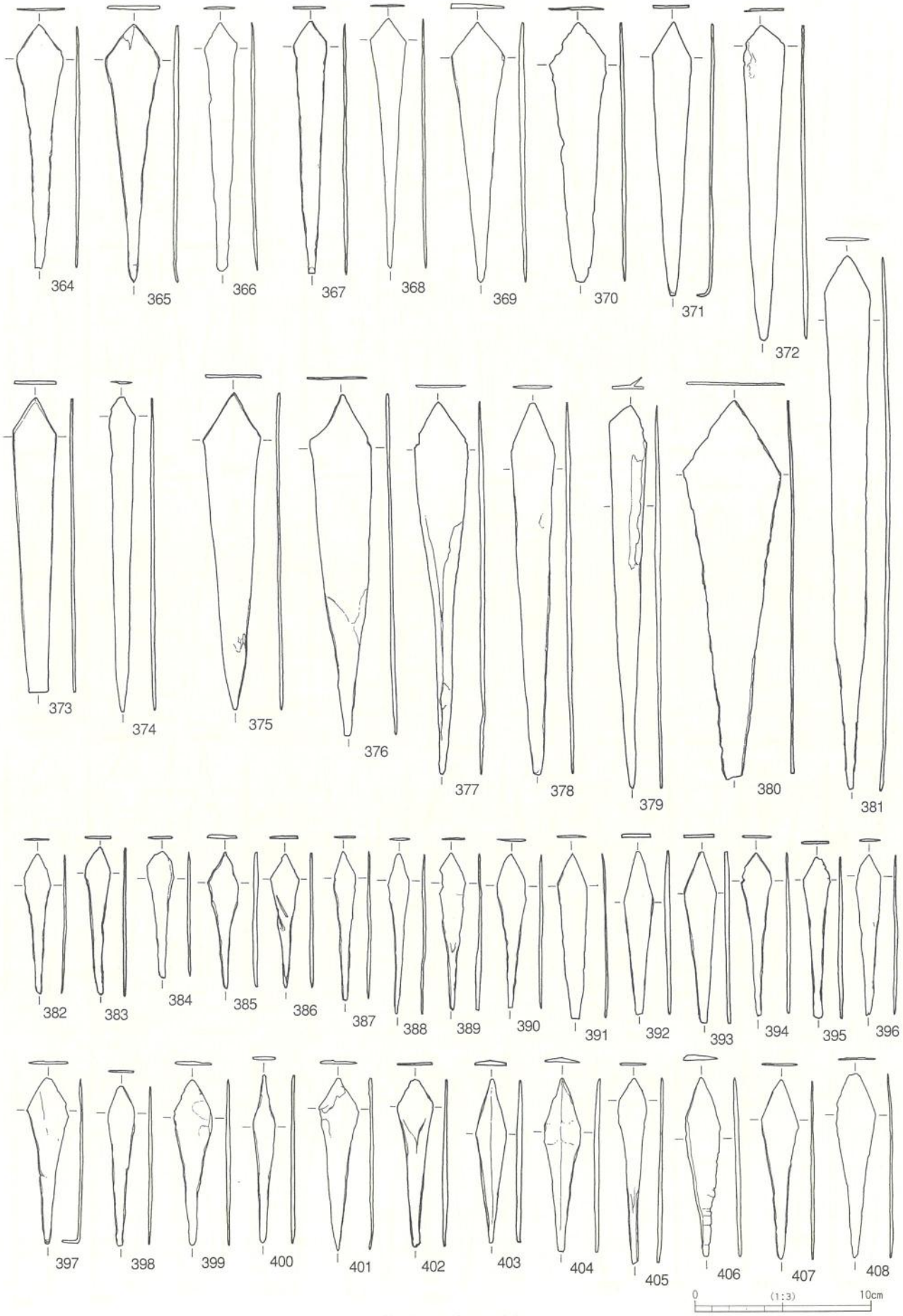
第14図　刀形（6）・剣形（1）


282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
0
(1:3)
10cm

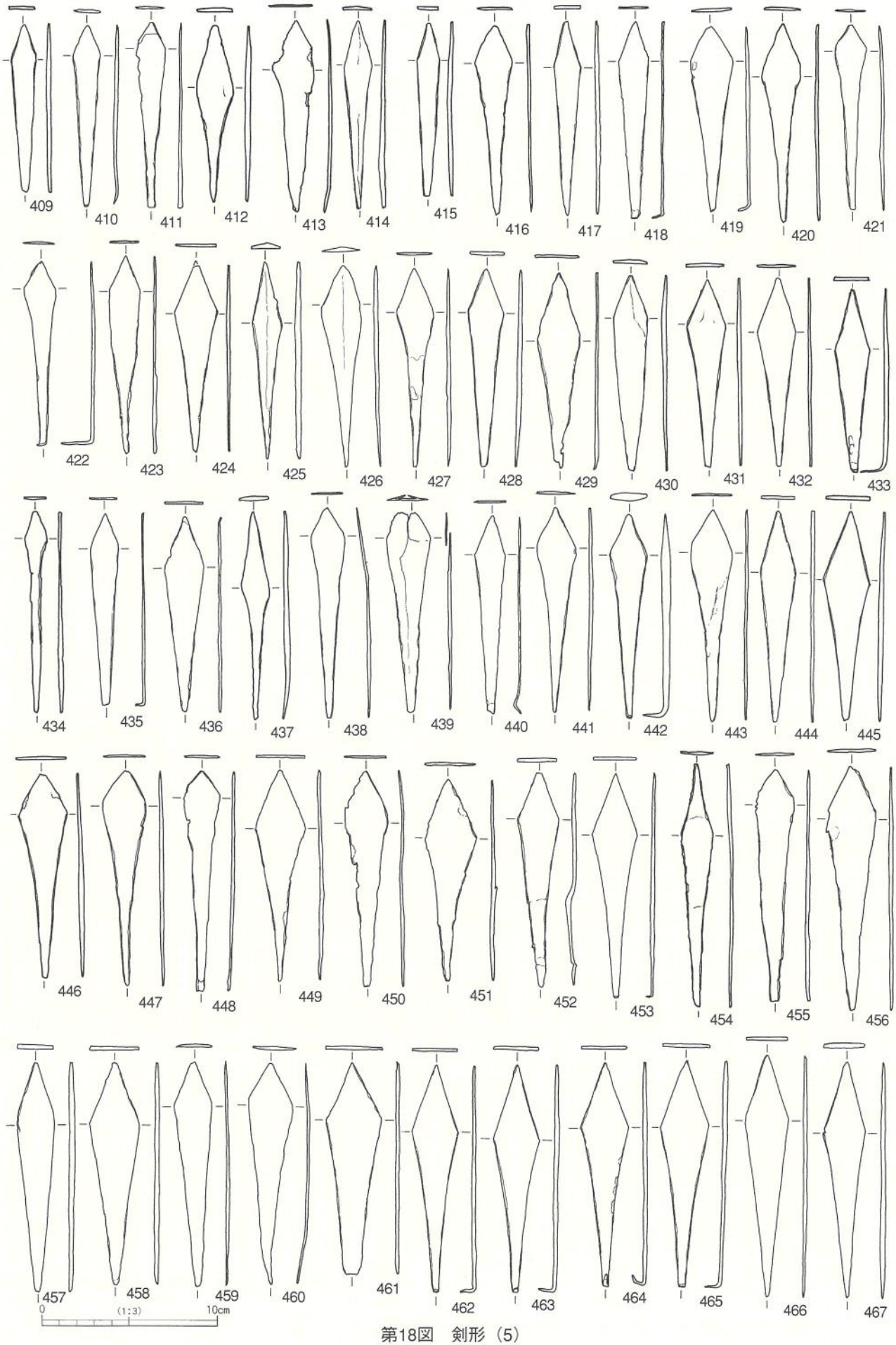
第15図　剣形（2）


318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
0
(1:3)
10cm
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363

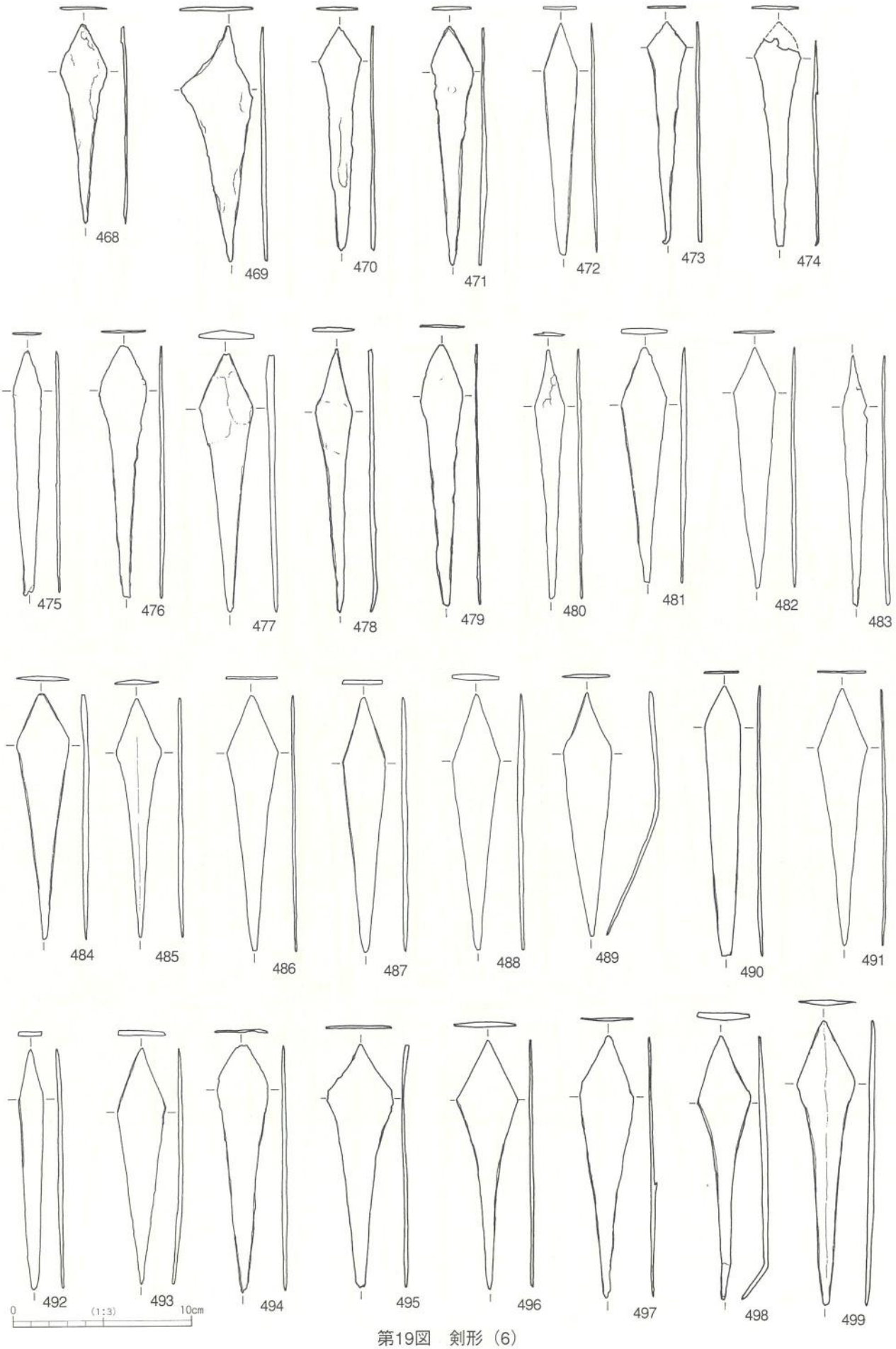
第16図　剣形（3）


364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
0
(1:3)
10cm

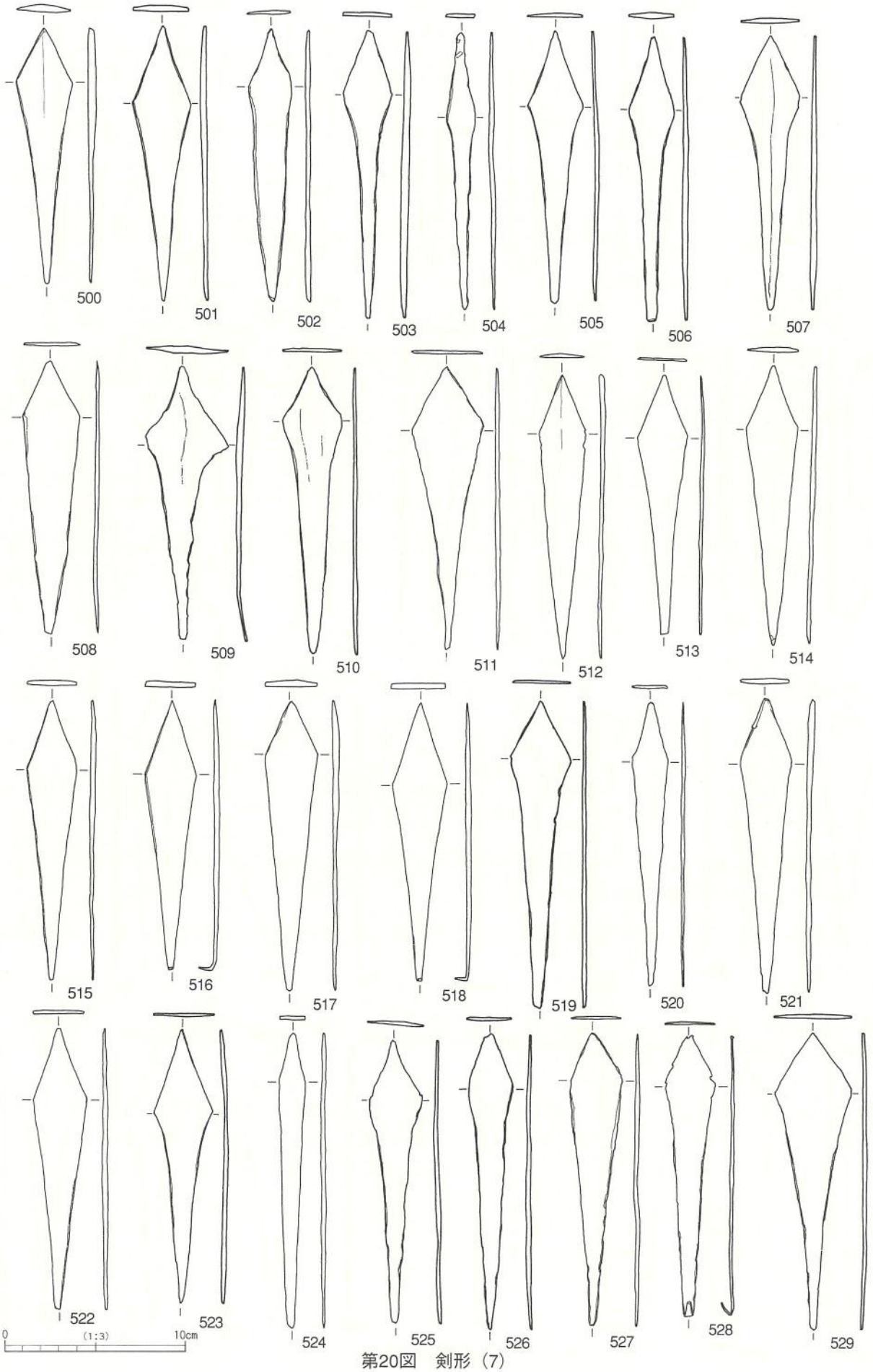
第17図　剣形（4）


409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
0
(1:3)
10cm

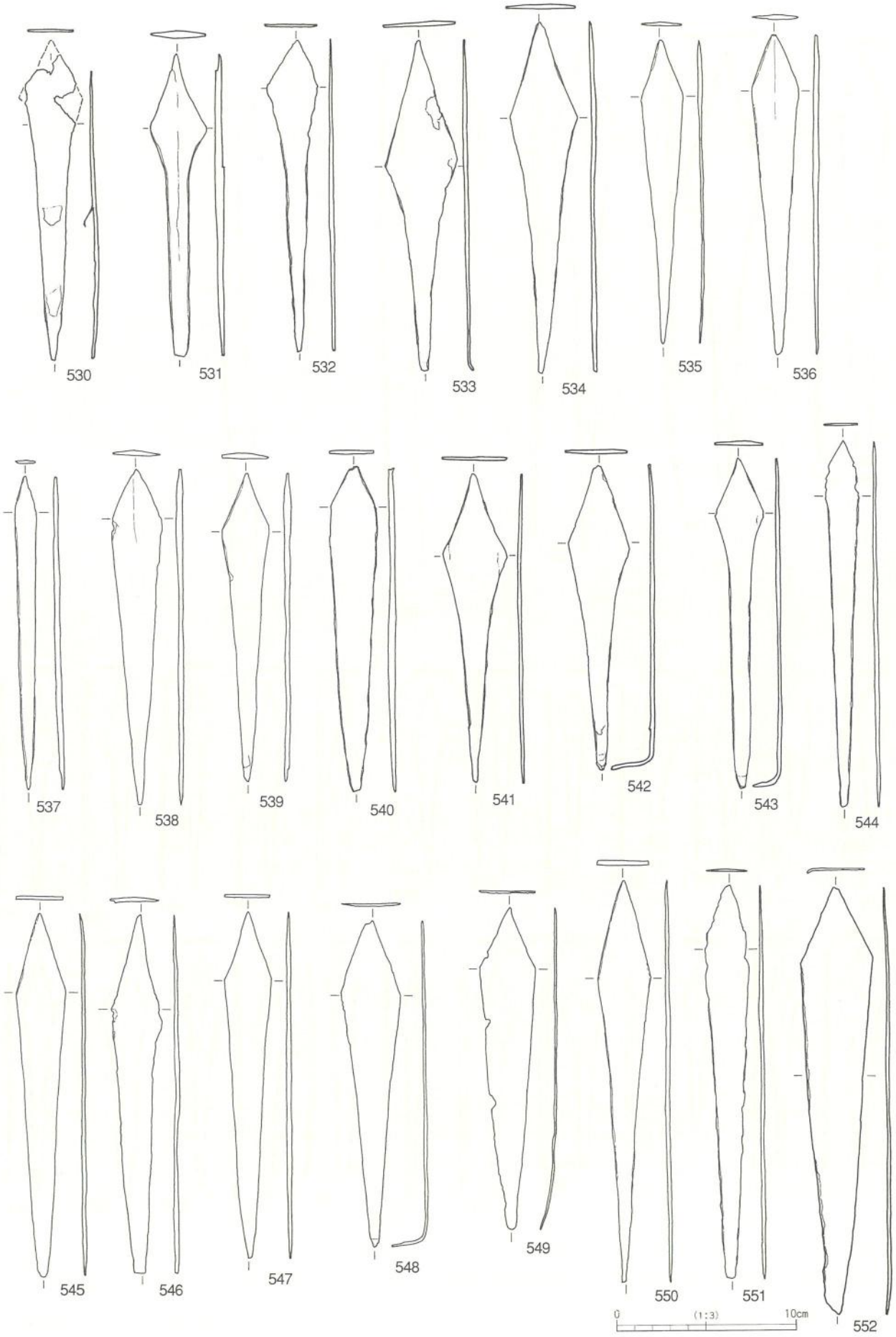
第18図　剣形（5）


468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
0
(1:3)
10cm

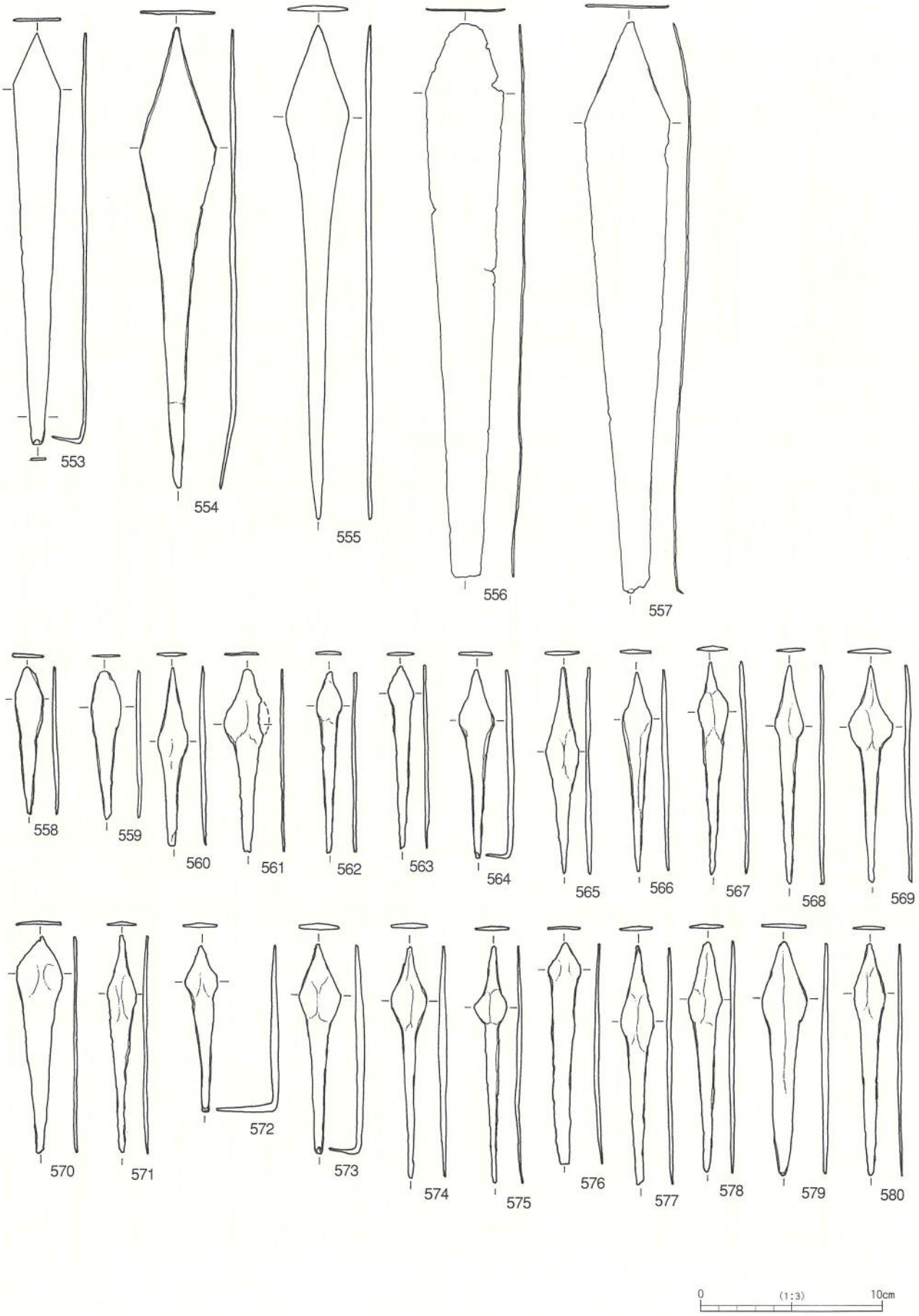
第19図　剣形（6）


500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
0
(1:3)
10cm

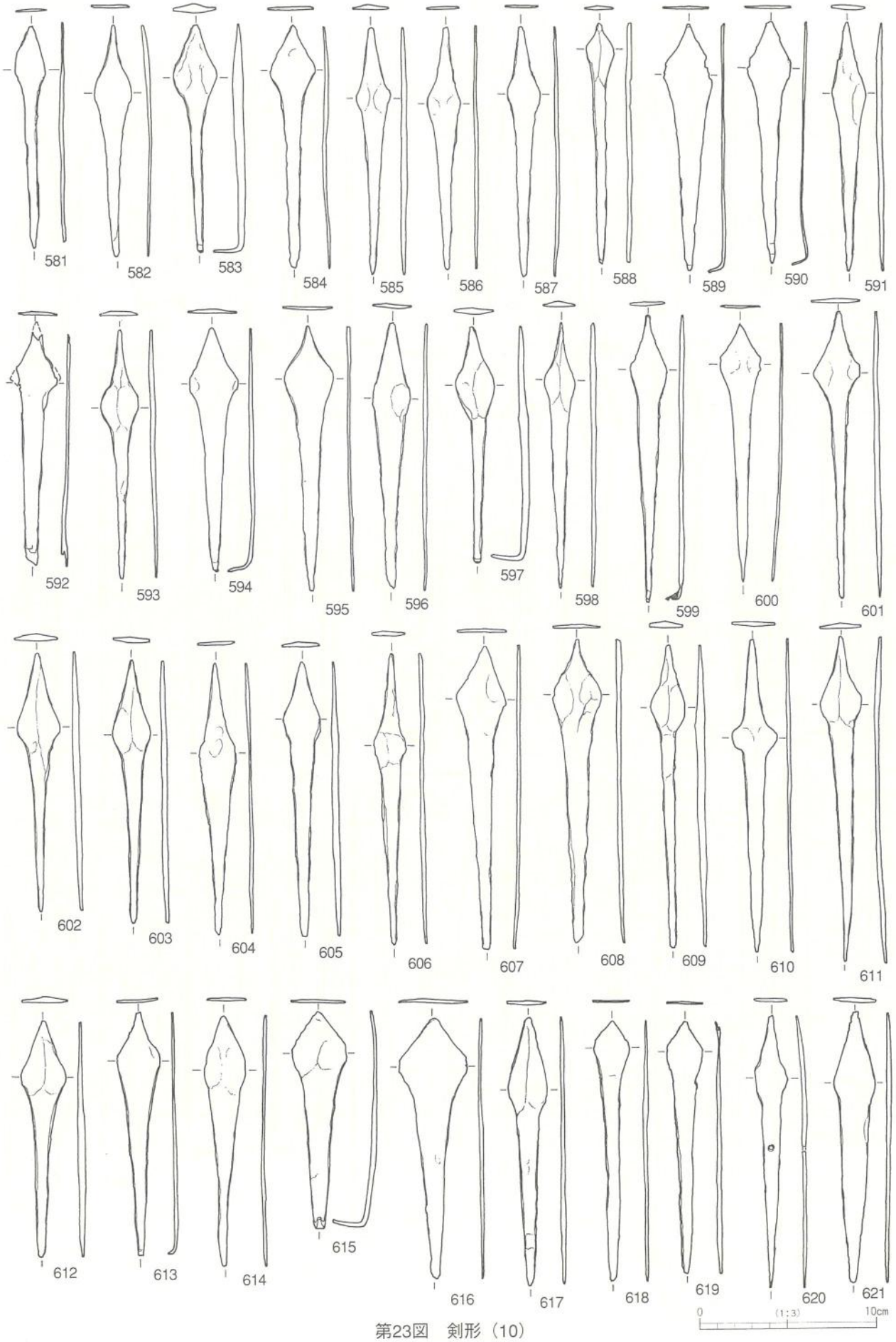
第20図　剣形（7）


530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
0
(1:3)
10cm

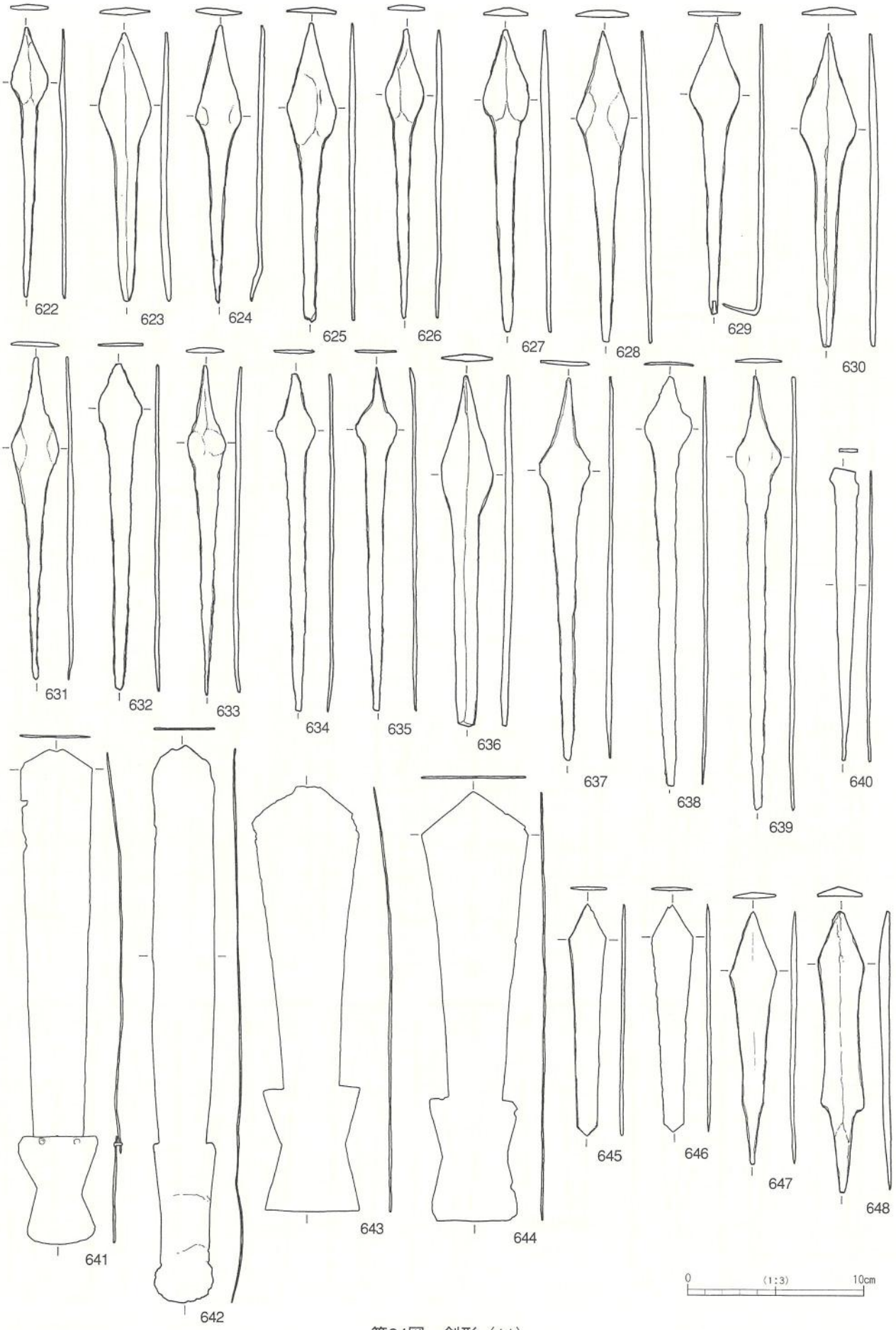
第21図　剣形（8）


553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
0
(1:3)
10cm

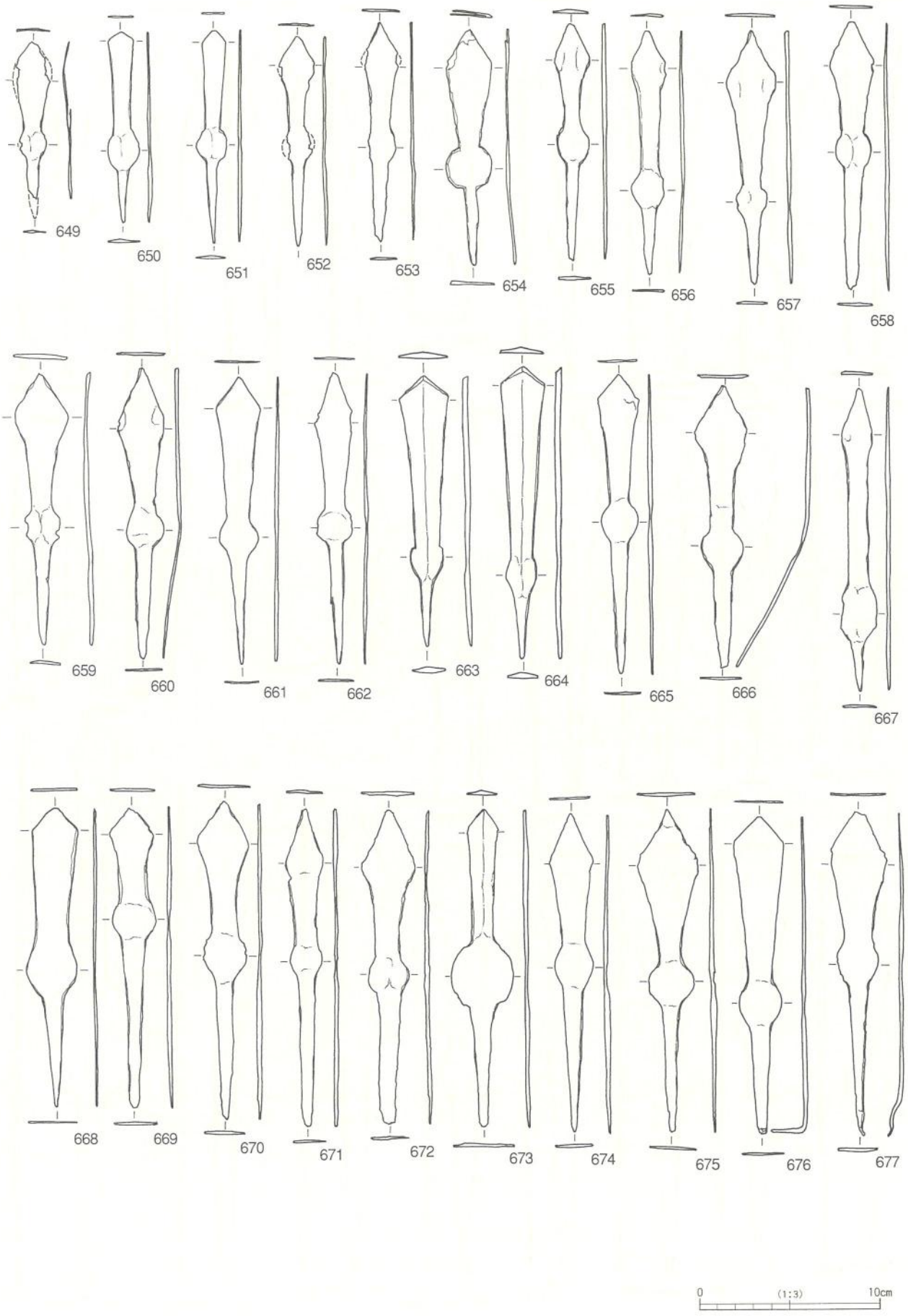
第22図　剣形（9）


581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
0
(1:3)
10cm

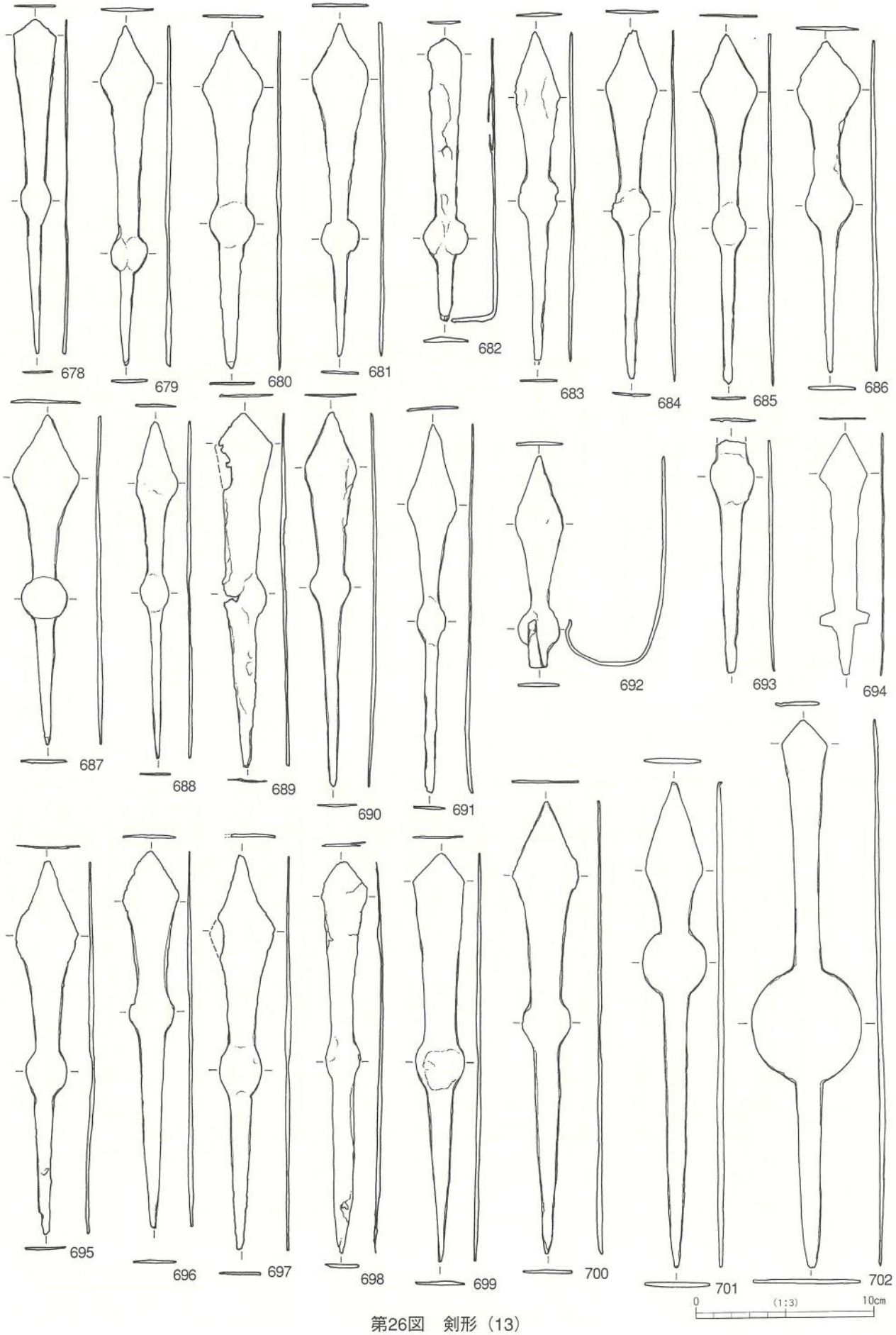
第23図　剣形（10）


622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
0
(1:3)
10cm

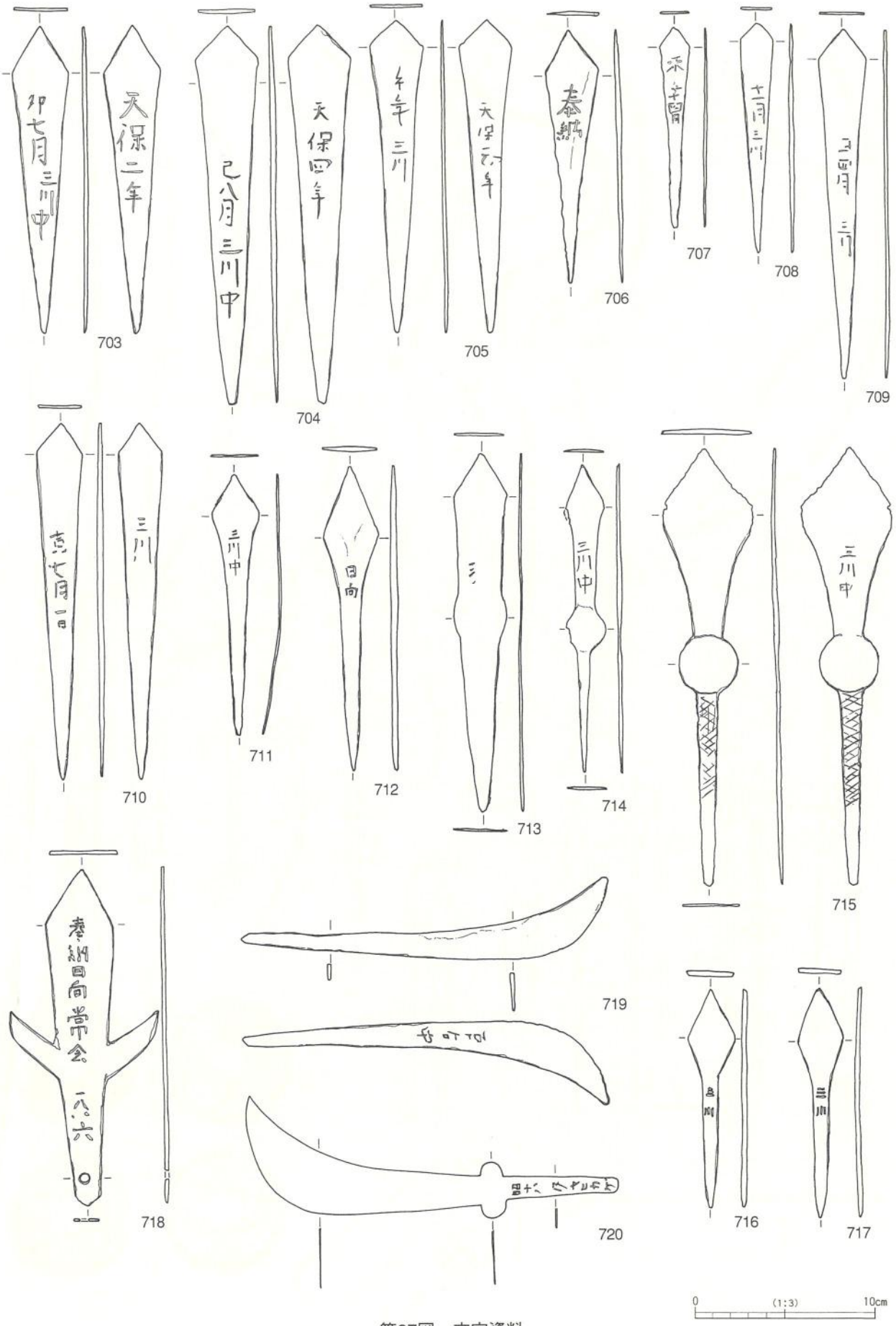
第24図　剣形（11）


649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
0
(1:3)
10cm

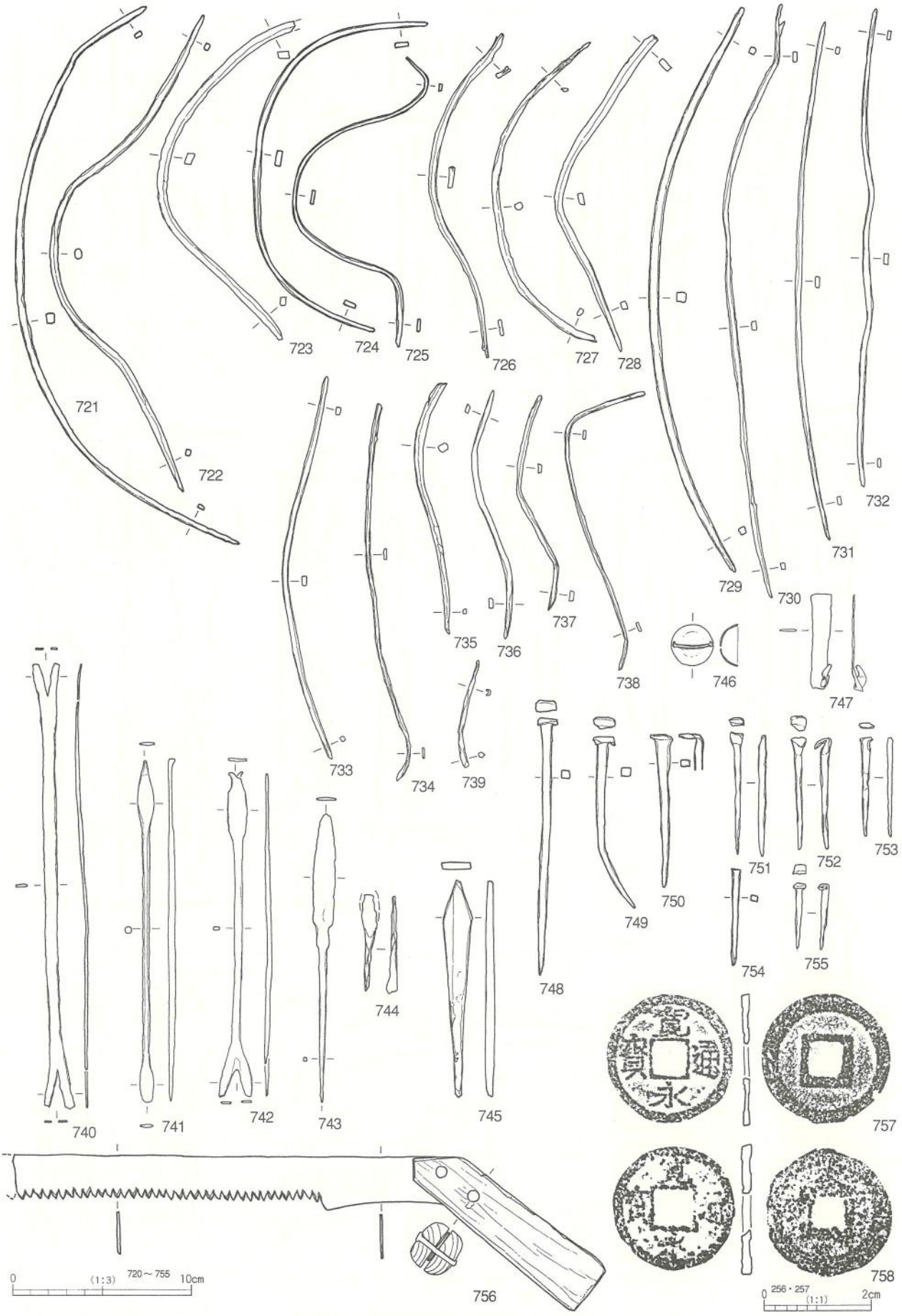
第25図　剣形（12）


678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
0
(1:3)
10cm

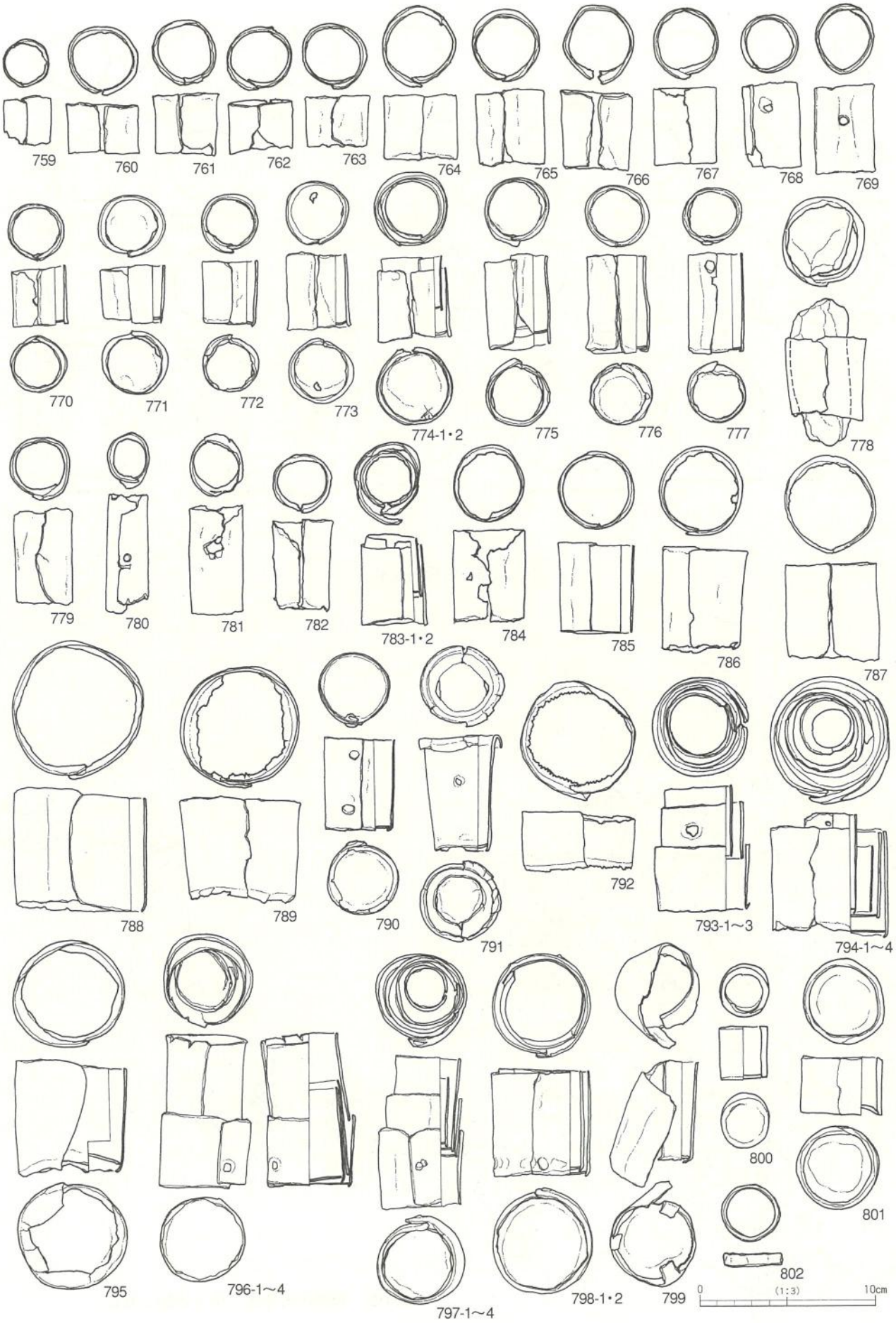
第26図　剣形（13）


703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
0
(1:3)
10cm

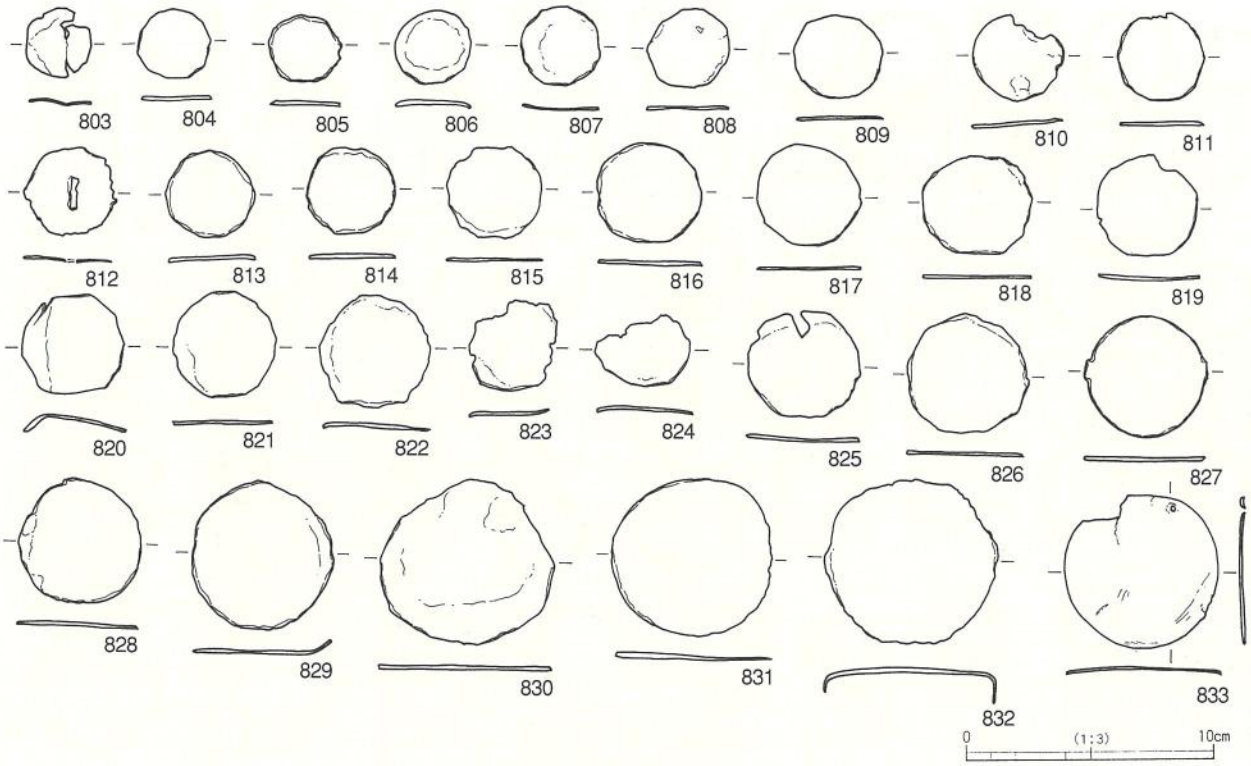
第27図　文字資料



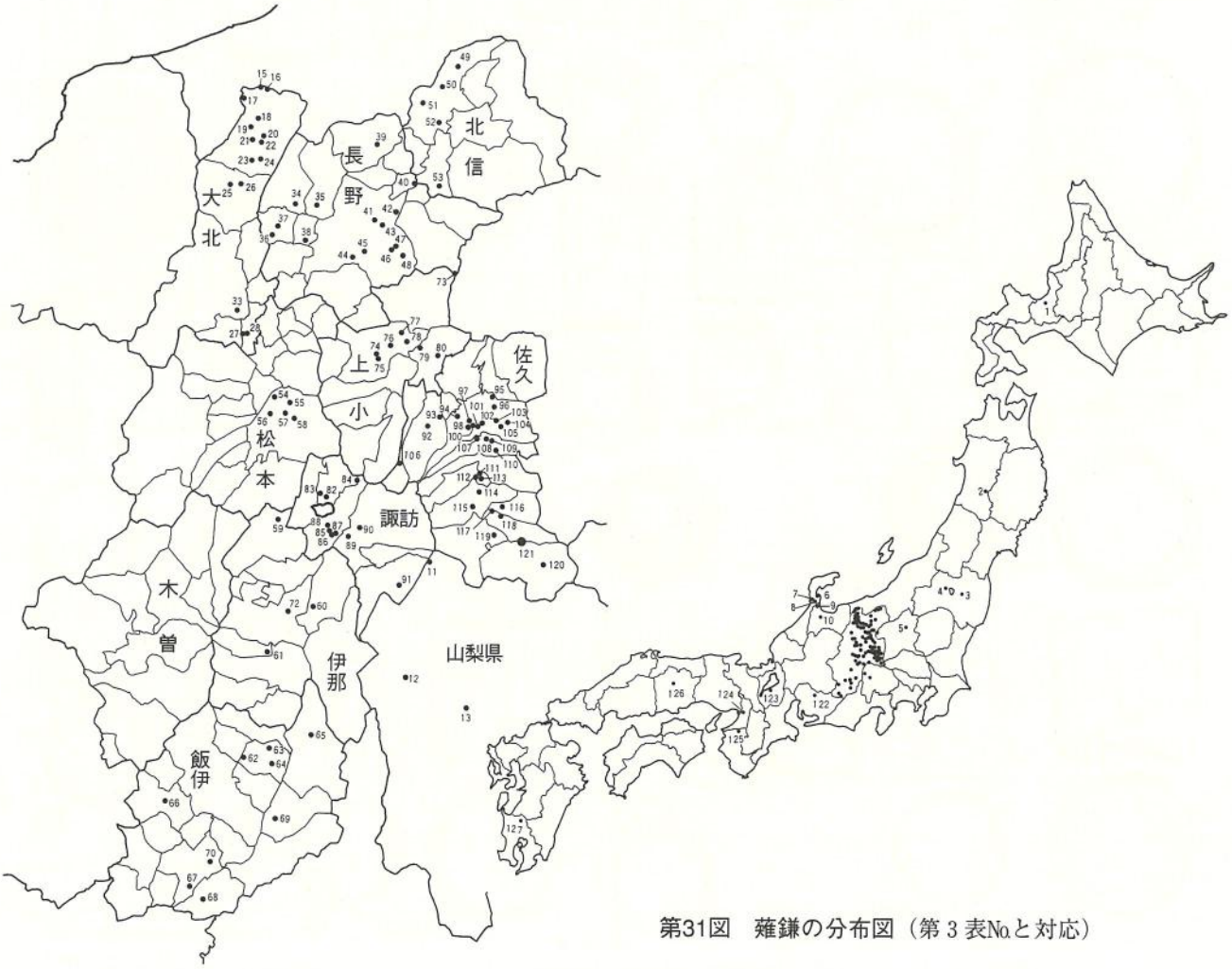
第28図　弓矢形・鋸・銭貸・釘・その他


759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774-1・2
775
776
777
778
779
780
781
782
783-1・2
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793-1～3
794-1～4
795
796-1～4
797-1～4
798-1・2
799
800
801
802
0
(1:3)
10cm

第29図　容器形



第30図　円板・鏡形



第31図　薙鎌の分布図（第３表No.と対応）

第１表　薙鎌観察表（No.は図番号と一致）

No.	法量cm（ ）は現状値				口		目				体部	尾	ヒレ				実測番号
	最長	最幅	厚み	重量g	形態	向き	形態	技法	向き	大きさmm			施文面	部位	技法	向き	
1	11.0	1.8	0.08	6.76	開	右	小円	貫通	左	1.8×0.6	曲	反短	左	背	線刻	下	A47
2	10.9	1.6	0.08	4.92	不明	不明	小円	貫通	左	1.9	曲	反短	無	無	無	－	A45
3	12.1	1.8	0.15	17.15	不明	不明	大円	貫通	右	3.6×3.8	曲丸	反丸	左右	背	線刻	下	A44
4	13.3	1.6	0.1	7.57	開	左	細	刺突	左右	2.0×1.0	曲	反細	左右	背	線刻	上	A31
5	14.0	1.4	00.8	8.33	開	左	細	刺突	左右	3.6×1.6	曲	反細	左右	背	線刻	上	③
6	(14.5)	1.7	0.11	(8.39)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	曲弱	反細	無	無	無	－	A30
7	14.2	2.3	0.12	17.47	開	不明	四角	貫通	左	3.3×3.0	曲	反短	左右	背	線刻	下	A37
8	15.2	2.8	0.1	17.01	開	不明	円	貫通	右	3.3	曲	右	左右	背	線刻	下	②
9	15.5	2.6	0.14	15.95	開	左	小円	貫通	左	1.8	曲	反短	左	背	線刻	下	A26
10	14.7	1.8	0.25	27.19	開	左右	大楕円	貫通	左	4.5×3.2	曲	直	左	背	線刻	下	A24
11	14.5	1.7	0.19	18.29	閉	左右	大楕円	貫通	不明	5.7×3.6	曲	反細	左右	背	線刻	下	A32
12	16.0	2.1	0.11	11.57	開	右	大円	貫通	右	4.8	曲	反細	左	背	線刻	下	A20
13	17.5	2.3	0.12	19.42	不明	不明	大楕円	貫通	左	5.8×4.7	曲	反細	左右	背	線刻	下	A16
14	17.1	3.2	0.28	48.24	開	左	細	刺突	左	5.6×2.4	曲	反細	左右	背	線刻	上	D 1
15	11.0	2.3	0.15	12.64	開	不明	円	貫通	右	3.7	曲	反細	右	背	線刻	下	A51
16	12.9	2.2	0.12	12.94	開	不明	円	貫通	右	4.9	曲	反長	無	無	無	無	A42
17	13.7	2.1	0.18	15.64	開	不明	円	貫通	左	3.0	曲	反細	左右	背	線刻	下	A35
18	13.5	1.9	0.1	9.13	開	不明	円	貫通	右	3.9×3.3	曲	反細	左右	背	線刻	下	A33
19	13.5	2.1	0.25	27.08	開	不明	楕円	貫通	左	3.3×2.5	曲	反細	左	背	線刻	下	A38
20	14.7	1.9	0.23	24.99	開	左	楕円	貫通	左	4×3.2	曲	直	左右	背	線刻	下	A19
21	17.5	2.3	0.18	20.95	無	無	円	貫通	右	2.7	曲	反細	左右	背	線刻	下	A8
22	18.8	2.4	0.31	25.48	不明	不明	細	貫通	右	4.8×2.7	曲	反細	左右	背	線刻	下	A12
23	21.0	2.2	0.28	28.47	不明	不明	円	貫通	右	2.8	曲	反細	左右	背	線刻	下	A1
24	15.2	2.3	0.13	12.48	無	無	円	貫通	左	2.8×2.3	曲	反短	無	無	無	無	A21
25	16.6	2.5	0.11	14.57	無	無	楕円	貫通	右	3.5×2.9	ほぼ直	反短	左右	背	線刻	上	A17
26	8.5	1.6	0.09	8.30	閉	右	小	刺突	右	2.1×1.1	曲	不明	右	背	線刻	上	A53
27	10.3	1.4	0.1	6.77	不明	右	小	刺突	右	2.2	曲	反	左	背	線刻	上	A52
28	10.5	1.9	0.15	9.97	閉	左	細	刺突	左右	4.2×1.1	曲	直？	左右	背	線刻	上	A46
29	14.3	2.1	0.12	14.55	閉	右	細	刺突	右	2.1?	曲	反細	右	背	線刻	上	A34
30	11.5	2.7	0.12	9.82	開	右	四角	貫通	左	3.1×2	曲	反細	右	背	線刻	下	A48
31	13.4	2.3	0.1	13.21	無	無	円	貫通	右	2.7	曲	反細	右	背	線刻	上	A36
32	10.4	1.8	0.08	7.50	不明	不明	四角大	貫通	右	4.5×4.3	曲	反短	左	背	線刻	下	A49
33	11.4	2.1	0.1	12.57	閉	左	楕円	貫通	右	3.6×2.1	曲	反短	左右	背	線刻	下	A50
34	12.8	1.9	0.1	12.66	開	不明	楕円大	貫通	左	5.3×3.3	曲	反細	左右	背	線刻	上	A43
35	12.4	2.3	0.18	17.28	開	左	小円	貫通	右	2.6	ほぼ直	反細	左右	背	線刻	下	A40
36	12.9	2.1	0.13	12.30	無	無	円	貫通	右	2.8	曲	反細	左右	背	線刻	下	A41
37	14.0	1.9	0.15	13.38	閉	左	円大	貫通	右	4.8×4.1	ほぼ直	反細	無	無	無	無	A39
38	14.6	2.1	0.2	23.64	無	無	円	貫通	左	2.5	曲	反細	左	背	線刻	下	A18
39	(12.0)	2.5	0.22	28.13	開	左右	楕円	貫通	右	4×2.8	直?	欠	左	背	線刻	上	Bii5
40	15.6	2.6	0.28	36.40	閉	左右	円	貫通	右	3.4	ほぼ直	反細	無	無	無	無	A25
41	15.5	2.5	0.17	23.60	開	左右	小楕円	貫通	右	2.8×1.8	曲	反細	左右	背	線刻	下	A22
42	14.6	2.8	0.11	18.30	閉	右	小円	貫通	右	2.6	曲	反短	左右	背	線刻	下	A29
43	14.4	2.5	0.19	30.82	閉	左	楕円	貫通	右	4.3×3	曲	反短	左右	背	線刻	上下	A23
44	16.3	2.0	0.21	22.27	開?	左	細	刺突	左右	6.5×1.4	曲	反細	左右	背	線刻	上	A14
45	16.3	2.1	0.15	19.94	開	右	小	刺突	左右	3.2×1	曲	反細	左右	背	線刻	上	A15
46	17.0	2.7	0.15	29.66	開	左右	円	貫通	左右	2.7	曲	反細	左右	背	線刻	下	A9
47	16.5	2.9	0.13	25.87	開	左	四角	貫通	右	3.7×3	曲	反細	左右	背	線刻	下	A13
48	18.6	2.3	0.19	30.59	開	右	楕円	貫通	右	2.7×2	曲	反細	左右	背	線刻	下	A5
49	17.8	2.9	0.23	42.23	閉	左	円	貫通	左	3.6×3	曲	反細	左右	背	線刻	下	A6
50	18.5	2.6	0.25	38.45	開	右	円	貫通	右	4.6	曲	反細	左右	背	線刻	下	A4
51	17.5	3.8	0.16	31.04	開	右	小楕円	貫通	右	3.6×2.3	曲	反細	左右	背	線刻	下	A10
52	17.5	3.1	0.12	30.07	閉	左	円大	貫通	左	5.7×5.2	曲	反細	左右	背	線刻	下	A7
53	19.0	2.9	0.18	35.79	開	左右	円	貫通	左	2	曲	反細	左右	背	線刻	下	A3
54	19.5	2.9	0.21	44.66	開	左右	四角	貫通	左	3.1×2.3	曲	反細	左右	背	線刻	下	A2
55	15.3	2.4	0.18	18.82	開	右	四角大	貫通	右	7.4×6.4	ほぼ直	反細	左右	背	線刻	下	A27
56	16.4	2.1	0.19	23.15	開	右	円	貫通	右	4	ほぼ直	反細	左右	背	線刻	上	Bii3
57	15.4	2.1	0.19	24.46	不明	不明	円	貫通	右	3	ほぼ直	反細	左右	背	線刻	上	A28
58	7.0	0.8	0.12	3.05	無	無	無	無	無	－	曲	直	無	無	無	無	E4
59	9.7	0.9	0.18	6.22	無	無	無	無	無	－	曲	直	無	無	無	無	E3
60	17.5	1.1	0.25		無	無	無	無	無		曲	直	無	無	無	無	反セ28
61	(8.1)	1.7	0.14	7.34	閉	右	小	貫通	右	2.2×1.5	ほぼ直	不明	右	背	線刻	下	Bi21
62	10.5	1.7	0.18	9.69	開	左	円	貫通	右	2.8	ほぼ直	反細	左	背	線刻	下	Bi20
63	11.9	1.4	0.15	9.12	無	無	無	無	無	－	直	反細	無	無	無	無	Bi19
64	14.9	1.8	0.28	24.49	閉	右	無	無	無	－	曲	直	右	背	線刻	下	E2
65	15.1	2.1	0.2	20.96	無	無	円	刺突	右	3.8	ほぼ直	反短	左右	背	線刻	上	E1
66	15.0	1.5	0.16	8.10	閉	左	円	貫通	不明	2	直	欠	左	背	線刻	上	Bi14
67	13.9	1.4	0.18	14.70	開	右	無	無	無	－	直	反細	左右	背腹	線刻	上下	Bi15
68	8.9	1.4	0.12	(5.41)	不明	右	小	貫通	左	2.2	直	欠	左	背	線刻	上	Bii12
69	12.8	1.9	0.17	8.40	不明	左	円	貫通	右	4.5	直	反長細	左右	背	線刻	下	Bi18
70	15.0	2.8	0.18	24.97	開	左	楕円	貫通	左	5.3×3	直	反細	左右	背	線刻	上	Bii4
71	16.5	1.2	0.22	11.46	無	無	小	刺突	右	3.1×1.2	曲弱	内曲	無	無	無	無	Bi11
72	(12.2)	1.5	0.22	(11.99)	不明	不明	不明	不明	不明	－	直	反短	無	無	無	無	Bi17
73	14.9	1.9	0.19	7.12	無	無	無	無	無	－	直	反短	無	無	無	無	Bi16
74	15.7	1.7	0.21	16.46	無	無	小	刺突	左右	2.7×1.9	直	反短	左右	背腹	線刻	下	Bi12
75	15.0	1.5	0.12	12.68	無	無	小	刺突	左右	3×1	直	反細	左右	背腹	線刻	下	Bi13
76	17.6	1.6	0.12	14.86	不明	右	小	刺突	右	4.7×2	直	反短	左右	背腹	線刻	下	Bi9
77	16.8	1.8	0.15	16.78	開	左	円大	貫通	左	6.3×4.5	直	反短	左	背	線刻	下	Bi8
78	17.2	2.3	0.19	20.19	開	左	円大	貫通	左	5.2	曲	反細	無	無	無	無	A11
79	16.8	2.3	0.08	13.77	不明	不明	不明	不明	不明	不明	直	反細	左右	背腹	線刻	上	Bi10
80	17.0	2.2	0.27	27.69	開	左	四角	貫通	右	5.1×1.6	ほぼ直	反細	左右	背	線刻	上	Bii1
81	22.5	2.3	0.25	44.14	無	無	円大	貫通	右	6×3.6	直	反短	左	背	線刻	下	Bi2
82	23.2	2.0	0.18	24.33	開	左	不整大	貫通	左	7.1×4.6	やや反	反	左	背	線刻	下	Bi3
83	28.7	2.3	0.18	53.76	不明	不明	細	刺突	左右	4.8×2.2	直	反細	左右	背腹	線刻	下	Bi1
84	18.0	2.5	0.2	28.92	閉	右	円大	貫通	右	4.9×3.8	直	反細	左	背	線刻	下	Bi7
85	19.4	2.1	0.17	27.37	開	右	楕円大	貫通	右	6.7×4.4	直	反細	左	背	線刻	下	Bi6
86	(22.5)	2.4	0.13	19.58	不明	不明	円	貫通	右	4.5	直	欠	左	背	線刻	下	Bi4
87	20.3	2.3	0.12	23.59	開	左	円大	貫通	左	4.9×4.4	直	反短	左	背	線刻	下	Bi5
88	11.6	2.0	0.11	8.31	開	右	楕円	貫通	右	3.8×3	反	反長	左右	背	線刻	下	Bii10
89	12.6	1.9	0.12	9.75	開	左	円	貫通	左	3.1	反	反長	無	無	無	無	Bii9
90	14.5	2.6	0.19	23.59	開	左	不整	貫通	右	4.6×4.8	やや反	反長	左右	背	線刻	下	Bii7
91	13.2	2.5	0.2	17.07	無	無	無	無	無	無	直	反細	無	無	無	無	Bii8
92	12.7	3.0	0.12	14.80	無	無	無	無	無	無	直	反長	無	無	無	無	Bii11
93	15.6	2.6	0.18	26.26	無	無	細	刺突	左右	2.7×1.1	直	反長	無	無	無	無	Bii6
94	18.0	2.8	0.28	38.88	閉	左	楕円大	貫通	左	5.8×4.6	直	反細	左	背	線刻	下	Bii2
95	6.9	1.4	0.17	7.35	不明	不明	三角	貫通	右	4.7×3.2	直	反細	無	無	無	無	C10
96	8.0	1.7	0.18	9.36	開	右	円	貫通	左	4.1	直	反細	無	無	無	無	C9
97	9.3	1.8	0.17	8.75	開	不明	円	貫通	右	3.3	直	直	無	無	無	無	C8
98	12.2	2.1	0.19	16.56	開	左右	円	貫通	右	6.1	直	反細	無	無	無	無	C5
99	11.2	2.0	0.2	17.03	開	右	不円大	貫通	右	8.9×7.1	直	直	無	無	無	無	C6
100	10.8	2.1	0.15	15.31	開	左	不円大	貫通	左	8.8×6.5	直	直	無	無	無	無	C7
101	16.2	2.5	0.28	34.68	開	左	円大	貫通	左	5.4	直	直	無	無	無	無	C3
102	17.4	2.2	0.21	35.46	開	不明	円	貫通	右	4.2	直	反細	無	無	無	無	C2
103	14.6	2.3	0.27	33.78	閉	?	円	貫通	左	5.2	直	反細	無	無	無	無	C4
104	(14.3)	4.4	0.3	46.81	開	左	円大	貫通	左	7.6×6.5	頭のみ	不明	無	無	無	無	C1
105	17.4	4.2	0.22	33.24	開	右	円	貫通	左	4.4	曲	反細	左右	背	鋸歯	上	D2
106	(15.1)	4.1	0.17	22.75	欠	不明	不明	不明	不明	－	曲	直	左右	背	鋸歯	上	D3
107	13.2	2.1	0.35	27.57	開	不明	円	貫通	左	2.7	曲	反細	左右	背	線刻	上	①
108	9.1	1.4	0.4	14.43	開	右	無	無	無	－	直	反	無	無	無	無	F4
109	14.7	1.9	0.2	21.91	開	不明	無	無	無	－	直	直	無	無	無	無	F3
110	11.4	2.9	0.31	21.66	開	左	無	無	無	－	直	反	無	無	無	無	F2
111	11.0	3.2	0.31	23.24	開	不明	無	無	無	－	直	反	無	無	無	無	F1
112	(8.6)	2.3	0.12	8.82	開	右	無	無	無	－	欠	欠	左右	腹	鋸歯	下	G1

第２表　第９～30図の観察表

図版	番号	分類		法量cm			重さg	材質	実番	備考
		種別	類	最長	最幅	厚み				
9	113	刀形	Ⅰ	11.4	1.3	0.16	4.40	鉄	反先26	
9	114	刀形	Ⅰ	16.6	1.2	0.46	33.20	鉄	直07	
9	115	刀形	Ⅰ	22.0	1.6	0.39	49.00	鉄	直05	
9	116	刀形	Ⅰ	22.3	2.9	0.27	29.40	鉄	直04	
9	117	刀形	Ⅰ	25.4	2.2	0.40	61.90	鉄	直03	
9	118	刀形	Ⅰ	15.5	1.1	0.27	14.70	鉄	反七55	
9	119	刀形	Ⅰ	17.2	1.1	0.27	19.40	鉄	反七37	
9	120	刀形	Ⅰ	17.2	1.5	0.33	25.00	鉄	反先18	
9	121	刀形	Ⅰ	17.7	1.5	0.26	20.70	鉄	反先14	
9	122	刀形	Ⅰ	(15.1)	1.4	0.34	21.90	鉄	反先21	
9	123	刀形	Ⅰ	(16.1)	1.5	0.59	29.20	鉄	反先19	
9	124	刀形	Ⅰ	18.5	1.2	0.25	23.50	鉄	反先16	
9	125	刀形	Ⅰ	21.4	1.4	0.33	32.70	鉄	反七24	
9	126	刀形	Ⅰ	14.8	2.2	0.25	231.40	鉄	反広30	
9	127	刀形	Ⅰ	18.5	1.9	0.30	40.30	鉄	反先12	
9	128	刀形	Ⅰ	19.7	1.6	0.16	10.40	鉄	反広25	
9	129	刀形	Ⅰ	20.6	1.5	0.20	13.70	鉄	反広23	
9	130	刀形	Ⅰ	21.9	2.0	0.37	53.30	鉄	反広13	
9	131	刀形	Ⅰ	21.4	1.7	0.26	27.50	鉄	反広22	
9	132	刀形	Ⅰ	21.8	1.7	0.30	30.10	鉄	反先11	
9	133	刀形	Ⅰ	25.3	2.1	0.26	52.50	鉄	反広08	
9	134	刀形	Ⅰ	31.1	1.5	0.24	40.50	鉄	反七04	
9	135	刀形	Ⅰ	31.0	1.6	0.25	50.20	鉄	反七03	
9	136	刀形	Ⅰ	37.5	1.6	0.30	59.10	鉄	反七02	
9	137	刀形	Ⅰ	27.2	2.2	0.33	52.40	鉄	反広10	
9	138	刀形	Ⅰ	27.5	1.8	0.17	28.60	鉄	反広09	
9	139	刀形	Ⅰ	26.4	2.3	0.47	74.80	鉄	反先02	
9	140	刀形	Ⅰ	20.9	1.6	0.28	25.40	鉄	反広26	
9	141	刀形	Ⅰ	(20.6)	1.7	0.26	27.50	鉄	反広27	
10	142	刀形	Ⅱ	11.6	1.0	0.20	5.90	鉄	直09	
10	143	刀形	Ⅱ	15.4	1.1	0.25	13.70	鉄	直08	
10	144	刀形	Ⅱ	15.7	0.8	0.27	11.70	鉄	追024	
10	145	刀形	Ⅱ	16.0	1.1	0.21	11.10	鉄	反七46	
10	146	刀形	Ⅱ	16.6	0.9	0.24	12.90	鉄	反七40	
10	147	刀形	Ⅱ	16.5	1.2	0.44	29.30	鉄	反七41	
10	148	刀形	Ⅱ	17.0	1.0	0.35	21.40	鉄	反七39	
10	149	刀形	Ⅱ	18.7	1.7	0.21	21.00	鉄	直06	
10	150	刀形	Ⅱ	24.7	2.2	0.33	60.20	鉄	直02	
10	151	刀形	Ⅱ	28.2	2.2	0.34	51.60	鉄	直01	
10	152	刀形	Ⅱ	8.6	0.8	0.13	3.30	鉄	反七58	
10	153	刀形	Ⅱ	13.5	1.1	0.20	9.30	鉄	反先24	
10	154	刀形	Ⅱ	15.0	1.5	0.32	13.30	鉄	反七47	
10	155	刀形	Ⅱ	14.9	1.4	0.30	21.30	鉄	反七33	
10	156	刀形	Ⅱ	14.6	1.3	0.33	22.30	鉄	反七50	
10	157	刀形	Ⅱ	15.0	1.7	0.23	15.30	鉄	反先22	
10	158	刀形	Ⅱ	14.4	1.0	0.26	14.60	鉄	反七53	
10	159	刀形	Ⅱ	15.1	1.3	0.26	12.70	鉄	反七48	
10	160	刀形	Ⅱ	14.4	1.3	0.16	8.40	鉄	反七52	
10	161	刀形	Ⅱ	15.9	1.3	0.33	23.20	鉄	反七42	
10	162	刀形	Ⅱ	18.5	1.2	0.24	10.50	鉄	追026	
10	163	刀形	Ⅱ	16.3	1.3	0.33	23.40	鉄	反先17	
10	164	刀形	Ⅱ	15.9	1.2	0.21	14.10	鉄	反七34	
10	165	刀形	Ⅱ	16.1	1.4	0.23	12.80	鉄	反七43	
10	166	刀形	Ⅱ	16.2	1.3	0.30	19.10	鉄	反七45	
10	167	刀形	Ⅱ	16.9	0.9	0.25	14.40	鉄	反七32	
10	168	刀形	Ⅱ	17.5	1.4	0.23	13.40	鉄	反七31	
10	169	刀形	Ⅱ	17.9	1.1	0.16	9.30	鉄	反七36	
10	170	刀形	Ⅱ	17.7	1.5	0.24	16.80	鉄	反先23	
10	171	刀形	Ⅱ	18.7	1.1	0.23	17.00	鉄	反七27	
10	172	刀形	Ⅱ	16.1	0.8	0.25	17.70	鉄	追025	
10	173	刀形	Ⅱ	20.4	1.3	0.29	21.40	鉄	反七29	
10	174	刀形	Ⅱ	19.9	1.3	0.30	29.40	鉄	反七18	
10	175	刀形	Ⅱ	20.2	1.0	0.27	24.10	鉄	反七19	
10	176	刀形	Ⅱ	20.6	1.2	0.22	17.60	鉄	反七21	
10	177	刀形	Ⅱ	20.7	1.4	0.21	24.30	鉄	反七23	
10	178	刀形	Ⅱ	(11.8)	1.4	0.19	5.40	鉄	反七49	
11	179	刀形	Ⅱ	14.8	1.8	0.33	17.80	鉄	反広31	
11	180	刀形	Ⅱ	17.4	2.1	0.33	24.00	鉄	反先20	
11	181	刀形	Ⅱ	17.2	1.9	0.20	16.40	鉄	反先15	
11	182	刀形	Ⅱ	17.2	1.6	0.26	21.30	鉄	反広29	
11	183	刀形	Ⅱ	17.7	2.3	0.29	17.30	鉄	反先07	
11	184	刀形	Ⅱ	18.2	1.5	0.22	21.20	鉄	反広28	
11	185	刀形	Ⅱ	19.3	1.6	0.30	28.00	鉄	反先13	
11	186	刀形	Ⅱ	19.4	2.1	0.22	24.00	鉄	反先09	
11	187	刀形	Ⅱ	18.8	2.6	0.28	34.30	鉄	反先05	
11	188	刀形	Ⅱ	19.1	1.7	0.27	23.60	鉄	反広21	
11	189	刀形	Ⅱ	20.0	2.4	0.25	25.60	鉄	反先08	
11	190	刀形	Ⅱ	21.2	1.6	0.28	23.10	鉄	反先10	
11	191	刀形	Ⅱ	21.0	1.9	0.26	29.20	鉄	反広15	
11	192	刀形	Ⅱ	23.7	2.1	0.22	40.10	鉄	反広14	
11	193	刀形	Ⅱ	23.1	1.8	0.30	36.80	鉄	反広17	
11	194	刀形	Ⅱ	23.4	1.9	0.26	25.80	鉄	反広16	
11	195	刀形	Ⅱ	22.6	1.9	0.26	38.60	鉄	反広19	
11	196	刀形	Ⅱ	24.3	2.1	0.38	59.70	鉄	反広18	
11	197	刀形	Ⅱ	23.6	2.0	0.50	47.90	鉄	反広20	
11	198	刀形	Ⅱ	24.2	2.4	0.22	36.20	鉄	反広12	
11	199	刀形	Ⅱ	25.6	1.5	0.34	46.80	鉄	反七07	
11	200	刀形	Ⅱ	28.4	2.0	0.39	62.60	鉄	反広07	
11	201	刀形	Ⅱ	28.2	2.8	0.29	70.10	鉄	反先01	
11	202	刀形	Ⅱ	24.7	2.2	0.30	50.60	鉄	反先04	
11	203	刀形	Ⅱ	27.5	2.5	0.32	74.20	鉄	反先03	
12	204	刀形	Ⅱ	29.3	2.0	0.32	81.30	鉄	反広05	
12	205	刀形	Ⅱ	30.2	2.4	0.31	52.10	鉄	反広11	
12	206	刀形	Ⅱ	30.6	2.0	0.32	53.40	鉄	反広06	
12	207	刀形	Ⅱ	34.4	2.1	0.32	41.80	鉄	反広04	
12	208	刀形	Ⅱ	35.0	1.9	0.20	60.50	鉄	反広02	
12	209	刀形	Ⅱ	36.7	2.1	0.44	96.70	鉄	反広01	
12	210	刀形	Ⅲ	(14.2)	2.3	0.25	26.60	鉄	反先06	
12	211	刀形	Ⅲ	10.3	1.2	0.42	11.90	鉄	追027	
12	212	刀形	Ⅲ	11.6	1.0	0.11	4.80	鉄	反七57	
12	213	刀形	Ⅲ	13.4	1.4	0.26	17.20	鉄	反先25	
12	214	刀形	Ⅲ	13.8	1.3	0.18	9.90	鉄	反七51	
12	215	刀形	Ⅲ	14.3	0.8	0.30	16.60	鉄	反先28	
12	216	刀形	Ⅲ	14.7	1.1	0.28	15.90	鉄	反七44	
12	217	刀形	Ⅲ	15.1	1.2	0.26	16.30	鉄	反七35	
12	218	刀形	Ⅲ	14.6	1.0	0.26	12.10	鉄	反先27	
12	219	刀形	Ⅲ	14.4	1.0	0.17	10.10	鉄	反七56	
12	220	刀形	Ⅲ	15.6	1.0	0.21	7.50	鉄	反七54	
12	221	刀形	Ⅲ	16.6	1.1	0.33	22.40	鉄	反七38	
12	222	刀形	Ⅲ	17.3	1.2	0.23	15.20	鉄	反七25	
12	223	刀形	Ⅲ	18.6	1.2	0.27	26.70	鉄	反七20	
12	224	刀形	Ⅲ	18.5	1.2	0.35	32.90	鉄	反七22	
12	225	刀形	Ⅲ	19.6	1.0	0.22	14.60	鉄	反七17	
12	226	刀形	Ⅲ	21.0	1.0	0.15	8.50	鉄	反七26	
12	227	刀形	Ⅲ	19.0	1.2	0.32	37.20	鉄	反七30	
12	228	刀形	Ⅲ	(21.9)	1.2	0.24	24.60	鉄	反七09	
12	229	刀形	Ⅲ	23.6	1.3	0.26	28.80	鉄	反七13	
12	230	刀形	Ⅲ	23.5	1.0	0.20	20.00	鉄	反七12	
12	231	刀形	Ⅲ	27.5	1.5	0.21	31.10	鉄	反七06	
12	232	刀形	Ⅲ	(28.3)	1.6	0.26	47.70	鉄	反七05	
13	233	刀形	Ⅲ	21.9	1.1	0.28	30.50	鉄	反七15	
13	234	刀形	Ⅲ	22.6	1.1	0.22	20.30	鉄	反七10	
13	235	刀形	Ⅲ	24.5	1.2	0.32	37.90	鉄	反七08	
13	236	刀形	Ⅲ	23.8	1.1	0.33	30.70	鉄	反七14	
13	237	刀形	Ⅲ	23.5	1.0	0.27	30.80	鉄	反七11	
13	238	刀形	Ⅲ	23.8	1.5	0.20	15.40	鉄	反広24	
13	239	刀形	Ⅲ	28.9	1.7	0.19	29.70	鉄	反七01	
13	240	刀形	Ⅳ	20.4	2.1	0.20	19.90	鉄	東7	
13	241	刀形	Ⅳ	24.0	1.8	0.23	28.70	鉄	東4	
13	242	刀形	Ⅳ	25.4	3.2	0.18	30.70	鉄	東6	
13	243	刀形	Ⅳ	24.4	2.2	0.23	28.00	鉄	東5	
13	244	刀形	Ⅳ	28.0	3.3	0.36	45.40	鉄	東3	
13	245	刀形	Ⅳ	27.6	2.9	0.27	53.70	鉄	東1	
13	246	刀形	Ⅴ	14.9	1.8	0.25	16.70	鉄	ナギ15	
13	247	刀形	Ⅴ	16.9	1.7	0.23	21.10	鉄	ナギ06	
13	248	刀形	Ⅴ	19.3	1.3	0.25	19.30	鉄	ナギ07	
13	249	刀形	Ⅴ	37.1	2.2	0.26	47.40	鉄	ナギ01	
14	250	刀形	Ⅴ	14.0	1.4	0.25	18.40	鉄	ナギ10	
14	251	刀形	Ⅴ	15.5	1.5	0.26	20.70	鉄	ナギ08	
14	252	刀形	Ⅴ	16.6	2.0	0.34	24.40	鉄	ナギ14	
14	253	刀形	Ⅴ	18.8	1.7	0.17	15.80	鉄	ナギ09	
14	254	刀形	Ⅴ	18.8	1.4	0.26	11.60	鉄	ナギ11	
14	255	刀形	Ⅴ	21.1	3.0	0.28	39.10	鉄	ナギ05	
14	256	刀形	Ⅴ	31.0	1.9	0.31	48.60	鉄	ナギ02	
14	257	刀形	Ⅴ	32.7	2.5	0.31	51.80	鉄	反広03	
14	258	刀形	Ⅴ	21.9	1.6	0.30	33.60	鉄	ナギ04	
14	259	刀形	Ⅴ	23.1	2.6	0.22	33.30	鉄	ナギ03	
14	260	刀形	Ⅴ	23.6	1.5	0.22	21.90	鉄	ナギ12	
14	261	朝形	Ⅰ	(4.9)	1.3	0.16	4.00	鉄	追019	
14	262	朝形	Ⅰ	5.7	1.8	0.16	5.20	鉄	A34	
14	263	朝形	Ⅰ	8.5	1.8	0.14	4.80	鉄	A33	
14	264	朝形	Ⅰ	9.1	2.3	0.17	9.20	鉄	A32	
14	265	朝形	Ⅰ	9.2	2.1	0.18	8.50	鉄	追018	
14	266	朝形	Ⅰ	10.5	2.5	0.14	7.90	鉄	B66	
14	267	朝形	Ⅰ	11.3	2.5	0.18	10.20	鉄	A31	
14	268	朝形	Ⅰ	12.5	1.9	0.16	8.90	鉄	追017	
14	269	朝形	Ⅰ	12.3	2.4	0.21	14.90	鉄	A29	
14	270	朝形	Ⅰ	12.4	3.1	0.16	20.10	鉄	A27	
14	271	朝形	Ⅰ	13.1	2.0	0.17	12.70	鉄	A25	
14	272	朝形	Ⅰ	14.3	2.1	0.17	14.40	鉄	A22	
14	273	朝形	Ⅰ	13.3	3.0	0.15	15.40	鉄	A24	
14	274	朝形	Ⅰ	14.5	1.8	0.20	19.20	鉄	A21	
14	275	朝形	Ⅰ	13.4	2.7	0.21	17.70	鉄	A26	
14	276	朝形	Ⅰ	14.8	2.2	0.11	9.10	鉄	A20	
14	277	朝形	Ⅰ	14.8	1.6	0.26	17.90	鉄	A19	
14	278	朝形	Ⅰ	16.2	2.2	0.20	24.20	鉄	A14	
14	279	朝形	Ⅰ	17.1	1.8	0.26	26.80	鉄	A13	
14	280	朝形	Ⅰ	17.7	1.5	0.25	25.20	鉄	A09	
14	281	朝形	Ⅰ	18.8	1.7	0.30	28.50	鉄	A10	
15	282	朝形	Ⅰ	18.1	2.6	0.30	44.30	鉄	A08	
15	283	朝形	Ⅰ	19.7	1.6	0.22	30.30	鉄	A06	
15	284	朝形	Ⅰ	18.8	2.5	0.27	21.80	鉄	A07	
15	285	朝形	Ⅰ	22.2	3.0	0.25	36.20	鉄	A04	
15	286	朝形	Ⅰ	21.1	2.5	0.24	40.60	鉄	A03	
15	287	朝形	Ⅱ	9.8	2.5	0.18	8.50	鉄	A30	
15	288	朝形	Ⅱ	10.2	1.8	0.25	12.00	鉄	B67	
15	289	朝形	Ⅱ	10.8	2.3	0.42	22.30	鉄	D43	
15	290	朝形	Ⅱ	8.3	3.0	0.06	2.80	鉄	A35	
15	291	朝形	Ⅱ	(8.7)	2.9	0.18	14.90	鉄	B27	
15	292	朝形	Ⅱ	11.6	1.9	0.25	8.20	鉄	D36	
15	293	朝形	Ⅱ	11.2	2.1	0.17	8.20	鉄	B61	
15	294	朝形	Ⅱ	10.8	2.4	0.16	8.20	鉄	B65	
15	295	朝形	Ⅱ	(8.1)	2.9	0.05	2.90	鉄	A36	
15	296	朝形	Ⅱ	(9.8)	3.8	0.06	4.20	鉄	A05	
15	297	朝形	Ⅱ	12.2	2.4	0.15	9.70	鉄	B52	
15	298	朝形	Ⅱ	12.7	2.5	0.20	12.80	鉄	A28	
15	299	朝形	Ⅱ	13.7	2.1	0.18	11.50	鉄	B41	
15	300	朝形	Ⅱ	(13.4)	2.7	0.18	13.00	鉄	A23	
15	301	朝形	Ⅱ	14.3	2.7	0.19	15.60	鉄	B34	
15	302	朝形	Ⅱ	13.2	2.2	0.25	212.90	鉄	D29	
15	303	朝形	Ⅱ	14.1	2.1	0.20	17.50	鉄	B39	
15	304	朝形	Ⅱ	15.2	2.5	0.20	19.40	鉄	B24	
15	305	朝形	Ⅱ	14.3	2.0	0.25	14.70	鉄	B25	
15	306	朝形	Ⅱ	14.4	2.7	0.16	13.10	鉄	F11	
15	307	朝形	Ⅱ	14.8	3.0	0.19	18.90	鉄	A17	
15	308	朝形	Ⅱ	15.0	2.9	0.19	15.60	鉄	A16	
15	309	朝形	Ⅱ	13.8	2.6	0.19	19.30	鉄	B23	
15	310	朝形	Ⅱ	14.9	3.4	0.15	9.70	鉄	A18	
15	311	朝形	Ⅱ	14.5	2.0	0.19	11.90	鉄	B38	
15	312	朝形	Ⅱ	14.7	3.7	0.20	17.00	鉄	B26	
15	313	朝形	Ⅱ	14.5	2.7	0.16	15.00	鉄	B32	
15	314	朝形	Ⅱ	15.0	2.9	0.21	24.60	鉄	B30	
15	315	朝形	Ⅱ	14.6	2.9	0.20	23.30	鉄	B31	
15	316	朝形	Ⅱ	15.2	2.7	0.18	18.70	鉄	B37	
15	317	朝形	Ⅱ	15.3	2.5	0.18	17.10	鉄	B21	
16	318	朝形	Ⅱ	14.4	2.1	0.25	15.30	鉄	B36	
16	319	朝形	Ⅱ	(14.7)	2.6	0.16	14.40	鉄	A15	
16	320	朝形	Ⅱ	15.6	3.4	0.21	20.00	鉄	D17	
16	321	朝形	Ⅱ	16.3	1.7	0.13	10.80	鉄	B20	
16	322	朝形	Ⅱ	16.9	2.8	0.22	30.00	鉄	B14	
16	323	朝形	Ⅱ	17.7	3.5	0.16	20.80	鉄	D05	
16	324	朝形	Ⅱ	17.4	1.8	0.27	32.80	鉄	A11	
16	325	朝形	Ⅱ	17.5	2.5	0.17	27.20	鉄	A12	
16	326	朝形	Ⅱ	21.6	3.7	0.18	43.70	鉄	A02	
16	327	朝形	Ⅱ	22.5	4.9	0.24	36.40	鉄	A01	
16	328	朝形	Ⅲ	7.5	1.7	0.29	10.20	鉄	追020	
16	329	朝形	Ⅲ	9.0	2.0	0.13	4.70	鉄	B78	
16	330	朝形	Ⅲ	9.7	2.0	0.19	6.90	鉄	追012	
16	331	朝形	Ⅲ	10.1	1.9	0.19	11.60	鉄	B70	
16	332	朝形	Ⅲ	9.7	2.0	0.16	4.80	鉄	G36	
16	333	朝形	Ⅲ	9.7	1.6	0.23	6.40	鉄	B77	
16	334	朝形	Ⅲ	9.2	1.8	0.08	4.50	鉄	B75	
16	335	朝形	Ⅲ	10.3	2.1	0.20	7.60	鉄	B68	
16	336	朝形	Ⅲ	10.3	2.3	0.18	11.50	鉄	B73	
16	337	朝形	Ⅲ	10.3	2.4	0.14	8.50	鉄	B72	
16	338	朝形	Ⅲ	9.9	2.2	0.15	9.10	鉄	B76	
16	339	朝形	Ⅲ	10.5	2.3	0.20	8.80	鉄	G26	
16	340	朝形	Ⅲ	10.2	1.9	0.10	4.80	鉄	B74	
16	341	朝形	Ⅲ	11.8	1.5	0.14	6.30	鉄	B59	
16	342	朝形	Ⅲ	12.8	2.3	0.22	15.40	鉄	B48	
16	343	朝形	Ⅲ	13.1	2.3	0.19	12.50	鉄	B46	
16	344	朝形	Ⅲ	12.7	2.2	0.31	16.80	鉄	B43	
16	345	朝形	Ⅲ	12.2	2.2	0.18	13.60	鉄	B53	
16	346	朝形	Ⅲ	12.3	2.4	0.14	7.70	鉄	B63	
16	347	朝形	Ⅲ	11.3	2.7	0.17	10.50	鉄	F33	
16	348	朝形	Ⅲ	11.1	2.8	0.17	12.20	鉄	B64	
16	349	朝形	Ⅲ	10.9	2.4	0.20	9.30	鉄	B71	
16	350	朝形	Ⅲ	11.4	3.2	0.15	13.90	鉄	G20	
16	351	朝形	Ⅲ	11.3	2.2	0.13	5.10	鉄	B58	
16	352	朝形	Ⅲ	11.7	2.6	0.16	11.50	鉄	追011	
16	353	朝形	Ⅲ	11.7	1.8	0.19	7.10	鉄	B60	
16	354	朝形	Ⅲ	12.3	2.2	0.12	7.50	鉄	B56	

図版	番号	分類		法量cm			重さg	材質	実番	備考
		種別	類	最長	最幅	厚み				
16	355	刺形	Ⅲ	12.0	2.2	0.16	8.90	鉄	B55	
16	356	刺形	Ⅲ	12.2	1.7	0.10	6.30	鉄	B57	
16	357	刺形	Ⅲ	12.6	2.4	0.18	15.30	鉄	B44	
16	358	刺形	Ⅲ	(11.7)	2.1	0.24	16.10	鉄	B62	
16	359	刺形	Ⅲ	12.4	2.4	0.20	14.50	鉄	B51	
16	360	刺形	Ⅲ	12.7	1.9	0.12	8.50	鉄	B49	
16	361	刺形	Ⅲ	12.9	2.1	0.22	16.20	鉄	B47	
16	362	刺形	Ⅲ	(11.8)	2.4	0.38	36.90	鉄	B45	
16	363	刺形	Ⅲ	(12.2)	2.3	0.40	37.70	鉄	B54	
17	364	刺形	Ⅲ	13.6	2.6	0.17	12.70	鉄	G09	
17	365	刺形	Ⅲ	14.4	3.0	0.24	25.80	鉄	G08	
17	366	刺形	Ⅲ	13.9	1.8	0.17	12.60	鉄	C36	
17	367	刺形	Ⅲ	14.0	1.8	0.16	11.90	鉄	B28	
17	368	刺形	Ⅲ	13.9	2.0	0.12	7.70	鉄	B35	
17	369	刺形	Ⅲ	14.6	9.0	0.35	33.80	鉄	C27	
17	370	刺形	Ⅲ	14.4	3.1	0.12	15.90	鉄	B33	
17	371	刺形	Ⅲ	(15.3)	2.1	0.20	21.00	鉄	B22	
17	372	刺形	Ⅲ	17.5	2.2	0.24	28.50	鉄	B16	
17	373	刺形	Ⅲ	(16.4)	2.5	0.19	30.40	鉄	B18	
17	374	刺形	Ⅲ	17.5	1.3	0.15	12.40	鉄	B17	
17	375	刺形	Ⅲ	17.7	3.3	0.16	25.90	鉄	B12	
17	376	刺形	Ⅲ	19.1	3.4	0.19	25.10	鉄	B10	
17	377	刺形	Ⅲ	20.7	2.9	0.27	24.10	鉄	B07	
17	378	刺形	Ⅲ	20.7	2.4	0.21	34.60	鉄	B06	
17	379	刺形	Ⅲ	21.3	2.0	0.24	29.80	鉄	B05	
17	380	刺形	Ⅲ	21.1	5.5	0.15	35.60	鉄	B04	
17	381	刺形	Ⅲ	29.8	2.5	0.22	44.20	鉄	B01	
17	382	刺形	Ⅳ	7.7	1.4	0.15	3.50	鉄	G50	
17	383	刺形	Ⅳ	8.2	1.4	0.18	4.50	鉄	G48	
17	384	刺形	Ⅳ	7.0	1.4	0.15	3.10	鉄	G51	
17	385	刺形	Ⅳ	7.6	1.6	0.27	6.40	鉄	追016	
17	386	刺形	Ⅳ	7.4	1.5	0.16	3.70	鉄	D42	
17	387	刺形	Ⅳ	8.2	1.2	0.18	3.90	鉄	G46	
17	388	刺形	Ⅳ	8.9	1.2	0.11	3.00	鉄	G43	
17	389	刺形	Ⅳ	8.8	1.3	0.25	4.20	鉄	G44	
17	390	刺形	Ⅳ	8.6	1.6	0.19	5.50	鉄	G45	
17	391	刺形	Ⅳ	9.2	1.6	0.09	3.70	鉄	追021	
17	392	刺形	Ⅳ	9.1	1.6	0.25	10.50	鉄	C76	
17	393	刺形	Ⅳ	9.5	1.8	0.22	11.50	鉄	C75	
17	394	刺形	Ⅳ	9.1	1.7	0.15	5.00	鉄	G40	
17	395	刺形	Ⅳ	9.0	1.5	0.22	5.20	鉄	D41	
17	396	刺形	Ⅳ	8.9	1.4	0.16	4.80	鉄	G42	
17	397	刺形	Ⅳ	9.3	2.2	0.15	6.80	鉄	G38	
17	398	刺形	Ⅳ	8.9	1.4	0.16	5.60	鉄	G41	
17	399	刺形	Ⅳ	9.2	2.1	0.17	7.40	鉄	G39	
17	400	刺形	Ⅳ	9.4	1.2	0.20	5.50	鉄	追023	
17	401	刺形	Ⅳ	9.6	2.1	0.18	8.14	鉄	G37	
17	402	刺形	Ⅳ	9.3	2.0	0.24	7.30	鉄	D40	
17	403	刺形	Ⅳ	9.1	1.7	0.28	11.20	鉄	C77	
17	404	刺形	Ⅳ	9.7	2.0	0.27	12.40	鉄	G30	
17	405	刺形	Ⅳ	10.3	1.5	0.22	6.50	鉄	G35	
17	406	刺形	Ⅳ	10.0	1.9	0.26	12.30	鉄	G29	
17	407	刺形	Ⅳ	10.0	2.0	0.16	6.70	鉄	G31	
17	408	刺形	Ⅳ	10.3	2.1	0.14	7.30	鉄	G28	
18	409	刺形	Ⅳ	9.5	1.4	0.19	7.40	鉄	C78	
18	410	刺形	Ⅳ	10.2	1.5	0.19	8.60	鉄	G34	
18	411	刺形	Ⅳ	10.4	1.6	0.22	5.10	鉄	G33	
18	412	刺形	Ⅳ	9.9	2.0	0.32	15.30	鉄	F35	
18	413	刺形	Ⅳ	10.7	2.4	0.12	6.30	鉄	D39	
18	414	刺形	Ⅳ	10.9	1.9	0.32	10.30	鉄	C69	
18	415	刺形	Ⅳ	9.7	1.3	0.22	9.00	鉄	C74	
18	416	刺形	Ⅳ	10.7	2.1	0.18	7.50	鉄	追015	
18	417	刺形	Ⅳ	11.1	1.6	0.26	12.60	鉄	C66	
18	418	刺形	Ⅳ	(11.2)	1.6	0.10	4.10	鉄	C63	
18	419	刺形	Ⅳ	(10.5)	2.4	0.15	11.90	鉄	G25	
18	420	刺形	Ⅳ	11.2	2.2	0.19	9.30	鉄	追014	
18	421	刺形	Ⅳ	10.4	1.7	0.18	5.40	鉄	G27	
18	422	刺形	Ⅳ	10.3	1.8	0.21	7.80	鉄	G32	
18	423	刺形	Ⅳ	11.1	1.7	0.24	5.60	鉄	C64	
18	424	刺形	Ⅳ	10.5	2.2	0.15	8.20	鉄	C72	
18	425	刺形	Ⅳ	11.0	1.6	0.34	14.20	鉄	C65	
18	426	刺形	Ⅳ	11.3	(2.2)	0.27	14.80	鉄	G22	
18	427	刺形	Ⅳ	11.2	2.1	0.21	11.20	鉄	G23	
18	428	刺形	Ⅳ	11.1	2.0	0.27	17.50	鉄	G24	
18	429	刺形	Ⅳ	10.9	2.4	0.14	7.80	鉄	追010	
18	430	刺形	Ⅳ	11.0	2.2	0.29	14.30	鉄	C68	
18	431	刺形	Ⅳ	10.5	2.2	0.23	11.90	鉄	C71	
18	432	刺形	Ⅳ	10.6	1.5	0.15	7.20	鉄	C70	
18	433	刺形	Ⅳ	10.4	2.4	0.30	17.70	鉄	C73	
18	434	刺形	Ⅳ	11.3	1.2	0.27	5.90	鉄	F34	
18	435	刺形	Ⅳ	10.9	1.6	0.10	4.40	鉄	追022	
18	436	刺形	Ⅳ	10.9	1.5	0.18	8.60	鉄	C67	
18	437	刺形	Ⅳ	11.7	1.6	0.23	9.20	鉄	E43	
18	438	刺形	Ⅳ	11.8	1.9	0.20	7.30	鉄	G19	
18	439	刺形	Ⅳ	11.2	2.4	0.16	8.00	鉄	G21	
18	440	刺形	Ⅳ	11.2	1.7	0.10	3.90	鉄	C62	
18	441	刺形	Ⅳ	11.5	2.2	0.22	14.00	鉄	G16	
18	442	刺形	Ⅳ	(11.5)	2.1	0.48	29.40	鉄	G18	
18	443	刺形	Ⅳ	11.9	2.3	0.17	9.10	鉄	G17	
18	444	刺形	Ⅳ	11.9	1.9	0.21	13.60	鉄	C56	
18	445	刺形	Ⅳ	11.7	2.6	0.24	19.70	鉄	C58	
18	446	刺形	Ⅳ	11.4	2.7	0.23	14.30	鉄	D38	
18	447	刺形	Ⅳ	12.1	2.4	0.20	12.00	鉄	G15	
18	448	刺形	Ⅳ	12.4	2.0	0.15	7.30	鉄	G14	
18	449	刺形	Ⅳ	11.8	2.8	0.23	12.90	鉄	C60	
18	450	刺形	Ⅳ	12.6	2.4	0.16	7.40	鉄	G13	
18	451	刺形	Ⅳ	11.3	2.9	0.17	11.20	鉄	C61	
18	452	刺形	Ⅳ	12.0	2.2	0.24	12.70	鉄	C57	
18	453	刺形	Ⅳ	12.6	2.5	0.27	19.80	鉄	C45	
18	454	刺形	Ⅳ	13.6	1.8	0.20	10.70	鉄	E26	
18	455	刺形	Ⅳ	13.1	2.2	0.25	18.20	鉄	G12	
18	456	刺形	Ⅳ	13.7	2.7	0.16	16.90	鉄	G11	
18	457	刺形	Ⅳ	12.8	2.1	0.33	30.40	鉄	C50	
18	458	刺形	Ⅳ	12.5	2.8	0.22	18.90	鉄	C55	
18	459	刺形	Ⅳ	12.6	2.1	0.23	13.90	鉄	C49	
18	460	刺形	Ⅳ	12.5	2.5	0.22	16.40	鉄	C43	
18	461	刺形	Ⅳ	11.9	3.1	0.18	17.00	鉄	C59	
18	462	刺形	Ⅳ	(12.7)	2.6	0.23	16.90	鉄	C53	
18	463	刺形	Ⅳ	(12.7)	2.5	0.22	17.60	鉄	C54	
18	464	刺形	Ⅳ	(12.5)	2.7	0.21	16.90	鉄	C52	
18	465	刺形	Ⅳ	(12.7)	2.6	0.23	19.40	鉄	C51	
18	466	刺形	Ⅳ	13.6	2.5	0.23	21.70	鉄	C41	
18	467	刺形	Ⅳ	13.3	2.3	0.39	26.90	鉄	C47	
19	468	刺形	Ⅳ	11.1	2.6	0.16	8.90	鉄	追002	
19	469	刺形	Ⅳ	13.1	3.7	0.23	16.90	鉄	D30	
19	470	刺形	Ⅳ	12.5	2.3	0.17	7.80	鉄	D32	
19	471	刺形	Ⅳ	13.4	2.2	0.32	16.50	鉄	F25	
19	472	刺形	Ⅳ	12.9	1.8	0.25	20.40	鉄	C42	
19	473	刺形	Ⅳ	12.3	2.1	0.20	7.00	鉄	D37	
19	474	刺形	Ⅳ	11.6	2.6	0.17	7.70	鉄	D33	
19	475	刺形	Ⅳ	13.7	1.5	0.19	13.00	鉄	C34	
19	476	刺形	Ⅳ	14.0	2.7	0.16	11.90	鉄	G07	
19	477	刺形	Ⅳ	14.3	2.9	0.52	40.00	鉄	追006	
19	478	刺形	Ⅳ	14.7	2.1	0.30	17.80	鉄	F22	
19	479	刺形	Ⅳ	14.4	2.4	0.13	11.70	鉄	F16	
19	480	刺形	Ⅳ	13.9	1.7	0.22	10.30	鉄	C35	
19	481	刺形	Ⅳ	13.1	2.5	0.39	31.00	鉄	C48	
19	482	刺形	Ⅳ	13.5	2.3	0.23	18.90	鉄	C33	
19	483	刺形	Ⅳ	14.0	1.3	0.23	8.30	鉄	C32	
19	484	刺形	Ⅳ	13.6	2.8	0.34	32.50	鉄	C37	
19	485	刺形	Ⅳ	13.3	2.5	0.29	15.90	鉄	C46	
19	486	刺形	Ⅳ	14.2	2.9	0.12	9.70	鉄	C26	
19	487	刺形	Ⅳ	14.2	2.3	0.29	31.30	鉄	C38	
19	488	刺形	Ⅳ	14.3	2.7	0.28	3.60	鉄	C30	
19	489	刺形	Ⅳ	13.6	2.7	0.30	24.60	鉄	C28	
19	490	刺形	Ⅳ	15.0	2.0	0.15	15.60	鉄	B29	
19	491	刺形	Ⅳ	14.3	2.8	0.11	9.30	鉄	C31	
19	492	刺形	Ⅳ	13.8	1.3	0.23	14.60	鉄	C40	
19	493	刺形	Ⅳ	13.1	2.7	0.27	26.90	鉄	C44	
19	494	刺形	Ⅳ	13.6	2.8	0.21	18.20	鉄	G10	
19	495	刺形	Ⅳ	13.4	3.6	0.21	11.60	鉄	D28	
19	496	刺形	Ⅳ	13.8	3.3	0.21	19.20	鉄	D25	
19	497	刺形	Ⅳ	14.5	3.0	0.20	15.40	鉄	追005	
19	498	刺形	Ⅳ	(14.7)	2.9	0.39	32.70	鉄	D23	
19	499	刺形	Ⅳ	15.8	3.2	0.36	36.90	鉄	追001	
20	500	刺形	Ⅳ	14.0	3.1	0.45	37.40	鉄	C39	
20	501	刺形	Ⅳ	15.0	3.2	0.34	43.00	鉄	D22	
20	502	刺形	Ⅳ	14.9	2.2	0.33	26.80	鉄	G06	
20	503	刺形	Ⅳ	15.7	2.6	0.42	33.40	鉄	D14	
20	504	刺形	Ⅳ	15.2	1.6	0.25	13.00	鉄	E17	
20	505	刺形	Ⅳ	14.8	3.0	0.25	22.60	鉄	D24	
20	506	刺形	Ⅳ	15.5	2.6	0.35	30.20	鉄	F09	
20	507	刺形	Ⅳ	15.0	3.2	0.35	29.70	鉄	D19	
20	508	刺形	Ⅳ	15.0	3.1	0.20	28.30	鉄	C25	
20	509	刺形	Ⅳ	14.9	4.5	0.38	34.90	鉄	D18	
20	510	刺形	Ⅳ	15.6	3.3	0.22	18.90	鉄	D16	
20	511	刺形	Ⅳ	15.5	3.9	0.24	28.40	鉄	C19	
20	512	刺形	Ⅳ	15.5	2.5	0.33	29.40	鉄	C22	
20	513	刺形	Ⅳ	14.2	2.3	0.12	9.10	鉄	C29	
20	514	刺形	Ⅳ	15.3	2.8	0.30	35.70	鉄	C18	
20	515	刺形	Ⅳ	15.3	2.7	0.33	32.50	鉄	C21	
20	516	刺形	Ⅳ	14.7	2.8	0.30	39.00	鉄	C24	
20	517	刺形	Ⅳ	15.8	2.8	0.45	43.90	鉄	C16	
20	518	刺形	Ⅳ	15.2	2.9	0.33	39.20	鉄	C23	
20	519	刺形	Ⅳ	16.8	3.2	0.23	26.60	鉄	F06	
20	520	刺形	Ⅳ	15.5	2.0	0.25	16.50	鉄	C17	
20	521	刺形	Ⅳ	16.1	2.3	0.39	36.00	鉄	C15	
20	522	刺形	Ⅳ	15.4	2.9	0.21	24.90	鉄	C20	
20	523	刺形	Ⅳ	15.0	3.2	0.22	23.30	鉄	D20	
20	524	刺形	Ⅳ	16.1	1.4	0.27	19.30	鉄	C14	
20	525	刺形	Ⅳ	15.5	2.8	0.23	18.30	鉄	D15	
20	526	刺形	Ⅳ	16.2	2.4	0.24	22.10	鉄	F08	
20	527	刺形	Ⅳ	16.0	2.7	0.17	17.70	鉄	G04	
20	528	刺形	Ⅳ	(15.3)	2.8	0.14	14.80	鉄	G05	
20	529	刺形	Ⅳ	16.2	4.2	0.28	29.30	鉄	D13	
21	530	刺形	Ⅳ	16.8	2.7	0.20	15.80	鉄	D10	
21	531	刺形	Ⅳ	16.6	3.1	0.45	44.10	鉄	D12	
21	532	刺形	Ⅳ	17.1	2.8	0.25	19.20	鉄	D08	
21	533	刺形	Ⅳ	(18.3)	3.3	0.27	26.50	鉄	D04	
21	534	刺形	Ⅳ	19.4	3.7	0.23	34.40	鉄	D02	
21	535	刺形	Ⅳ	16.6	2.3	0.18	20.00	鉄	C13	
21	536	刺形	Ⅳ	17.6	2.6	0.33	34.60	鉄	C09	
21	537	刺形	Ⅳ	17.3	1.2	0.36	25.40	鉄	C11	
21	538	刺形	Ⅳ	18.4	2.7	0.34	43.20	鉄	C08	
21	539	刺形	Ⅳ	17.0	2.5	0.45	37.40	鉄	C12	
21	540	刺形	Ⅳ	17.9	2.6	0.30	46.50	鉄	G03	
21	541	刺形	Ⅳ	17.0	3.6	0.23	24.70	鉄	D07	
21	542	刺形	Ⅳ	(16.8)	3.3	0.27	28.30	鉄	D06	
21	543	刺形	Ⅳ	(18.2)	2.5	0.19	20.10	鉄	D03	
21	544	刺形	Ⅳ	20.2	1.8	0.24	19.10	鉄	G02	
21	545	刺形	Ⅳ	19.9	2.7	0.22	28.50	鉄	C04	
21	546	刺形	Ⅳ	19.5	2.2	0.36	32.70	鉄	C05	
21	547	刺形	Ⅳ	19.0	2.1	0.21	27.90	鉄	C06	
21	548	刺形	Ⅳ	(17.9)	3.3	0.20	26.40	鉄	C07	
21	549	刺形	Ⅳ	17.7	3.1	0.15	17.50	鉄	C10	
21	550	刺形	Ⅳ	22.0	2.9	0.34	47.40	鉄	C03	
21	551	刺形	Ⅳ	21.6	2.3	0.19	24.30	鉄	G01	
21	552	刺形	Ⅳ	23.4	4.0	0.22	45.80	鉄	B03	
22	553	刺形	Ⅳ	(22.5)	2.5	0.16	26.60	鉄	B02	
22	554	刺形	Ⅳ	25.1	4.1	0.31	58.10	鉄	D01	
22	555	刺形	Ⅳ	26.4	3.5	0.31	68.80	鉄	F01	
22	556	刺形	Ⅳ	30.2	4.3	0.13	20.60	鉄	C02	
22	557	刺形	Ⅳ	31.0	4.7	0.12	23.70	鉄	C01	
22	558	刺形	Ⅴ	7.9	1.5	0.18	6.00	鉄	G49	
22	559	刺形	Ⅴ	8.1	1.6	0.15	5.40	鉄	G47	
22	560	刺形	Ⅴ	9.7	1.7	0.22	8.90	鉄	E50	
22	561	刺形	Ⅴ	9.9	(1.9)	0.18	6.10	鉄	E51	
22	562	刺形	Ⅴ	9.8	1.4	0.24	6.60	鉄	F36	
22	563	刺形	Ⅴ	9.9	1.4	0.18	5.40	鉄	E49	
22	564	刺形	Ⅴ	(10.3)	1.9	0.32	12.40	鉄	E47	
22	565	刺形	Ⅴ	11.3	1.8	0.30	11.20	鉄	E45	
22	566	刺形	Ⅴ	10.9	1.6	0.35	11.60	鉄	E46	
22	567	刺形	Ⅴ	11.6	1.6	0.23	9.20	鉄	E44	
22	568	刺形	Ⅴ	11.9	1.6	0.25	8.90	鉄	E41	
22	569	刺形	Ⅴ	11.8	2.3	0.25	13.10	鉄	E42	
22	570	刺形	Ⅴ	11.7	2.5	0.15	11.60	鉄	F32	
22	571	刺形	Ⅴ	11.9	1.6	0.21	8.30	鉄	E40	
22	572	刺形	Ⅴ	(9.0)	1.8	0.40	13.50	鉄	E48	
22	573	刺形	Ⅴ	(11.3)	2.3	0.43	23.20	鉄	E39	
22	574	刺形	Ⅴ	12.6	1.9	0.38	16.30	鉄	E38	
22	575	刺形	Ⅴ	12.9	1.8	0.28	9.00	鉄	E37	
22	576	刺形	Ⅴ	12.0	1.7	0.18	9.10	鉄	F31	
22	577	刺形	Ⅴ	13.0	1.8	0.17	8.40	鉄	E36	
22	578	刺形	Ⅴ	12.5	1.8	0.24	11.50	鉄	F30	
22	579	刺形	Ⅴ	12.7	2.5	0.31	23.90	鉄	F29	
22	580	刺形	Ⅴ	12.7	1.7	0.20	9.70	鉄	F28	
23	581	刺形	Ⅴ	12.3	1.7	0.22	7.00	鉄	追003	
23	582	刺形	Ⅴ	12.9	2.1	0.21	8.90	鉄	E35	
23	583	刺形	Ⅴ	(12.2)	2.4	0.50	29.50	鉄	E34	
23	584	刺形	Ⅴ	13.4	2.4	0.18	11.50	鉄	E33	
23	585	刺形	Ⅴ	13.7	1.9	0.31	15.10	鉄	E32	
23	586	刺形	Ⅴ	13.5	1.8	0.15	7.60	鉄	E31	
23	587	刺形	Ⅴ	13.9	1.8	0.16	8.60	鉄	E30	
23	588	刺形	Ⅴ	13.4	1.5	0.26	11.00	鉄	E29	
23	589	刺形	Ⅴ	(13.7)	2.6	0.18	11.00	鉄	D26	
23	590	刺形	Ⅴ	(13.4)	2.4	0.13	8.80	鉄	E28	
23	591	刺形	Ⅴ	13.8	1.8	0.27	16.80	鉄	E27	
23	592	刺形	Ⅴ	12.9	2.1	0.20	9.20	鉄	D31	
23	593	刺形	Ⅴ	13.8	2.1	0.27	12.00	鉄	E24	
23	594	刺形	Ⅴ	13.5	2.7	0.20	13.30	鉄	D27	
23	595	刺形	Ⅴ	14.7	2.7	0.19	13.60	鉄	E20	
23	596	刺形	Ⅴ	14.8	2.1	0.18	13.10	鉄	E18	
23	597	刺形	Ⅴ	(13.1)	2.2	0.55	23.10	鉄	E25	
23	598	刺形	Ⅴ	14.7	1.8	0.28	13.70	鉄	E23	
23	599	刺形	Ⅴ	15.9	2.0	0.24	16.60	鉄	E15	
23	600	刺形	Ⅴ	14.4	2.3	0.17	7.80	鉄	追004	
23	601	刺形	Ⅴ	15.8	2.5	0.30	15.90	鉄	E16	
23	602	刺形	Ⅴ	14.3	2.3	0.40	23.60	鉄	E22	

図版	番号	分類		法量cm			重さg	材質	実番	備考
		種別	類	最長	最幅	厚み				
23	603	朝形	V	14.6	2.1	0.33	22.00	鉄	F19	
23	604	朝形	V	15.1	2.0	0.19	11.90	鉄	E19	
23	605	朝形	V	15.3	2.0	0.44	29.10	鉄	D21	
23	606	朝形	V	16.1	1.7	0.23	11.40	鉄	E14	
23	607	朝形	V	16.7	2.7	0.21	18.40	鉄	E12	
23	608	朝形	V	16.7	2.7	0.29	21.00	鉄	E13	
23	609	朝形	V	16.8	1.9	0.52	22.60	鉄	E11	
23	610	朝形	V	17.3	2.5	0.22	13.80	鉄	E10	
23	611	朝形	V	18.0	2.2	0.33	20.60	鉄	E08	
23	612	朝形	V	13.1	2.5	0.51	26.40	鉄	F26	
23	613	朝形	V	(13.5)	2.4	0.19	12.90	鉄	F24	
23	614	朝形	V	13.9	2.3	0.22	14.30	鉄	追013	
23	615	朝形	V	(12.1)	3.0	0.35	24.10	鉄	F27	
23	616	朝形	V	14.4	3.8	0.17	16.30	鉄	F20	
23	617	朝形	V	14.8	2.2	0.28	20.50	鉄	F17	
23	618	朝形	V	14.4	2.0	0.20	9.70	鉄	F21	
23	619	朝形	V	14.0	2.0	0.25	13.70	鉄	F23	
23	620	朝形	V	15.0	1.8	0.20	11.30	鉄	F12	
23	621	朝形	V	14.9	2.3	0.22	26.30	鉄	F14	
24	622	朝形	V	15.0	2.1	0.36	16.10	鉄	F15	
24	623	朝形	V	15.0	2.8	0.35	35.30	鉄	F13	
24	624	朝形	V	15.5	2.5	0.37	30.60	鉄	F10	
24	625	朝形	V	16.7	2.7	0.36	29.50	鉄	F05	
24	626	朝形	V	16.2	2.1	0.43	25.60	鉄	F07	
24	627	朝形	V	16.8	2.5	0.50	39.10	鉄	F04	
24	628	朝形	V	17.3	2.8	0.39	40.40	鉄	D09	
24	629	朝形	V	(16.2)	2.3	0.26	24.00	鉄	E09	
24	630	朝形	V	17.5	3.1	0.50	58.10	鉄	F03	
24	631	朝形	V	18.0	2.6	0.35	25.10	鉄	E07	
24	632	朝形	V	18.1	2.4	0.25	18.60	鉄	F37	
24	633	朝形	V	18.4	2.2	0.29	19.20	鉄	E06	
24	634	朝形	V	18.3	2.2	0.18	12.47	鉄	E05	
24	635	朝形	V	19.1	2.2	0.19	12.40	鉄	E04	
24	636	朝形	V	19.5	2.9	0.45	6.20	鉄	F02	
24	637	朝形	V	21.3	2.8	0.35	30.80	鉄	E03	
24	638	朝形	V	22.8	2.6	0.26	20.40	鉄	E02	
24	639	朝形	V	24.1	2.5	0.26	27.90	鉄	E01	
24	640	朝形	?	16.2	1.5	0.20	11.30	鉄	B19	
24	641	朝形	VI	27.5	4.0	0.06	18.30	鉄	I02	
24	642	朝形	VI	31.0	3.0	0.06	21.30	鉄	I01	
24	643	朝形	VI	23.6	5.7	0.06	23.60	鉄	I04	
24	644	朝形	VI	23.9	5.9	0.06	19.50	鉄	I03	
24	645	朝形	VII	12.8	2.0	0.18	15.90	鉄	H03	
24	646	朝形	VII	12.6	2.3	0.18	17.40	鉄	B42	
24	647	朝形	VII	14.1	2.5	0.32	27.30	鉄	H02	
24	648	朝形	VII	15.6	2.6	0.57	54.20	鉄	H01	
25	649	朝形	VIII	(8.6)	(1.8)	0.16	4.80	鉄	B36	
25	650	朝形	VIII	10.4	1.8	0.22	7.40	鉄	A16	
25	651	朝形	VIII	11.7	1.6	0.22	6.60	鉄	A15	
25	652	朝形	VIII	11.4	1.9	0.15	5.50	鉄	B35	
25	653	朝形	VIII	11.9	1.8	0.12	5.60	鉄	B34	
25	654	朝形	VIII	12.9	2.5	0.12	8.60	鉄	追008	
25	655	朝形	VIII	12.8	1.9	0.21	12.00	鉄	B32	
25	656	朝形	VIII	13.2	1.8	0.19	8.40	鉄	追009	
25	657	朝形	VIII	13.8	2.7	0.20	14.30	鉄	B31	
25	658	朝形	VIII	14.6	2.4	0.16	11.30	鉄	B25	
25	659	朝形	VIII	14.8	2.9	0.27	19.00	鉄	追007	
25	660	朝形	VIII	15.9	2.5	0.19	15.20	鉄	B30	
25	661	朝形	VIII	15.7	2.5	0.17	11.90	鉄	A12	
25	662	朝形	VIII	16.0	(2.0)	0.16	9.00	鉄	B26	
25	663	朝形	VIII	14.8	2.6	0.35	32.20	鉄	A14	
25	664	朝形	VIII	16.0	2.4	0.33	37.80	鉄	A13	
25	665	朝形	VIII	16.3	2.2	0.23	16.40	鉄	A11	
25	666	朝形	VIII	(15.5)	2.8	0.18	15.50	鉄	B29	
25	667	朝形	VIII	16.5	(1.9)	0.22	16.70	鉄	B33	
25	668	朝形	VIII	16.3	2.7	0.19	19.20	鉄	A10	
25	669	朝形	VIII	16.3	2.4	0.25	15.10	鉄	B27	
25	670	朝形	VIII	17.4	2.8	0.17	14.70	鉄	B21	
25	671	朝形	VIII	17.3	2.1	0.22	17.00	鉄	B23	
25	672	朝形	VIII	17.1	2.9	0.22	17.40	鉄	B24	
25	673	朝形	VIII	17.3	3.4	0.30	27.20	鉄	A06	
25	674	朝形	VIII	17.4	2.4	0.20	15.40	鉄	B22	
25	675	朝形	VIII	17.6	3.3	0.22	21.20	鉄	B19	
25	676	朝形	VIII	(17.3)	2.8	0.22	23.00	鉄	A07	
25	677	朝形	VIII	17.7	3.1	0.28	24.30	鉄	B20	
26	678	朝形	VIII	18.6	2.4	0.15	11.90	鉄	A08	
26	679	朝形	VIII	18.9	2.9	0.25	20.60	鉄	B12	
26	680	朝形	VIII	18.9	3.3	0.17	21.50	鉄	B11	
26	681	朝形	VIII	18.6	3.1	0.23	20.50	鉄	B13	
26	682	朝形	VIII	(15.7)	2.5	0.30	20.50	鉄	A09	
26	683	朝形	VIII	18.2	2.4	0.18	16.70	鉄	B18	
25	684	朝形	VIII	19.5	3.4	0.24	21.50	鉄	B10	
26	685	朝形	VIII	19.5	3.1	0.19	18.30	鉄	B09	
26	686	朝形	VIII	18.5	3.6	0.22	23.70	鉄	B16	
26	687	朝形	VIII	18.4	3.8	0.20	24.80	鉄	B15	
26	688	朝形	VIII	18.8	2.2	0.20	12.40	鉄	B14	
26	689	朝形	VIII	19.7	2.9	0.20	23.00	鉄	A04	
26	690	朝形	VIII	20.8	2.9	0.22	27.30	鉄	B06	
26	691	朝形	VIII	20.6	2.7	0.25	17.80	鉄	B08	
26	692	朝形	VIII	(11.8)	2.6	0.23	23.30	鉄	B17	
26	693	朝形	VIII	(12.9)	2.4	0.24	14.10	鉄	E21	
26	694	朝形	VIII	13.5	2.6	0.07	5.50	鉄	I06	
26	695	朝形	VIII	20.7	3.5	0.23	28.20	鉄	B07	
26	696	朝形	VIII	21.8	3.1	0.22	29.20	鉄	B05	
26	697	朝形	VIII	21.9	(2.8)	0.20	22.10	鉄	B04	
26	698	朝形	VIII	21.7	2.5	0.18	22.20	鉄	A03	
26	699	朝形	VIII	22.7	2.8	0.23	34.30	鉄	A02	
26	700	朝形	VIII	25.2	3.6	0.26	36.80	鉄	B02	
26	701	朝形	VIII	27.0	3.6	0.37	78.60	鉄	B01	
26	702	朝形	VIII	30.6	6.1	0.34	102.80	鉄	A01	
27	703	鏃形	III	16.9	3.1	0.21	38.70	鉄	B13	『天保二年』『卯七月三川中』
27	704	鏃形	II	20.8	3.4	0.28	61.10	鉄	B08	『天保四年』『己八月三川中』
27	705	鏃形	II	17.1	2.9	0.20	29.60	鉄	B15	『天保五年』『午年　三川』
27	706	鏃形	III	13.9	2.9	0.27	24.40	鉄	B40	『奉納』
27	707	鏃形	III	11.0	1.6	0.13	5.00	鉄	B69	『未年四月』
27	708	鏃形	III	12.6	1.7	0.26	15.00	鉄	B50	『十一月三川』
27	709	鏃形	III	19.1	2.7	0.18	24.30	鉄	B11	『□四月　三川』
27	710	鏃形	III	19.6	2.5	0.32	51.00	鉄	B09	『寅七月一日』『三川』
27	711	鏃形	V	14.3	2.6	0.14	10.70	鉄	F18	『三川中』
27	712	鏃形	IV	16.7	3.0	0.29	31.60	鉄	D11	『目向』
27	713	鏃形	VIII	19.6	2.9	0.15	24.40	鉄	A05	『三□』
27	714	鏃形	IV	16.9	2.1	0.22	14.20	鉄	B28	『三川中』
27	715	鏃形	V	24.0	4.9	0.23	51.20	鉄	B03	『三川中』
27	716	鏃形	IV	12.0	2.6	0.25	18.30	鉄	D35	『三川』
27	717	鏃形	IV	12.0	2.4	0.25	19.30	鉄	D34	『三川』
27	718	鏃形	IV	18.3	3.7	0.18	55.90	鉄	I05	『奉納日向常会　一八：六』
27	719	刀形	V	20.4	2.3	0.20	24.80	鉄	ナギ13	『日向中』
27	720	刀形	IV	20.8	3.1	0.03	9.20	鉄	東2	『昭十八　タヤヒカゲ』
28	721	弓形	I	30.0	0.6	0.46	37.50	鉄	①	
28	722	弓形	II	26.3	0.5	0.44	23.90	鉄	③	
28	723	弓形	I	17.6	0.6	0.40	28.90	鉄	追044	
28	724	弓形	I	17.4	0.8	0.30	28.60	鉄	④	
28	725	弓形	II	15.8	0.8	0.22	15.50	鉄	⑤	
28	726	弓形	?	17.8	1.1	0.36	23.10	鉄	追040	
28	727	弓形	I	16.5	0.5	0.46	10.40	鉄	追034	
28	728	弓形	I	17.4	0.6	0.36	22.40	鉄	追041	
28	729	弓形	III	31.2	0.5	0.57	46.60	鉄	②	
28	730	弓形	III	32.6	0.5	0.30	19.70	鉄	追042	
28	731	弓形	III	28.4	0.6	0.25	17.20	鉄	追043	
28	732	弓形	III	26.3	0.6	0.28	20.10	鉄	追038	
28	733	弓形	III	21.0	0.5	0.32	17.90	鉄	追036	
28	734	弓形	III	20.8	0.6	0.20	9.90	鉄	追033	
28	735	弓形	?	13.7	0.6	0.48	10.20	鉄	追037	
28	736	弓形	?	13.6	0.5	0.29	8.00	鉄	追039	
28	737	弓形	?	11.9	0.5	0.27	6.50	鉄	追045	
28	738	弓形	?	15.4	0.6	0.18	8.10	鉄	追035	
28	739	弓形	?	(6.0)	0.4	0.28	1.20	鉄	追049	
28	740	矢形	II	24.6	1.5	0.19	13.20	鉄	1	
28	741	矢形	II	17.8	1.8	0.29	11.80	鉄	3	
28	742	矢形	II	18.8	0.9	0.37	12.30	鉄	2	
28	743	矢形	I	15.9	1.2	0.35	9.80	鉄	4	
28	744	矢形	I	(5.4)	0.9	0.35	2.00	鉄	追050	
28	745	朝形	IV	11.9	1.6	0.44	1.30	木		
28	746	鈴	−		2.1	0.05	1.80	スズ?	追046	
28	747	不明	−	(5.4)	1.1	0.7	2.06	鉄	④	鏃鎌か?
28	748	釘	−	(9.7)	1.2	0.50	8.90	鉄	2	
28	749	釘	−	14.2	1.0	0.48	14.20	鉄	1	
28	750	釘	−	8.4	1.1	0.35	6.40	鉄	3	
28	751	釘	−	6.7	頭0.7	0.43	4.10	鉄	追031	
28	752	釘	−	6.2	頭0.8	0.34	3.40	鉄	追030	
28	753	釘	−	5.4	頭0.7	0.27	2.50	鉄	追028	
28	754	釘	−	5.2	0.5	0.33	2.60	鉄	4	
28	755	釘	−	3.5	頭0.7	0.31	1.40	鉄	追029	
28	756	鏡	−		3.0	0.13	82.60	鉄	追032	幅・厚みともに柄部分は除く
28	757	古銭	−		2.2	0.10	2.50	青銅	追047	寛永通宝
28	758	古銭	−		2.2	0.18	3.60	鉄	追048	寛永通宝
29	759	筒形	−	2.6	2.7	0.08	4.30	鉄	追082	
29	760	筒形	−	4.0	2.3	0.31	27.70	鉄	追083	
29	761	筒形	−	3.7	3.5	0.16	22.80	鉄	追089	
29	762	筒形	−	3.6	2.8	0.14	9.30	鉄	追084	
29	763	筒形	−	3.6	2.9	0.18	22.10	鉄	追085	
29	764	筒形	−	4.0	3.6	0.20	44.40	鉄	追088	
29	765	筒形	−	3.8	4.2	0.16	29.50	鉄	追086	
29	766	筒形	−	3.8	4.4	0.20	26.60	鉄	追087	
29	767	筒形	−	2.2	6.6	0.05	7.70	鉄	追118	
29	768	筒形	−	3.1	4.8	0.25	31.80	鉄	追092	
29	769	筒形	−	3.3	4.9	0.11	28.80	鉄	追093	
29	770	筒形	−	2.9	3.3	0.12	22.80	鉄	追100	
29	771	筒形	−	3.7	3.2	0.16	26.00	鉄	追098	
29	772	筒形	−	3.1	3.7	0.16	26.40	鉄	追099	
29	773	筒形	−	3.2	4.3	0.13	38.40	鉄	追101	
29	774-1	筒形	−	3.9	4.0	(0.25)	(86.10)	鉄	追109	重さは774-1・2の合計
29	774-2	筒形	−	3.4	3.0	(0.18)	(86.10)	鉄	追109	
29	775	筒形	−	3.5	5.3	0.28	44.50	鉄	追104	
29	776	筒形	−	3.3	5.5	0.16	47.10	鉄	追103	
29	777	筒形	−	3.0	5.7	0.15	35.50	鉄	追102	
29	778	筒形	−	4.6	4.5	0.31	56.50	鉄	追114	中に石
29	779	筒形	−	3.3	5.3	0.26	40.10	鉄	追094	
29	780	筒形	−	3.5	4.2	0.14	21.50	鉄	追117	
29	781	筒形	−	2.9	6.0	0.14	23.70	鉄	追091	
29	782	筒形	−	3.4	5.0	0.26	29.10	鉄	追090	
29	783-1	筒形	−	3.4	4.5	0.21	41.10	鉄	追115	
29	783-2	筒形	−	2.9	3.7	0.18	22.20	鉄	追115	
29	784	筒形	−	4.0	5.1	0.12	26.40	鉄	追095	
29	785	筒形	−	4.8	5.7	0.23	49.70	鉄	追096	
29	786	筒形	−	4.3	5.0	0.14	39.10	鉄	追110	
29	787	筒形	−	5.1	5.6	0.09	40.4	鉄	追112	
29	788	筒形	−	7.4	6.9	0.15	125.00	鉄	追106	
29	789	筒形	−	6.7	5.7	0.15	70.10	鉄	追113	
29	790	筒形	−	3.9	5.2	0.12	38.90	鉄	A4	
29	791	筒形	−	4.5	6.4	0.19	64.80	鉄	追105	
29	792	筒形	−	6.3	3.3	0.15	32.40	鉄	A1	
29	793-1	筒形	−	5.3	3.6	(0.28)	(127.00)	鉄	追111	重さは793-1～3の合計
29	793-2	筒形	−	4.6	3.2	(0.20)	(127.00)	鉄	追111	
29	793-3	筒形	−	3.8	4.0	(0.17)	(127.00)	鉄	追111	
29	794-1	筒形	−	6.5	5.8	(0.25)	(170.60)	鉄	追116	重さは794-1・2の合計
29	794-2	筒形	−	5.6	4.8	(0.21)	(170.60)	鉄	追116	
29	794-3	筒形	−	4.3	3.7	0.13	16.80	鉄	追116	
29	794-4	筒形	−	2.9	5.5	0.10	22.60	鉄	追116	
29	795	筒形	−	6.2	6.5	0.18	98.90	鉄	追097	
29	796-1	筒形	−	4.9	4.0	(0.20)	(163.40)	鉄	A3	重さは796-1～4の合計
29	796-2	筒形	−	4.4	4.9	(0.12)	(163.40)	鉄	A3	
29	796-3	筒形	−	3.4	5.2	(0.11)	(163.40)	鉄	A3	
29	796-4	筒形	−	3.1	5.3	(0.13)	(163.40)	鉄	A3	
29	797-1	筒形	−	4.8	4.5	(0.30)	(100.00)	鉄	追108	重さは797-1～3の合計
29	797-2	筒形	−	4.2	3.3	(0.20)	(100.00)	鉄	追108	
29	797-3	筒形	−	3.7	5.2	(0.11)	(100.00)	鉄	追108	
29	797-4	筒形	−	2.6	3.8	0.12	16.40	鉄	追108	
29	798-1	筒形	−	5.5	5.9	(0.10)	(167.80)	鉄	A2	重さは798-1・2の合計
29	798-2	筒形	−	4.6	5.6	(0.30)	(167.80)	鉄	A2	
29	799	筒形	−	4.7	5.6	0.15	66.30	鉄	追107	
29	800	筒形	−	2.7	3.0	0.36	46.60	鉄	B2	
29	801	筒形	−	4.1	3.2	0.42	113.80	鉄	B1	
29	802	筒形	−	3.1	0.6	0.26	6.20	鉄	追119	
30	803	円板	−	2.8	2.6	0.06	1.10	鉄	追052	
30	804	円板	−	2.9	2.8	0.10	2.70	鉄	追054	
30	805	円板	−	2.9	2.5	0.16	4.30	鉄	追053	
30	806	円板	−	3.0	2.8	0.11	3.60	鉄	追055	
30	807	円板	−	3.1	3.0	0.13	2.80	鉄	追062	
30	808	円板	−	3.2	3.0	0.13	3.10	鉄	追061	
30	809	円板	−	3.9	3.2	0.08	2.70	鉄	追059	
30	810	円板	−	3.6	3.4	0.14	3.90	鉄	追063	
30	811	円板	−	3.5	3.3	0.10	3.50	鉄	追060	
30	812	円板	−	3.6	3.3	0.10	3.70	鉄	追051	
30	813	円板	−	3.4	3.2	0.16	7.50	鉄	追057	
30	814	円板	−	3.5	3.3	0.22	8.30	鉄	追058	
30	815	円板	−	3.8	3.5	0.08	3.50	鉄	追056	
30	816	円板	−	4.1	4.0	0.19	9.60	鉄	追065	
30	817	円板	−	4.2	3.9	0.08	4.90	鉄	追067	
30	818	円板	−	4.3	3.8	0.08	5.50	鉄	追068	
30	819	円板	−	4.2	4.0	0.12	5.40	鉄	追070	
30	820	円板	−	4.0	3.9	0.12	6.50	鉄	追066	
30	821	円板	−	4.1	3.9	0.13	6.70	鉄	追069	
30	822	円板	−	4.3	4.2	0.18	8.60	鉄	追064	
30	823	円板	−	(4.3)	(3.5)	0.07	2.00	鉄	追079	
30	824	円板	−	(3.7)	(2.4)	0.10	2.40	鉄	追080	
30	825	円板	−	4.9	4.2	0.12	4.80	鉄	追074	
30	826	円板	−	4.8	4.7	0.10	9.30	鉄	追072	
30	827	円板	−	4.9	4.6	0.15	11.50	鉄	追071	
30	828	円板	−	5.0	4.8	0.16	13.00	鉄	追073	
30	829	円板	−	5.7	5.4	0.12	14.20	鉄	追077	
30	830	円板	−	7.0	6.0	0.30	29.00	鉄	追075	
30	831	円板	−	6.4	6.1	0.18	17.70	鉄	追076	
30	832	円板	−	(6.7)	6.4	0.13	18.90	鉄	追078	
30	833	鏡形	−	6.1	6.0	0.06	9.50	青銅	追081	

(0.6%) となる。

(1) 薙鎌（第５～８図）

屈曲した頭部と体部を持った鎌形鉄製品。頭部には目と口、体部の背、腹にはヒレ（線刻または切り込み）をもつが、それらの省略形もある。その形によって龍、蛇、馬、鳥にも似る。実用品に近い鎌の先端に口の表現をつけたものもある。計112点あり、１ヶ所の発見例としては異例の多さである。

薙鎌の呼称名の設定　ここでは薙鎌を説明するにあたり、各部の呼称名を決めておきたい。薙鎌は「頭」部、「体」部、「尾」部からなり、頭部には「口」、「目」がある。体部は背中側を「背」、腹側を「腹」とする。背あるいは腹に線刻または切り込みでヒレ表現をもつものがあり、「ヒレ」と呼び、「背ヒレ」、「腹ヒレ」も用いる。薙鎌は板状であるため、口を左側に置いたときに下面を「右面」、上面を「左面」とする。観察するにあたって注意した点に、目の孔の打ち抜き方向（目を貫通孔で表現した例ではどちらの面からの打ち抜きか）、口表現の区別（口が開いたもの、閉じたもの―横線が入る、ないもの―閉じた状態で線がない）、ヒレの向き（上向きか下向きか）と本数がある。なお、表中の長さについては、鎌の全長の計測法を参考にして口－尾端部間を計測した。そのほかの部分名称についても適宜鎌の呼称名を援用する。尾部については、鎌としたときの柄に入る部分とみなして、あるいは柱に打ち込む機能を想定し「込み」という用語も用いられている。

薙鎌の観察　第１表とあわせて個々の薙鎌について、とくにヒレ表現、鉄板の状況等の説明を行う。

1　ヒレは左面のみ３本の下向き線刻。右面にも１～２本の下向き線刻がぼんやり見える。鉄板は薄く、反りがある。縁部はもろく、欠け始めている。

2　口は欠損。ヒレ文様はない。鉄板は薄く、縁部は欠け顕著で、折れ曲がりがあり、錆進行顕著。

3　ヒレは下向きで、左面に６本、右面に６～７本ある。尾の先がやや右に曲がる。鉄はやや厚い。

4　口は下口唇突出。ヒレは左面２本、右面３本以上で上向き。鉄板はやや薄い。

5　目は左面のみの刺突。口は上口唇突出。ヒレは左面７本、右面かすかに３本で、上向き。鉄板は厚いところで1.2㎜。形態は４に類似。

6　体部上半欠。ヒレなし。鉄板はやや薄く、左面側に曲がる。縁部の腐蝕進行。

7　ヒレは下向きで、右左面に７本ずつの線刻がある。鉄板はやや厚みがある。

8　ヒレは両面に下向き３本程度あるが、不明確。鉄板はやや薄く、縁部の腐蝕進行。

9　ヒレは下向きで左面７本程度、右面は不明。背は波状だが、腐蝕による欠けか。縁部は腐蝕進行。

10　ヒレは左面に下向き２本ほど見えるが不鮮明。鉄板は稜をもつように中程が厚く、重量感あり。

11　ヒレは両面に７本ずつの下向きの線刻。鉄板は中程がやや厚い。

12　ヒレは下向きで左面に７本ほどあり、はっきりしたものは４本程度。右面のヒレは定かではない。縁部は腐蝕進行。鉄板はやや薄い。

13　ヒレは下向きらしき線刻が左面に３本程度、右面に２本程度見えるが、不鮮明。

14　目は左面のみの刺突。ヒレは左面6あるいは７本、右面６本の上向き線刻。３本のヒレの背側が切れて鋸歯状を呈す。重量感あり。

15　ヒレは右面のみで、３本の短い上向き線刻。頭部腐蝕進行。

16　ヒレなし。

17　ヒレは右面に２本、左面に３本の下向き線刻がありそうだが、不明確。頭部付近の縁部腐蝕進行。鉄板はやや厚い。

18　ヒレは右面に３本、下向き線刻がかすかにあり、左面には１本ほどかすかに見える。鉄板はやや薄く、左面に反りあがる。縁部は腐蝕進行。

19　ヒレは左面に下向き１本か。鉄板は中程が盛り上がり、厚い。

20　口は下口唇が長い。ヒレは両面とも２～３本の下向き線刻があるが、不鮮明。鉄板は中程が厚い。

21　目は右面からの打ち抜きで左面が凸状を呈す。ヒレは下向きで左面７本、右面４本以上ありそうだが、右面については不鮮明。

22　ヒレは左面６、右面７本の下向き線刻。縁部の腐蝕進行。

23　ヒレは左面６本以上、右面5本以上で、下向き。中程厚みあり。頭部腐蝕進行。

24　ヒレはなし。錆著しく、縁部腐蝕進行。下半が左面に曲がる。鉄板はやや薄い。

25　口は開かず、1本のくちばし状。ヒレは左面に５本、右面に７本程度の上向き線刻。鉄板は薄く、錆腐蝕顕著。縁部腐蝕著しい。

26　目は右面に不鮮明ながら刺突あり。口は線のみで右面にある。ヒレは右面に３本がかすかにあり、ごく短い上向き線刻。

27　目は刺突かと思われ、右面にあるが不鮮明。口は線が右面にかすかにある。ヒレは左面に３～４本のごく短い上向き線刻があるが、かすか。口先と尾端部は欠。26に形態類似。

28　目は両面に刺突。ヒレは上向き線刻で、左面に６本、右面に４本以上ある。尾は欠損。下半に孔がある。頭部付近は縁部腐蝕進行。

29　目は不明だが右面に刺突か。ヒレは右面に６本程度、上向き線刻がある。頭部付近の腐蝕進行。

30　口は下口唇突出。右面から敲打。ヒレは右面に明確な6本の下向き線刻あり。腹部の腐蝕顕著。

31　ヒレは右面に3本程度の上向き線刻がかすかにある。尾端部は右面側に曲がる。

32　ヒレは左面に5本ほどかすかに下向き線刻がある。腐蝕進行し、縁部欠ける。

33　目は右面からの打ち抜きで、左面凸状。ヒレは左面7本、右面5本程度の下向き線刻。

34　ヒレは左面5本、右面4本以上のかすかな上向き線刻。

35　目は右面からの打ち抜きで左面は軽い凸状。ヒレは左面に4～5本、右面に4本程度の下向き線刻。尾の先端がわずかに右面上がり。

36　目は右面からの打ち抜きで左面凸状。ヒレは左面4本、右面3本程度の下向き線刻。全体的には薄く曲がる。

37　右面からの打ち抜きで、わずかに左面に凸状。ヒレはない。

38　目は左面からの打ち抜きで右面凸状。ヒレは左面のみ7本の下向き線刻。重量感あり。タツノオトシゴ的。

39　目は右面打ち抜きで、左面にわずかに凸状。ヒレは左面に5本の上向き線刻。全体に厚く、重量感あり。

40　ヒレはない。全体に厚く、重量感あり。

41　ヒレはかすかな下向き線刻で、左面6本、右面に5本程度。尾端部は右面に軽く曲がる。

42　ヒレは左面に下向き線刻6本、右面には1本程度。尾端部は右面に軽く曲がる。

43　左面には上向き3～4本、下向き2本、右面には下向き線刻5本のヒレがある。全体にやや厚い。

44　目は両面に刺突。ヒレは左面7本、右面6本の上向き線刻。線は細く鋭い。鉄板は全体にやや厚い。

45　目は両面から刺突。ヒレは左右両面とも4～5本程度の上向き線刻で、かすか。形態は44に類似。

46　ヒレは左面8本、右面6本の下向き線刻。

47　ヒレは左面8本、右面7本の下向き線刻。

48　ヒレは左4本、右1本？の下向き線刻。

49　目は左面から打ち抜きで、右面わずかに凸状。円孔。ヒレは左面4本、右面4本以上の下向き線刻で、線は細くかすか。全体にやや厚い。

50　ヒレは左6本程度、右面5本程度の下向き線刻。頭部腐蝕顕著で欠損部多い。

51　ヒレは左面13本、右面12本の下向き線刻。鉄板は全体にやや薄く、腹部は縁部欠損。

52　ヒレは下向きで、左面5本以上、右面4本以上。寸胴形。やや薄い。

53　ヒレは左右両面とも7本の下向き線刻。

54　ヒレは左右両面とも7本の下向き線刻。53に形態類似。

55　目は四角形で、非常に大きい。ヒレは左右両面とも8本ずつの下向き線刻。

56　ヒレは左右両面4本ずつの上向き線刻で、やや厚い。

57　ヒレは左面6本、右面3本の上向き線刻。右面のヒレはかすか。

58～60　口・目・ヒレはなく、刀形の可能性あり。

61　ヒレは右面のみで、2～3本の下向き線刻。

62　目は右面からの打ち抜きで、左面凸状。ヒレは左面にのみ3本で、下向き線刻。

63　目・口なし。ヒレは左面に上向き線刻がかすかにありそうだが非常に不明確。縁部腐蝕。

64　ヒレは右面にのみで、7本の下向き線刻。全体に厚く、重量感あり。

65　目は右面のみで刺突。ヒレは左右両面とも4本の上向き線刻。

66　ヒレは左面のみで、7本の上向き線刻。全体に薄い。

67　目はなく、右面に刺突があるが不明確。ヒレは左面腹に5本の下向き線刻、背に3本程度の上向き線刻がある。右面腹には2本の下向き線刻、背に2本程度の上向き線刻らしきものがあるが、左面ほど明確ではない。体部中央に孔があり、右面から貫通した円孔で、28と共通する。やや厚い。

68　ヒレは左面3本で、上向き線刻。縁部腐蝕進行。全体に薄い。

69　ヒレは左6本、右4本で下向き線刻。全体に薄い。縁部は腐蝕顕著。

70　ヒレは左面5本程度、右面6本の上向き線刻。線は細く鋭い。やや厚い。

71　目は右面に刺突。口・ヒレはない。頭部は欠損。

72　上半欠のため頭部不明。ヒレなし。縁部腐蝕進行。

73　目・口・ヒレ不明。縁部腐蝕進行。中程厚い。

74　目は両面に刺突。ヒレは左面腹に3本、背に3本の下向き線刻。右面には背のみに4本の下向き線刻。全体にやや厚い。

75　目は両面に刺突があるが不明確。ヒレは左面腹に3本の下向き線刻、右面には背に2本～3本の下向き線刻あり。

76　目は右面に刺突。ヒレは左面背に1本、腹に4本の不明確な下向き線刻あり。右面には腹に5本、背に2本の下向き線刻。右面に軽く反る。

77　口は小さく開く。左面から敲打か。ヒレは左面4本ほどの下向き線刻。

78　ヒレはない。縁部腐蝕進行。尾端部は右面側に軽く曲がる。

79　頭部・尾部欠損。縁部腐蝕顕著。左面背3～4本の上向き線刻。ヒレは腹に1本の上向き線刻が不鮮明ながらある。右面腹に3本の上向き線刻。薄く反り曲がる。

80　口は上口唇が長く、左面からの敲打。背ヒレは左面5～6本、右面4本の上向き線刻で、長い。尾は厚い。

81　背ヒレは左面のみに5本の下向き線刻。右面にはないらしい。全体に厚く、重量感あり。

82　口を大きく開く。ヒレは左面背に下向き線刻5～6本ある。尾部のみ厚い。全体に薄く曲がる。

83　目は刺突で両面にあり。ヒレは背ヒレ・腹ヒレともにあり、左面背ヒレ11本、腹ヒレ13本の下向き線刻。右面は背ヒレ8本以上、腹ヒレ9～10本の下向き線刻。

84　目は右面から打ち抜きで、左面が凸状を呈する。ヒレは左面のみで、4本の下向き線刻。全体にやや厚く重量感あり。

85　背ヒレは5～6本で、下向き線刻。右面にはなく、84・87と共通する。

86　口・尾は破損か。ヒレは左面に6本の下向き線刻。右面は不明。全体にやや薄い。頭部腐蝕進行。

87　口は下口唇が長い。背ヒレは左面のみで、7本の下向き線刻。

88　目は右面からの打ち抜きで、左面が凸状を呈す。背ヒレ左面4本、右面3～4本の下向き線刻。やや薄い。

89　体部を大きく反り、ヒレはない。

90　89に似た形態。ヒレは左面2～3本、右面に3～4本の下向き線刻で不鮮明。やや厚い。

91　目・口・ヒレなし。頭部腐蝕進行。

92　目・口・ヒレなし。やや薄い。尾端部右面に曲がる。腹側が刃部のように薄い。

93　口・ヒレはない。腹側は薄い。92に類似。目は敲打で、両面にある。

94　目は左面からの貫通孔で、右面は凸状を呈する。ヒレは左面に4～5本の下向き線刻あり。全体に厚く、重量感あり。

95　小型で、体部は小さく抽象的。ヒレはなし。

96　体部小さく、抽象的。ヒレはない。

97　ヒレはない。体部は直線的で抽象的。

98　頭部欠損。ヒレなし。2㎜。

99　目は非常に大きく、口は大きく開く。ヒレなし。やや厚く重量感あり。

100　目は不整円形で大きく、口は大きく開く。ヒレなし。99と類似。

101　ヒレはない。厚く、重量感あり。

102　口を大きく開く。ヒレはない。厚く重量感あり。

103　目は左面からの打ち抜きで、右面が凸状を呈する。ヒレはない。厚く、重量感あり。

104　目は円形で大きく、右面が凸状を呈する。口は鋭く、大きく開き、鳥のくちばし状。全体的に外形は左面から鉄板を打って切る。左下に尾が付くらしい。厚く、重量感あり。

105　木の葉状。ヒレは鋸歯状で、5本。上向き。背、腹側ともに刃部のように薄い。

106　頭部欠損。背ヒレは鋸歯状で、鋸のように交互になる。ヒレは4本の上向き切込み。腹部にも上向き切り込み1本あり。腹側は薄く、刃部状。

107　口は大きく開く。頭部にヒレがあり、左面4本、右面3～4本の上向き線刻。尾部は厚い。

108　小鎌形で小さな口あり。目、ヒレはない。

109　鎌形で目・ヒレはない。口は小さく開く。腹（刃）部は薄いが、実用的ではない。

110　目・ヒレはなく、口は小さい。刃部は薄い。

111　目・ヒレなし。口はごく小さい切り込みあり。110と同形。

112　実用品かと思われる鋸鎌の先端に小さな口が開く。目・ヒレはない。腹（刃）側に鋸歯。

薙鎌の分類　以上112点を分類するにあたり、体形によって大きく7類に分け、さらに小分類をする。

Ⅰ類（1～54）　体部が緩やかに湾曲し、頭部が屈曲して付く。頭部形状によっていくつかの分類が可能である。ヒレ・目・口を完備し、尾は短く屈曲した典型的な薙鎌が多い。

Ⅰa類　頭部が短い（1～14）。3は体部の丸みが強く、別の分類が可能である。

Ⅰb類　頭部が丸く口が長くのびる（15～25）。口がなく、口ばしが長くのびた鳥の頭状の形態が目立つ（21～25）。19・20は体部に稜をもち類似性が高いほか、24・25、41・42、44・45、46・47など対で類似するものを多く指摘できる。

Ⅰc類　頭が平らで、頭部から口にかけて長くのびる（26～54）。馬面状。Ⅱ類に近い。

Ⅱ類（55～57）　体部が直線的で、頭部は斜め上を向く。魚的。背から口にかけては丸みがあり、腹から口にかけても緩やかな曲線を描く。34も本類に近い。

Ⅲ類（58～87）　体部直線的で、頭部は前方に屈曲する。蛇的。

Ⅲa類　刀形の可能性ある形態（58～60・64）。柄が屈曲した刀はないので、柄が屈曲して直線的にのびた本類を薙鎌の一群とした。短いほうの柄側を頭部とみなし、切っ先側を尾と考えたが、その逆に切っ先側が頭部の可能性もある。体部は直線的だが、わずかに湾曲する。頭部は体部に対して直角に近い形で取り付いた例が多い。

Ⅲb類　直線的な体部の薙鎌（61～63・65～87）。体部が直線的なものが多いほか、わずかに内湾するもの（61・71）、外反するもの（82）がある。ヒレがないもの（61・63・71～73・78）が目立つほか、背とともに腹部にもヒレをもつものがあり（67・74・76・79・83）、本類の特徴といえる。体部に対して頭部はわずかに斜め上向きに付いた例が多い。

Ⅳ類（88～94・107）体部から尾部にかけて大きく反り、尾は屈曲し直線的で長い。目、口、ヒレがないもの、それに近いもの（91～93）と、あるもの（88～90・94）があるほか、107は別分類とし

て分離されるかもしれない。

Ⅴ類（95～104）　頭部大きく、体部は細長く、抽象的。ヒレはなく、目は概して大きい。口を大きく開き、長く尖るものが多い。尾が直線的なものと屈曲するものがあり、直線的なものが目立つ。小型（95～97）、中型（98～100）、大型（101～104）がある。104は体部が膨らみ、異質である。

Ⅵ類（105・106）木の葉状の鋸形。105はヒレの切れ目が幅広。106は切り込みを入れた後、交互に目立てを行っている。木挽きの大鋸のようである。

Ⅶ類（108～112）鎌形。

Ⅶa類　鎌形。

Ⅶa1類　小鎌形（108・109）。柄首は長く直線的。柄首に対して直角に刃がつく。刃部は直線的。108・109は柄首の長さが違うものの、セットの可能性がある。

Ⅶa2類　鎌形（110・111）。柄首は刃に比べ短く、刃が柄首に対してわずかに上向きに付く。柄首先端は小さく曲がる。刃部は直線的で薄く、実用品の転用の可能性がある。110・111はほぼ同形で、セットとみなされる。

Ⅶｂ類　鋸鎌形（112）。刃部は湾曲し、中ほどに鋸刃が付けられている。

(2) 刀形（第9～14・27図）

反りを持つ刃部（刃先）と細い茎が表現される。目釘穴はほとんどなく、茎と境の無い長刀状もの、境に鍔状の膨らみを持つもの等がある。平板状のものが大部分であるが、鎬（稜）や刃部を持つものもわずかにある。計150点。

部分名称は刀の呼称名に従い、先端を「切っ先」、鍔がつく段差を「刃区（はまち）」「棟区（むなまち）」、柄に入る部分を「茎」、茎末端がL字に曲がったものを「コミ」（込み）とする。図は切っ先を右に向け、図正面を右面、図裏面を左面とする。

刀形の分類　形態によって5類に大別し、その中で直刀形、反り形の区別、刃部の細身・太身、切っ先が尖形のもの、鎬の有無、コミの有無、反りの強弱などで細別できる。

Ⅰ類　棟区、刃区をともにもつもの（113～136）。

Ⅰa類　直刀形（113～117）。鎬をもつもの（114・115）、茎に目釘穴をもつもの（117）がある。細身（113～115）と太身（116・117）がある。

Ⅰb類　反り形（118～136）。鎬をもつもの（120・123・126・140・141）、棟区・刃区が角をもつもの、丸みをもって茎に移行するものがある。刃区が幅広のもの（127・132・137・139）、切っ先側の刃の幅が狭く、尖形を呈するもの（120～124・127）がある。多くは反りが弱い中で、反りの強いもの（123・124・127・139～141）がある。コミをもつものは6点存在する。刃部幅で分類すると、細身（118～125・134～136など）、太身（126・137など）がある。小型（118～124）、中型（125～132・140・141）、大型（133～139）の3種がある。

Ⅱ類　棟区はなく、刃区をもつもの（142～209）

Ⅱa類　直刀形（142～151）。細身（142～148）、太身（149～151）がある。細身には切っ先が細い尖形がほとんどである（143～148）。

Ⅱｂ類　反り形（152～209）。細身（152～177）、太身（178～209）があり、210も本類かもしれない。細身は小型、中型に多く、太身は中型、大型に多い。反りは非常に弱いものが多く、全体に直刀形に近いが、中には反りのやや強いものがある（180・208・209）。刃部は同じ幅のものが多いが、切っ先側が狭い尖形に180・181・183・185・190・202・203などがある。また切っ先側が膨らむ例に204がある。

Ⅲ類　棟区、刃区ともにないもの。全くないもののほか、ごく弱く表現されたものも含む。刃部細身を主とするのが特徴である。小型（211～222）、中型（223～230・233～238）、大型（231・232・239）の3種に分類できる。

Ⅳ類　鍔状の突出をもつもの（240～245・720）。反り形、長刀形（245）がある。鍔状の突起は剣形の円形の鍔状のふくらみとも共通した形である。柄部は直のものが大半であるが、端部が小さく曲がって目釘穴状を呈するものもある（244）。720はブリキ製で、昭和18年、南相木村「タヤヒカゲ」（田屋日影）地区による奉納。形態は245に類似する。

Ⅴ類　長刀形（246～260・719）。柄は全体に長く、刀は切っ先側の幅が広く、切っ先側が強く反り返る。

Ⅴa類　棟区、刃区らしき弱い段差をもつもの。

Ⅴb類　棟区・刃区ともにもたないもの（250～260・719）。柄と刃部の境が不明瞭。

(3) 剣形（第14～27図）

先が三角形に尖り、左右対称の形をとる。茎の部分が細いものと、柄状に幅広のものがあり、円形の鍔状もしくは鏡状の表現をしたものがある。鎬も一部に認められるが、刃はなくほとんどが平板状である。「三川」「日向」「天保四年」等の銘を鏨で刻したものがあり、奉納した南相木村内の集落名と奉納時期がわかる。計458点。なお三川地区では剣形鉄製品を山から下ろし、三川の水に浸けると雨が降る、いう雨乞い祭事に関する聞き取りをしている。

剣形の名称としては先端の三角形の部分を「切っ先」、反対側を「柄」とする。鎬（稜）、文様、銘がある場合、その面を表とした。ここでは図の表面を表、裏面を裏とする。

剣形の分類　剣形は切っ先の形状（角度）および柄の形態で分類が可能である。

Ⅰ類　切っ先が鈍角を呈するもの（261～286）。側縁は直線的であるが、わずかに内湾する例がある（267・273・275など）。切っ先の幅が狭い細身（277・279～281・283・284など）と太身（264・266・267・270・273・275・276・282・285など）がある。261・262は小型で、コミをもち、対をなす。そのほかにも同形の例はいくつか指摘できる。切っ先に弱い鎬をもつものに274・281がある。

Ⅱ類　切っ先がほぼ直角（287～327）。

Ⅲ類　切っ先が鋭角で、直角に近い（328～381）。

Ⅳ類　切っ先が45度に近い尖形（382～557・716・718）。切っ先部が発達し、幅広となり、側縁が湾曲したものも含む。716と717は同じ形、大きさで同じ「三川」銘をもち、対をなす。

Ⅴ類　切っ先は尖形で、薄く敲打することで切っ先の両側が丸みをもって膨らむ（558～639）。

Ⅵ類　柄部が臼状を呈するもの（641～644）。4点とも大型で、切っ先は鈍角、鉄板は薄い。641には刃部と柄をつなぐように2箇所の鋲留めがある。643・644は同形で、対をなす。

Ⅶ類　柄端部が三角形を呈すもの、および刃区をもつもの（645～648）。切っ先はいずれも鋭角で、645と646は同形で対と考えられる。

Ⅷ類　刃部と柄部の間に円板、もしくは角状の鍔状装飾をもつ（649～702・714・715・718）。Ⅰ～Ⅴ類の分類と同様に、切っ先の形状で4種に分類できる。

Ⅷa類　切っ先が鈍角（650・663・664・678・682）。本類はⅧ類では少数である。刃部が長く、柄は短い特徴があり、円板の位置は中心よりも下寄りの傾向がある。663・664は同形で稜線をもち、2本1組と考えられる。

Ⅷb類　切っ先が直角（651・668・676）。円板は中央よりやや下に位置する。

Ⅷc類　切っ先が直角に近い鋭角（649・661・665・669・670・673・689・698・699・702・713・716など）。円板が中央もしくは中央に近いもの、中央より上の例（669）がある。切っ先は幅広。

Ⅷd類　切っ先が45度前後の鋭角（660・662・667・671・674・683・684・688・691・692・714など）。円板は中央（688・691）もしくは中央に近い例、中央よりやや上になる例が多いが、逆に柄が短い例もある（667）。

Ⅷe類　切っ先が幅広で、両脇に丸みをもつ（657・659・666・672・680・681・685～688・695・700・715）。円板は中央、中央近く、もしくはやや上に位置する。

そのほか円板形を分類基準にすると、小型円形（649～672・674～693・695～700・714）、中型円形（673・701・715）、大型円形（702）、小型角形（694）、尖形（718）となる。円板は鏡と考えられ、剣と鏡が一体化した形と考えられる。なお687・715は円板周囲に縁取りの線刻が入り、円形を強調している。702とほぼ同形の例が『川上村誌』写真に掲載され、これも2本1組の例といえる。718は尖形の鍔、柄部の孔、銘の内容から、新しいものと思われ、柄端部の三角形の形状からするとⅦ類に入る。

(4) 弓形鉄製品（第28図）

両端を尖らせた角棒状あるいは板状の鉄を曲げて製作している。弦はなく、弓の湾曲状況で3種類の分類ができる。計19点。折れたものが多く、本来の形態、大きさがわからないものがある。

Ⅰ類　弧状（721・723・724・727・728）。大きさには大（721）・小（724・727）がある。

Ⅱ類　中央が強く湾曲（722・725）。722の両端は棒状であるが、725では端部も屈曲させている。

Ⅲ類　棒状に近い（729～734）。弱く湾曲するものが多い。

(5) 矢形（第28図）

鏃の部分、あるいは矢羽までの全体を模したもの。平根鏃と雁股鏃がある。計5点。

Ⅰ類　鏃形（743・744）。743は平根鏃で、実用品の

可能性がある。744は根の部分が平たく、実用品ではない。

Ⅱ類　矢形（740～742）。740は両端が雁股状で、片方が矢尻、片方が羽を模したものと思われるが、どちらも同じ形状である。741はやはり両端とも平根鏃状を呈する。ここではより尖ったほうを鏃と考えた。742は先端がわずかに雁股状を呈する鏑矢で、羽部分は740と同じく二股に分かれた雁股状である。741とほぼ同じ長さである。

(5) 容器形（第29図）

鉄板を円筒状に丸め、片方に底をつけたもの。底の円板が外れて側板のみとなった例が多い。形態はほとんど口径と底径が同じ円筒形である。2～3点を内側に入れ子状にして1組にしたものがある。弓矢形鉄製品との関連から推測すると壺胡禄の可能性があるが、矢に較べ数が多いことから違う。曲物状の容器形、あるいは柄杓と考えられ、側面に孔が開いた資料がいくつか含まれている。計44点。また側板からはずれた円板が30点ある。

曲物と同じような製作技法であることから、名称としては丸くまるめた容器側面を「側板」、底の円板を「底部」あるいは「円板」、縁を「口縁」とする。

A．容器形（759～802）　いろいろな視点から分類が可能である。まず底板の留め方に着目すると、帯状の鉄板を巻いただけのもの（759～763・765～771・773～775・778～781・783・785・787・793・796・797・801・802）、帯状を巻いて底部側を内側に折ったもの（764・776・777・782・788～792・794～796・798）、側板に付けた留め金状の突起を曲げて底板を留めたもの（799）の3種がある。また厚い鉄板を用いて底板をはめた後に叩いて側板と底を一体化させたものがある（800）。

側板の留め方で分けると、巻いただけのものと、鋲で留めたもの（777・780・790・796・797・798）の2種がある。鋲留めには合わせ目の下あるいは上寄りに打つもの（777・796・798）、中ほど（780）、上下2箇所の例（790）がある。

側板には孔がないものがほとんどであるが、側面中ほどに1箇所の孔をもつものが少数存在する（768・769・781・791・793）。孔は円孔で、木製の柄杓の柄が差し込まれていた可能性はあるが、よくわからない。

容器としての形態で分類すると、器高が底径よりも短い低いもの、口径と器高が同じ程度のもの、器高が高く細長いものがある。そのほか縁を折り曲げたものが1点ある（791）。他の事例が円筒形であるのに対し、本例は口径が大きいコップ形である。

単独のものと入れ子にしたもの（793・794・796～798）、礫が入っているもの（778）がある。入れ子にしたものでは、少しずつ径の小さいものを用意して2～4個を入れ子にした様子がわかる。入れ子にした容器には底が抜けたものもあるが、797や798のように本来は底を付けた状態で入れ子にしたものであろう。入れ子の状態が本来の奉納された姿である可能性があり、単独のものは入れ子状態が崩れたと考えられる。入れ子になったものの中に側板の孔をもつものが1点のみあり（793）、孔にどのような意味合いがあったのかを知る手がかりとなる。

側板鉄板に鋸を転用したらしいものがある（792）。鋸であるとすると目が細かい細工用の鋸である。

B．円板（803～832）　容器形の底板。30点。おおよそ丸く切り抜いた、というふうな円板で、容器形にはめる際に円板の周囲を内側に軽く曲げた例がある（829・832ほか）。中央に長方形の孔をもつ例がある（812）。容器形には入れ子状態のものも含めて底板の外れた例が29点あり、円板の点数と合致する。

(6) 文字資料（第27図）

第27図に各種文字資料をまとめた。器種には剣形（703～718）、刀形（719・720）がある。剣形は切っ先の分類でⅡ類（704・705）、Ⅲ類（707～710）、Ⅳ類（712・714・718）、Ⅴ類（711・715）である。刀形はⅤ類（719、長刀形）、Ⅳ類（720）である。文字は以下の通り。

703「天保二年」「卯七月三川中」（1831）
704「天保四年」「己（巳）八月三川中」（1833）
705「天保五年」「午年三川」（1834）
706「奉納」
707「未年四月」
708「十一月三川」
709「□四月　三川」
710「寅七月一日」「三川」
711「三川中」
712「日向」
713「三□」
714「三川中」
715「三川中」
716「三川」
717「三川」

718「奉納日向常会　一八：六」（昭和18年か）
719「日向中」
720「昭十八　タヤヒカゲ」
これらを記名順で分類すると次のようになる。
年号（干支）（月）地区名を記す（703～705・720）。
干支と地区名を記す（707）
月と地区名を記す（708～710）
地区名のみを記す（711～717・719）
そのほか、奉納等（706・718）
703～705の資料では年毎にいずれも三川集落で奉納されている。切っ先形ではⅡ類からⅢ類への変化がうかがえる。7・8月の奉納を記し、710にも7月とあるほか、4月、11月があり、決まっていない。雨乞いなどの可能性もあるが、11月は雨とは無関係かと思われる。いずれの月も比較的農閑期である。地区は三川が圧倒的で12例あるほか、日向は3例、田屋は1例である。716、717は対と考えられる。なお718、720は昭和18年奉納の戦勝祈願品かと考えられる。

(7) そのほか（第28図）

角釘8点、木製の剣形1点、鉄製・青銅製の寛永通寶各1点、鈴の一部1点、鋸1点、不明鉄片1点、鏡形（御正体）1点がある。

A. 角釘（748～755）頭を平らに曲げた角釘で、大（748）、中（749・750）、小（751～755）がある。以前の祠に用いられた釘であろうか。

B. 木製剣形（745）　切っ先は鋭角で、側縁直線状の剣形で、木製。材質は不明。軽い材である。

C. 寛永通宝（757・758）757は銅銭、758は鉄銭。

D. 鈴（746）　直径2.2cmの鈴の半分。材質は真鍮か。

E. 鋸（756）　先端の折れた藪鋸で、木製の柄がつき、2本の丸釘らしき鋲で留めている。鋸は本例のほかに容器形792に転用された例がある。

F. 不明鉄片（747）薄い帯状の鉄製品で、薙鎌の体部の可能性があるが、定かではない。文様はない。

G. 鏡形（御正体）　青銅製の薄い円板で、小さな1孔が縁に開く。2孔の可能性がある。円板の切り込みは丁寧で、きれいな円形である。無文。

参考文献

大島暁雄ほか編1983『図説民俗探訪事典』山川出版社

Ⅵ. 考　察

山頂の信仰遺物　御陵山社からは薙鎌、剣形、刀形、容器形を中心とした大量の鉄製品のほか、古銭、鏡形などの奉納品が確認された。このように数種類の奉納品からなる組み合わせは山頂遺跡の採集遺物に見られる。

長野県四阿山（標高2354m）では小柳義男氏の調査により薙鎌13点、剣形11点、刀形26点、鎌5点が発見されている。剣形よりも薙鎌、刀の割合が高いのが特徴的で、初現が13～14世紀と御陵山よりも先行することから、奉納品の内容が違う可能性がある。

山梨県側では八ヶ岳の権現岳（標高2715）で、山頂の桧峰神社石祠下から置かれたように薙鎌3～5点、剣形2点、不明鉄製品1点が発見されたほか、その脇からは円鏡1点が見つかっている。刀形はない。

金峰山（標高2599m）では小柳氏のほか、甲斐丘陵考古学研究会のメンバーによる表採が幾度か行われ、薙鎌は見つかっていないものの剣形4、刀形1、鎌1が採集されている。『甲斐国志』によれば金桜神社奥の院にかつて神宝として「焼鎌」があるということが記載されており、薙鎌が存在した可能性がある。

南アルプスの鳳凰三山では山梨県史の調査の折に、地蔵岳（標高2764m）のオベリスクと呼ばれる円錐形を呈した岩山の周辺から薙鎌9点、剣形3点を採集している。やはり刀形はない。

山梨県御坂山地の十二ヶ岳山頂（標高1683m）では、祠周辺から鉄製品が採集されている（畑1993）。薙鎌はないものの、剣形7、刀形1があり、剣形は御陵山Ⅴ類でまとまっている。

山頂遺跡では山岳修験や民間信仰の雨乞い等の祭事に伴って刀形、剣形が奉納されたと考えられるが、以上のように甲信地方では薙鎌を伴う例が散見される。諏訪信仰の表徴として奉納されたと考えられるものであるが、甲信国境に認められる点が興味深い。

容器形と弓矢形　御陵山以外では類例がないものとして容器形、弓矢形がある。容器形は曲物形、あるいは柄杓形と思われ、管見では類例を知らない。柄杓とした根拠の側板の孔は、全ての容器形にあるわけではなく、44例中5例と少ない。また入れ子にした状態も不思議である。木製容器の曲物の大小を入

れ子にする例があるので、曲物形の可能性が高いといえるが、そのほかの可能性としては土鍋がある。土鍋もいくつかの大きさの違うものを入れ子にする例が知られている。[1)]

弓矢形も類例を知らない。時代は異なるが、古墳時代の事例として奈良県メスリ山古墳から出土した鉄弓、鉄矢が著名で、威嚇用の非実用品と考えられている（森1983）。『甲斐国志』巻之三十三、山川部巻十四、巨麻郡西河内領の「御殿山」には、「甲陽随筆ニ絶頂ノ小祠ニ鉄ノ弓箭ヲ納ム」とあり、鉄製弓矢形の奉納を記している。御殿山での鉄製弓形の 有無については確認されていないが、『甲斐国志』成立段階（1814）にそうした奉納事例が知られていたことは興味深い。

対になる薙鎌　御陵山社の薙鎌を分類し、小さい順に配列していくなかで、よく似た形態が２つずつ存在することに気づいた。(a) 大きさ、（b）形態、(c) 目の施文状況、（d）ヒレの施文状況、(e) ヒレの向きと本数、(f) 鉄板の厚さで、以上6つの観点から検討する。

類似性が高い薙鎌　６つの観点のうち３～４点以上で類似性があるもの。４と５はヒレの本数が違うが、形態、大きさ、目の状況、ヒレの施文技法は類似する。44と45はわずかに尾の形態、ヒレの本数が違うものの、形態、目、ヒレの施文技法がよく似ている。46と47は大きさがわずかに違うが、形態、目、ヒレなどほぼ同じである。56と57は尾の状況、ヒレの本数、大きさがやや違うが、形態、目など類似する。58と59は大きさがわずかに違うが、形態、目、ヒレがない点など類似性が高い。99と100はわずかに大きさが違うものの同形で、目の大きさも同じである。110と111は全く同じといっていい資料で、全ての点で類似する。

類似性のある薙鎌　６つの観点のうち１～３点の類似点があるもの。１と２はヒレが違うが、形態、大きさ、目の状況が類似する。７と８はヒレの様子が違うが、大きさ、形態は類似する。15と16は尾の形態、長さが違い、大きさもわずかに異なるが、全頭部形態、目の様子は類似する。17と18は頭部、尾の形態が少し違うが、大きさ、ヒレの様子は類似する。19と20は尾の形態が違うものの大きさ、頭部形態は類似し、鉄板がわずかに稜をもつ点が共通する。24と25は幅、ヒレが異なるが、形態、目の位置、孔の大きさが類似する。26と27は目、口が違うが、大きさ、形態が類似する。64と65はヒレの状況が異なるが、頭の角度、大きさが類似する。92と93は目の刺突の有無、大きさがわずかに異なるが、無文の点、形態が類似する。95と96はわずかに大きさが違うが、ともに小型で形態、目の状況は類似する。108と109は柄の長さ、端部が異なるものの形態が類似する。

前者の類似性の高いものについては、対で製作・奉納された可能性、あるいは同一作者がモデルをもとに製作した可能性などが考えられる。また後者についても同一作者の製作が推測されるものがあり、いずれにしても対の存在は指摘できる。

対について興味深い事例として、富山県氷見市の平諏訪神社の「カマ」献納神事がある（小境1987）。平諏訪神社は石川県七尾市と鹿島町に境を接し、能越国境の信仰の山、石動山の東麓にあたり、円錐形の「蔵王」山のそばに位置する。戦前は、毎年８月27日に２丁１対の鉄製の魚形「カマ」を境内の栗の木に打ち込んできたが、戦後ブリキ製となり、また栗の木が枯れたため、１枚のマナイタ状の板に魚形２丁のヒレを打ちつけたものを奉納するようになった。現在同社には175点のカマが保存されており、およそ96年分の枚数になるという。中止期間もあることから、最古例は明治20年頃のものかと考えられている。

形態変遷としては明治20年頃から「タツノオトシゴ型」、明治40年頃から「鰻型」、その後昭和６・７年頃まで鰻型とともに「鯵型」、その後「N型」、戦時中中止されたのち、戦後、板の上に立てるために「アーチ型」となり、昭和40年代に現在の「鯛型」となったという。石動山山麓では近世、山論紛争が繰り返しあったことから、小境卓治氏は神事の起源のひとつとして、境界の主張を想定している。

御陵山資料では、同寸のものはほとんどなく、わずかに小さいものと対になる例が多い。ただし遺跡出土の事例、他の山頂採集品では明確に対を指摘できるものはない。薙鎌祭祀といっても奉納形態、祭祀のあり方を一律に捉える必要はなく、各地に強い地域性、時代的変化があることが考えられる。

対になる剣形　剣形にも対関係が想定された例がある。確実なものでは261と262、643と644、645と646、663と664、716と717などで、精査していけば数多くの対を指摘できると思われる。また刀形のもありそうである。したがって薙鎌同様に対での製作・奉納が推測される。

薙鎌の分布　薙鎌は北海道から鹿児島県まで分布するなかで、圧倒的に長野県に集中する。分布例のほとんどが諏訪神社、諏訪信仰に関わる宝物、奉納品、祭祀具として伝承されたもので、諏訪大社からの配布品としての大型薙鎌が代表的なものである。とくに北信から東信には非常に多く、諏訪大社下社の影響力が指摘されている。遺跡出土例には、旧御射山遺跡をはじめとして茅野市御社宮司遺跡、諏訪市荒神山遺跡が諏訪大社の祭祀地、諏訪神社関連遺跡があり、あらためて諏訪神社・諏訪信仰との関連が窺える。木曽地方にはなく、また藤森氏が指摘したように上伊那地方にも相変わらず少ない（藤森1962）。

諏訪信仰との関連性が希薄な事例として、山岳信仰と関連する遺跡に四阿山、権現岳、地蔵岳がある。それらは薙鎌のひとつの性格として古くから指摘されているように、境を祀る祭祀として用いられた可能性があり、四阿山は信濃と上野境、権現岳・地蔵岳は信濃（諏訪）と甲州境に位置する。峠祭祀の例として網掛峠、雨境峠があり、山岳遺跡同様に諏訪神社とは直接的な関連は少ないと考えられる。そのほか、高遠町池上家の資料は興味深い。縦長の板に数列の薙鎌が打ちつけられ、多くは脱落して抜けているが、16点ほどは板に残っている（諏訪市2004）。薙鎌とともに小型鍬形鉄製品も認められ、通常の薙鎌とは異質なあり方を呈している。

御陵山の位置　御陵山は長野県でも最も分布の濃い佐久地域に所在し、臼田町から川上村にかけての山間地に薙鎌の集中域が見られるなかで、分布域南のはずれに位置する。御陵山祭祀の主体地域の南相木村には、諏訪神社など2箇所で薙鎌を保管していることが知られ、御陵山との関連性が伺える。今日、御陵山社は諏訪神社とは直接的に語られることはないが、南相木村の年中行事として5月3日に行われる「おみはか様」が、以前は諏訪神社の祭礼である5月5日の「お明神様祭り」の日に行われていたという。つまり、以前は諏訪神社のお祭の中で御陵山へ登拝が行われていたことが推定される。おみはか様の祭りの具体的な内容はわからないが、男衆が供え物をもって詣でるということで、御陵山社内で見出された、薙鎌をはじめとする多彩な鉄製品が、供え物として毎年奉納されたのではないだろうか。

薙鎌の研究史　薙鎌の本格的な研究は藤森栄一氏の研究を嚆矢として、桐原健、宮坂光昭氏ら長野県の研究者に引きつがれ、今日、笹本正治氏による取り組みも見られるなか、小柳義男氏の一連の研究成果が注目される。四阿山で採集した13点の薙鎌の考察を発表したのち、長野県立歴史館の研究会で「薙鎌の起源と変遷」および「真光寺本遊行上人縁起絵に描かれた薙鎌」を相次いで発表し、薙鎌の新たな変遷観が提示された。とくに遊行上人絵伝の指摘は重要で、善光寺門前の神社前に立つ2本の柱に三日月形の薙鎌がそれぞれ数本打ち付けられているのが明らかに描かれている。元亨三年（1323）の奥書をもつ資料であるという。

小柳氏は諏訪大社配布品の大型品と遺跡等で出土する小型品を区別し、小型薙鎌の変遷については「目、口、背をタガネをもちいて表現したものから、目がいぬかれ、口は開いたりくちばし状に突き出してくるものへ、そして背にはなにもほどこされないものへと変化していくようである。さらに時代が新しくなると、目や口の表現さえなくなってしまうものと考えられる」と述べ、四阿山→中与惣塚→仁科神明宮→旧御射山→金峰山里宮という変遷観を示した。

大型品については稀に見られる記年銘資料の形態変遷から「目、口、背をタガネを用いて表現したものから、目をいぬかれ、口は開いたりくちばし状に突き出し、背はタガネで三角あるいは四角に切り込む形になる。新しくなると背の形は三角に表現され、頭部もしだいに大きくなる」とし、小谷村大宮諏訪神社→上原葛井神社・和田東山神社→飯山五束神社→大宮諏訪神社・畠山家→生島足島神社→風間神社→明治17年資料へと変遷すると考えた。

薙鎌の変遷過程　今回、御陵山の薙鎌の変遷を考えるにあたり、小柳氏の視点を重視するとともに小柳氏が用いた大型品の記年銘資料、共伴遺物から時代が限定できる出土資料、形態的にまとまりのある群を含む資料を用いる。また本年、諏訪市博物館で開催された企画展に集められた中に年代を示唆する新資料が存在したことから、それらを参考にしたい。なお、御陵山資料は大社配布の大型品ではなく、小型品である。各地に分布する小型の薙鎌については、配布品でないのに遠距離間で形態的に類似性が高いという特徴がある。この現象に対する解釈として、諏訪大社から各地の諏訪神社に配布された大型薙鎌を各地で模倣した結果、各地で似たような小型品が出現したのではないだろうか。別の解釈として、薙鎌を作る鍛冶職人が各地を移動した結果ではないか

第３表　薙鎌集成表（文献74をもとに追加作成、№は第31図と対応）

No.	地名	郡・市名	町村・地区名	伝来神社名・出土遺跡	数	銘など	備　考（記載内容など）	文献
1	北海道	札幌市	東区北12条東1丁目1番10号	諏訪神社	2		社宝　信濃から移住してきた人々により、明治15年に諏訪大社より御分霊を勧請して奉斎。	
2	秋田県	仙北郡	六郷町	諏訪神社			近世。7月27日の例祭。祈願者が木で作った鎌を奉納。	9
3	福島県	郡山市	成田	諏訪神社			近世。境内の「鎌立ての榎」に、鍛冶屋が祈願のために鎌を打ち込む。	9
4	福島県	会津若松市		会津　諏訪神社			勧請（永仁二年）いらいの神寶にて極て古物なり	11
5	群馬県	利根郡	白沢村	白沢　諏訪神社	2	あり	神寶2点。1点の柄部に安永二年在銘。	26
6	石川県	七尾市	日室	諏訪神社			8月27日の例祭（鎌祭）　魚の鱗を陰刻した2丁の鎌（雄鎌・雌鎌）を8月25日に七尾市山王町の大地主神社で榊に取り付けて祭典、27日に日室の諏訪神社で祭典後神木に鎌を打ち込む。	80
7	石川県	鹿島郡	鹿西町金丸	鎌の宮神木			祭事　8月27日の例祭（お諏訪祭り・鎌祭り）「鎌宮洲端名神風祭」のあと、神木に打ち付ける。	80
8	石川県	鹿島郡	鹿島町藤井	住吉神社			８月27日に鎌打ち神事　境内のタブの木に神職と区長が雄・雌2丁の鎌を打ちつけ、続いて区民らが一打ずつ打ち込む。	80
9	富山県	氷見市	平地区	高阪劒主神社末社諏訪社			8月27日の諏訪社例祭に2丁の「カマ」を奉納。	57
10	富山県	婦負郡	婦中町麦島	諏訪神社			近世。例祭または宿願があるとき鎌を打ち込む。	9
11	山梨県	北巨摩郡	大泉村・小淵沢町・長坂町・原村（長野県）	権現岳山頂（薬師岳）	3		檜峰神社石祠台石下出土。	78
12	山梨県	韮崎市		地蔵ヶ岳	9		オベリスク（大日岩）の周囲より採集。	77
13	山梨県	南アルプス市	（旧白根町）今諏訪	今諏訪　諏訪神社（上今諏訪神社）	2		宝物。往古信濃国上諏訪より御柱・神剣・薙鎌を移す。	34
14	山梨県		深沢村				文政年間発掘	21・26
15	長野県	北安曇郡	小谷村北小谷区戸土	境の宮　諏訪神社	10	あり(5丁)	社宝。神木に４丁、神社保管六丁　明治11、嘉永6、天保12、寛政11	65
16	長野県	北安曇郡	小谷村中股（小谷村北小谷区戸土仲又）	小倉神社（小倉明神）	7～8		薙鎌　石小倉神社ハ諏方大神ノ母神奴奈川比売命ヲ祀リシ社ト申伝之往古ヨリ七年毎ニ一度同国諏方大祝ヨリ薙鎌一口ヲ納ラレ神木江打込有之（下略）　神木に5丁、社内保管2丁	1・65
17	長野県	北安曇郡	小谷村北小谷区大綱	古宮諏訪神社	3	あり？	古いものが火事で焼失。現存はいずれも新しい型のもの。	
18	長野県	北安曇郡	小谷村字北小谷字宮7302(小谷村北小谷深原)	宇宮諏訪神社	1		社蔵　村内保管1丁　屋根棟打ち付け型（鼠のような形）	65
19	長野県	北安曇郡	小谷村北小谷豆平625	豆平　諏訪神社	1		社内保管1丁　詳細不明	65
20	長野県	北安曇郡	小谷村中小谷字諏訪神社内7841	池原諏訪神社	2		社蔵。社内保管2丁　蛇型　背部は線刻。明治のもの、昭和31年のもの　いずれも柄付き。明治のものは木製の鉾に取り付け、祭器とする。	65
21	長野県	北安曇郡	小谷村中土区中谷宮之場（小谷村中土字宮之場13722）	大宮　諏訪神社（小谷惣社）	15	あり	江戸以前と思われるものが10丁。	65
22	長野県	北安曇郡	小谷村中小谷区宮本（小谷村中小谷宮本丙3120）	宮本　諏訪神社	2		柄付き。祭器として用いられた。古い型と、昭和33年のもの。	65
23	長野県	北安曇郡	小谷村千国乙3435	千国　諏訪神社	8	あり	古い型1丁（柄に墨書「天長三年」）、明治大正期のもの2丁、昭和5丁	65
24	長野県	北安曇郡	小谷村千国乙9685(小谷村南小谷区黒川)	黒川　諏訪神社	4		1丁、古いもの（ご神体）	1・65
25	長野県	北安曇郡	白馬村北城字宮ノ入23621（北城村）	北城　諏訪社（嶺方諏訪社）	9		境内桂の大木の腐木中より出現。	18・25
26	長野県	北安曇郡	白馬村切久保	切久保　諏訪神社	6～	あり	神殿右横の神木に打たれていたという。今は有柄。現有6枚以上　「下」銘	26
27	長野県	北安曇郡	池田町会染521	会染　三社			御神体	63
28	長野県	北安曇郡	池田町会染10512	会染　諏訪神社	2		神宝　薙鎌2口	63
29	長野県	北安曇郡	小谷村中小谷	中小谷　諏訪神社	1		薙鎌一挺　年代不知	1
30	長野県	北安曇郡	小谷村中土区土谷（小谷村中土字土谷3893）	土谷　諏訪神社	3		千国にある柄付きとよく似る。	1・65
31	長野県	北安曇郡	小谷村	北小谷　諏訪神社	1		薙鎌壱箇　太古ノ製ニシテ年月実□不詳	1
32	長野県	北安曇郡	小谷村	白池			長野県・新潟県境。元禄13～15年、白池の端、亥の方の神木のあたり（諏訪明神の屋敷地）で神事が行われ、明治の中絶期に境の宮と白池の神木は伐採、白池の薙鎌は越後側が持ち去る。	28・50
33	長野県	大町市	仁科	仁科神明宮				
34	長野県	上水内郡	鬼無里村鬼無里字町	鬼無里神社	2		薙鎌二枚	30
35	長野県	上水内郡	戸隠村栃原字宮之前	戸隠　宮前神社	2		風薙鎌ニ留鉄製長さ九寸　薙鎌一留鉄製長さ七寸五分	30
36	長野県	上水内郡	小川村小根山6862	小川神社	9		宝物薙鎌九振	30
37	長野県	上水内郡	小川村瀬戸川	瀬戸川　瀬戸川神社	4		鎌　右者？製ニテ曲形　重サ四拾匁　四振	1
38	長野県	上水内郡	中条村中条字宮前	皇足穂神社諏訪社合殿	2		宝物薙鎌ニ振	13
39	長野県	上水内郡	信濃町柏原	柏原　諏訪社			神體鐵薙鎌	13
40	長野県	上水内郡	豊野町蟹沢	蟹沢　諏訪神社	1		鎌　一丁	1
41	長野県	長野市	高田	守田廼神社	1		薙鎌が風切鎌として伝世。　壱枚　但無銘	1
42	長野県	長野市	長沼	長沼神社			鎌　長九寸二分　一口　往古ヨリ傳来	1
43	長野県	長野市	大豆島	風間神社			社蔵　薙鎌が風切鎌として伝世。	
44	長野県	長野市	篠ノ井会	正和　可毛羽神社	1		那岐鎌　壱栢　焼　不詳　銘　無銘	1
45	長野県	長野市	篠ノ井西寺尾	西寺尾　氣神社			・真鎌ノ尖鎌　一名風切鎌トモ称ス　大ノ方九寸ニ壱寸八分　重量五拾匁・小ノ方五寸ニ壱寸五分　重量拾五匁	1
46	長野県	長野市	保科上和田	東山神社	2		社宝薙鎌二点	52
47	長野県	長野市	若穂綿内	小内神社	3		社蔵　三枚　薙鎌が風切鎌として伝世。	1
48	長野県	長野市	保科引沢	高井穂神社			社蔵　天文十一年御虫切鎌奉源正直・虫切鎌　壱枚　但シ鉾形の木ニ御虫切鎌ト記シ外ニ幣串鎌形附壱本・同二本添壱本木柄に「天文十一年御虫切鎌奉源正直」の墨書、虫切りとの関係	1・52
49	長野県	飯山市	太田五東	五東　大宮諏訪神社（健御方富命彦神別神社）	5		旧社地発見薙鎌五点　薙鎌5枚　無銘・丈弐尺九寸四分　幅弐寸三分・丈弐尺六寸九分　幅弐寸四分・丈弐尺九寸五分　幅弐寸五分・丈弐尺六寸　幅弐寸二分・丈壱尺壱寸　幅弐寸	1・64
50	長野県	飯山市	一山	一山　諏訪神社	1		薙鎌　壱枚　無銘　丈一尺　幅壱寸五分	1
51	長野県	飯山市	緑	布施田神社	1		薙鎌　壱枚　地金鉄	1
52	長野県	飯山市	有尾	飯笠山神社			小川社家蔵。八幡神があるが、現在境内に諏訪社はない。宮司家で神棚に奉納する。近世初頭の寄進状には八幡免と諏訪免が併記。	
53	長野県	中野市	新野	新野神社			社蔵。薙鎌長八尺　土中より　鎮風の資器　台風のさい・・必ず嵐やむ。（薙鎌　長八寸幅一寸三分　一口　・・大同ノ頃土中より鎮風の宝器・・）	1・13
54	長野県	松本市	島内	島内　弐宮神社	1		八重鎌　壱枚　傳来所由不詳　但無銘　長八寸五分　巾壱寸八分	1
55	長野県	松本市	浅間	御射神社秋宮	2		享保9(1734)年甲寅の棟札や絵馬とともに、木鉾に打ちつけた薙鎌が伝わる。10cmと21.3cm	
56	長野県	松本市	城山	勢多神社附近			新井明八氏発掘、地下三尺にて土師器併出。	
57	長野県	松本市	旭	岡宮神社			神宝　鉾形をした台木に打ち込まれている。朽ちた神木から採集。	
58	長野県	松本市	里山辺	薄神社			宝物　大桂の枯木中より発見	26
59	長野県	上伊那郡	辰野町小野	小野神社	1		薙鎌一挺　古体ノ器	1
60	長野県	上伊那郡	高遠町	高遠商家池上家	多数		高遠教育委員会蔵　薙鎌が17×66×2ｃｍの板に多数打たれている。薙鎌が脱落した孔多数あり。	80
61	長野県	上伊那郡	宮田村	熊野権現堂（熊野社）			基壇北側の木株の元で薙鎌一点を発見。	45
62	長野県	下伊那郡	豊丘村神稲字宮ノ前1070	壬生沢神社	1		御神体薙鎌一点　長さ九寸、そり四寸	44
63	長野県	下伊那郡	豊丘村河野字滝川	足倉諏訪社	2		明治42年社地の赤松から薙鎌2・剣1。	44
64	長野県	下伊那郡	豊丘村小薗字小野山	豊丘　小野神社			御神体薙鎌の古いもの	44
65	長野県	下伊那郡	大鹿村鹿塩字梨原	草原神社			社宝　薙鎌　木剣に打たれている。	54
66	長野県	下伊那郡	阿智村小野川	網掛峠大杉下			信濃考古総覧による。下伊那教育会蔵。	26
67	長野県	下伊那郡	阿南町新野	且開　諏訪神社				18
68	長野県	下伊那郡	天龍村（神原村）坂部	神原　坂部諏訪社	3		松本市民俗資料館蔵　社殿の古柱中より3枚発見	26
69	長野県	下伊那郡	上村下中郷	八幡社(諏訪社)			諏訪社。	26

No.	地名	郡・市名	町村・地区名	伝来神社名・出土遺跡	数	銘など	備　考（記載内容など）	文献
70	長野県	下伊那郡	阿南町大下条深見	深見　諏訪社（諏訪神社）			今井黙天氏拓本による。背部が鋸歯でなく鏨切の線で表された、より古いものもある。	18
71	長野県	南佐久郡	小海町	小海町畠山家伝来			天文十八年銘　奉納松原上宮ほか銘	74
72	長野県	伊那市	美篶　青島区	青島　諏訪神社			諏訪社の神職・弥宜太夫が発行した御玉会の包みに薙鎌が保管されている。箱書きより安政5年より前に存在。	80
73	長野県	小県郡	真田町　菅平	四阿山山頂	13		珠洲焼壺・山茶碗・中世陶器　13世紀後半以降か？	59
74	長野県	上田市	五加	五加　八幡神社	2		薙鎌・九寸　壱枚・八寸　壱枚	1
75	長野県	上田市	下之郷　塩田平	生島足島神社	7	あり(3丁)	・奈岐鎌　大弐枚　小五枚・大　長壱尺三寸　幅壱寸八分位天正廿二年　すハの十人兼家・同　寸法同断無銘・小　長三寸ヨリ五寸迄・天正廿年壬辰六月吉す八乃人　兼家　・文政一三　庚寅　年三月吉日・・・。小村正夫氏実測。	1・26
76	長野県	上田市	常入	大宮神社	1		古鎌　壱挺	1
77	長野県	上田市	住吉	柏山武事神社	3		薙鎌　三枚・壱枚ハ　壱尺壱寸五分　幅弐寸五分・壱枚ハ　壱尺五分　幅弐尺五分・壱枚ハ　五寸八分　幅弐寸	
78	長野県	上田市	林之郷	御穂須々美神社	2		薙鎌　弐枚　但時代不明ナリ　年暦不詳	1
79	長野県	東御市	（旧東部町）和	和　諏訪社	3		薙鎌三種大小あり	1
80	長野県	東御市	（旧東部町）新張	新張　諏訪社	1		薙鎌　一挺	14
81	長野県	諏訪郡	下諏訪町	諏訪大社下社秋宮			木柄付き超大型、御遷座祭奉供品	
82	長野県	諏訪郡	下諏訪町	諏訪大社下社			下諏訪某氏所蔵　御遷座祭奉供品	26
83	長野県	諏訪郡	下諏訪町	諏訪大社下社春宮			拝殿床下より発掘。	26
84	長野県	諏訪市	霧ケ峰高原	旧御射山祭祀遺跡	5		発掘調査で出土。	18・24
85	長野県	諏訪市	大熊	御社宮司社			社殿下より発掘（のち焼失）	26
86	長野県	諏訪市	湖南字南大熊小字荒神山	荒神山遺跡	1		上社に深い関係がある千野氏の居館址と推定される遺跡からの出土。	46
87	長野県	諏訪市	神宮寺	諏訪大社上社	5	あり	柄に「天正十八年庚寅睦月八日　諏訪新六郎」	18
88	長野県	諏訪市	湖南字南真志野	習焼神社	1		諏訪社の摂末社　「野明大明神　南真志野　納主　長峯仲光　黒沢村　黒瀬徳三郎（信重作）　元治元子年九月吉日」	80
89	長野県	茅野市		上原葛井神社				74
90	長野県	茅野市	御社宮司	御社宮司遺跡	2			51
91	長野県	諏訪郡	富士見町境高森	境　諏訪神社			諏訪大神　和銅二己酉天（後刻？）	18
92	長野県	北佐久郡	望月町春日	春日　諏訪社（諏訪神社）	2		神寶に薙鎌二品あり（薙鎌二箇）	13
93	長野県	北佐久郡	望月町布施	布施　諏訪神社	3		薙鎌　三口	1
94	長野県	佐久市	伴野	縣神社	1		烏帖ノ鎌　壱　長サ七寸三分　重さ拾参匁　伝来所由不詳	1
95	長野県	佐久市	横根	横根　諏訪神社	1		薙鎌１	
96	長野県	佐久市	安原	英多神社	1		□形神寶　一本　俗ニナギ鎌　年月日ナシ	
97	長野県	佐久市	桜井	桜井神社	1		烏頭形鎌　壱本　無銘　柄附径七寸　重量弐百匁　傳来所由不詳	
98	長野県	佐久市	小宮山	小宮山　諏訪神社			・小薙鎌　寸法四寸　重量二十五匁・同寸法四寸　重量二十四匁	1
99	長野県	佐久市	内山	八幡神社	1		薙鎌壱枚　長サ一尺五寸　幅弐寸　重サ百０五匁　傳来不詳	1
100	長野県	佐久市	野沢居屋敷	大伴神社	2		御神体薙鎌2	60
101	長野県	佐久市	内山	荒船神社	2		薙鎌弐枚・長サ三寸　幅八分　重サ廿目　傳来不詳・長サ壱尺　幅壱寸五分　重サ八十目　同断	1
102	長野県	佐久市	内山	金山神社	4		・薙鎌四枚　長サ五寸　幅一寸一分　重サ十五匁　傳来不詳・長サ二寸九分　幅一寸七分　重サ十匁　傳来不詳・長サ三寸三分　幅一寸　重サ十三匁　傳来不詳・長サ一尺一寸　幅一寸四分　重サ六十匁　傳来不詳	1
103	長野県	佐久市	跡部	跡部　諏訪神社			薙鎌　長サ八寸三分　重量八十七目　木板附長　弐尺五寸　年代所由不詳	
104	長野県	佐久市	中込	下中込　諏訪神社	1		薙鎌　壱　但長六寸　重量二十八匁　柄ニ奉納御宝前　寄附詳ナラス	
105	長野県	佐久市	原	原　諏訪神社			薙鎌　無銘　長サ八寸二分　幅一寸五分　重量十七匁　烏頭形　古昔ヨリ傳リ有之	
106	長野県	北佐久郡	立科町　雨境	中与惣塚	9		薙鎌9・御正体13・土器・北宋銭ほか。中世後半～近世初頭	
107	長野県	南佐久郡	臼田町臼田	臼田　下ノ諏訪神社	3		薙鎌三挺　無名　各長サ壱尺壱寸　重量一挺柄共三百五拾目　文明元年トアリ傳来ノ所由不詳	1
108	長野県	南佐久郡	臼田町田口	新海神社	5		神寶薙鎌・供奉具としての薙鎌2、柄付き・御射山祭の御神体3	14・71
109	長野県	南佐久郡	臼田町田口下町	五庵古墳	1		・薙鎌1、太刀4、鉄鏃14、耳環6、水晶玉1ほか出土。	69・72
110	長野県	南佐久郡	臼田町入沢	大宮諏訪神社	3		3体一組　木柄に麻紐でくくる。	
111	長野県	南佐久郡	八千穂村	穂積　下諏訪神社			・薙鎌 壱尺壱寸五分　重サ七十五匁　無銘　・薙鎌　八寸五分　重サ三十目　無銘・薙鎌　五寸四分　重サ廿三目　無銘・薙鎌　五寸三分　重サ廿三目　無銘・薙鎌　四寸六分　重サ廿目　無銘	1
112	長野県	南佐久郡	八千穂村	穂積　諏訪神社	2		薙鎌・九寸　弐挺　無銘　五十四匁・五寸　七挺　各八拾目	1
113	長野県	南佐久郡	八千穂村	穂積　上諏訪神社	1		薙鎌一挺　九寸五分　重サ四十二問目　傳来所由年代不詳	1
114	長野県	南佐久郡	小海町宮下	小海　諏訪神社	3		矛先形の板に5枚の鉾・3体の薙鎌	71
115	長野県	南佐久郡	小海町	豊里　諏訪社（松原三所大伴上下諏訪神社）			銘本花開耶姫　梅宮姫　山宮姫　大伴平南宮神社　長さ一尺七寸幅平均一寸九分　褐銅　重量六十二匁	1・14
116	長野県	南佐久郡	北相木村	北相木　諏訪神社			木柄　切り込みが背と腹（薙鎌　無銘　長さ一尺二寸八分　重量三百目　年代寄附人不知）	1・71
117	長野県	南佐久郡	南相木村	南相木　諏訪神社	1		薙鎌壱丁　長サ壱尺　重量四拾匁　年代寄附人不知	1
118	長野県	南佐久郡	南相木村	新海神社			薙鎌　無銘　長サ壱尺　重量百匁　傳来所由不詳	1
119	長野県	南佐久郡	南牧村	余地　諏訪社	2		薙鎌二品	14
120	長野県	南佐久郡	川上村川端下398番156	金峰山修験道遺跡	1		礫群の集石地点　薙鎌１点	66
121	長野県	南佐久郡	川上村大深山	御陵山	112		(本稿参照)	
122	愛知県	豊田市	猿投町大城５	猿投神社			古来より左鎌を奉納し祈願する信仰あり。	
123	滋賀県	蒲生郡	安土町老蘇	鎌宮神社（現・奥石神社。相殿に諏訪神社）			近世。3月初申日、氏子が鎌を献納。	9
124	大阪府	大阪市	天王寺区空清町4－2	鎌八幡			榎の霊木に鎌を打ち付けて祈祷する信仰がある	80
125	和歌山県	伊都郡	かつらぎ町兄井	諏訪神社			近世。境内の樺の大木（鎌八幡宮）に祈願者が鎌を打ち込む。	9
126	岡山県	真庭郡	落合町	諏訪神社			御柱に打たれた鎌	80
127	鹿児島県	大口市		飛　諏訪神社			諏訪市博物館小林純子氏ご教示。薙鎌7本。切り込みによる口、目は穿孔。	

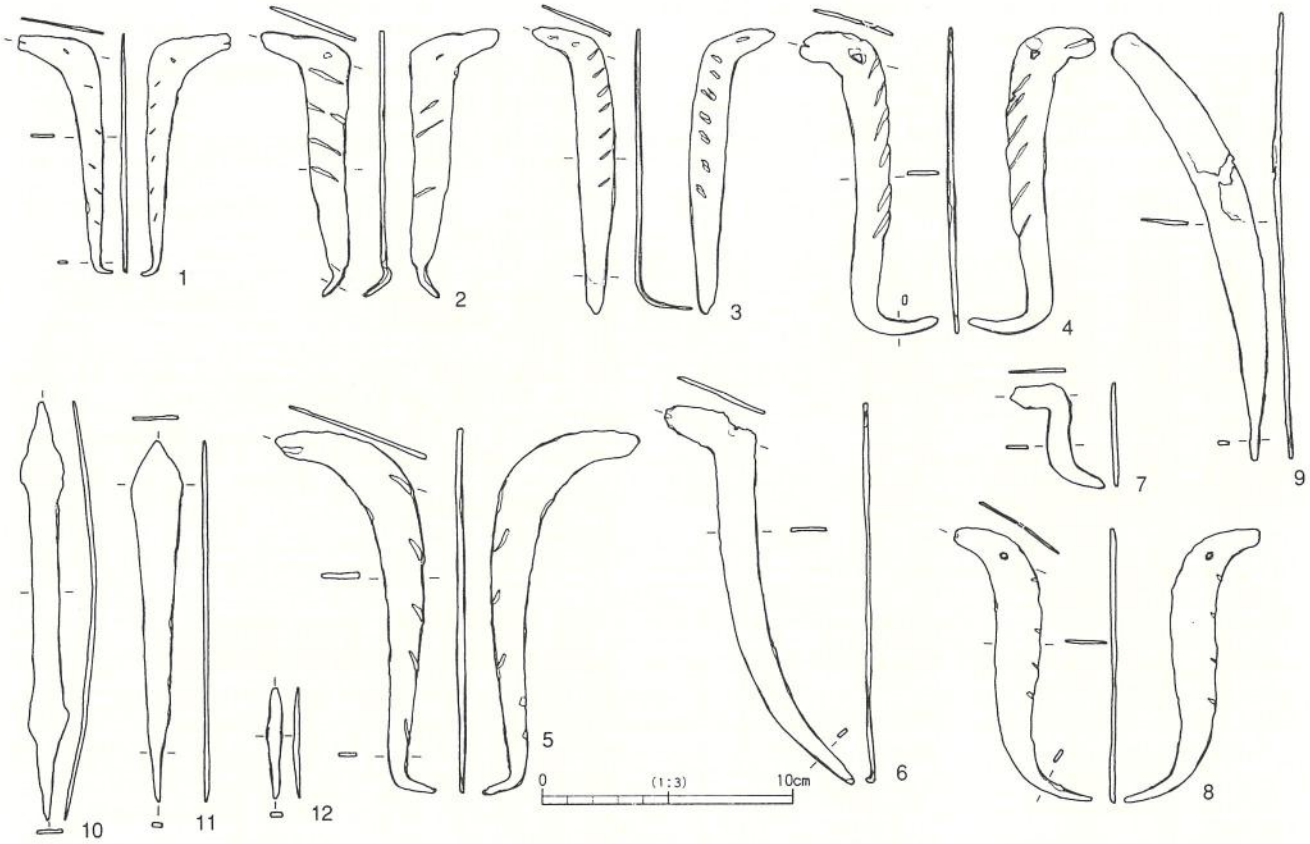
という推論もできるが、ここでは前者の立場をとる。したがって大型品と小型品には大きさが違うほか、ヒレの形態が全く異なるものの、輪郭（フォーム）は同じと考えられる。また口の状態、ヒレの付く位置、尾の形態は類似すると考えられる。

記年銘資料、年代が推定できる資料には以下の例がある。

①四阿山頂採集資料　頭から胴にかけて緩くカーブするものが見られる。ヒレは上下向きの両者がある。目は刺突で抜かないものが多い。遊行上人の絵の薙鎌に類似する。小柳氏は陶磁器類の年代から13～14世紀と考えるが、14世紀代か。御陵山にはほとんど類例はないが、９がやや似ている。

②飯山市五束神社　文亀元年（1501）薙鎌を得たので諏訪明神を祀ったといわれる。５本中４本は長大で、払い鎌に似て、薙鎌の原形のひとつと思われる。口から背にかけて上向きの三角形のヒレがある。１点はやや小型で、C字形に近く、ヒレは上向き、角形。御陵山に類例はない。

③小海町畠山家資料　右面に天文18年（1549）をもつ。ブーメラン形でヒレは上向き、角形、背側の胴全体に及ぶ。頭部は短く、滑らかに背に推移し、御



第32図　地蔵岳の鉄製品（櫛原2003より引用）

陵山Ⅰa類に近い。

④山梨県地蔵岳採集資料（第32図）　薙鎌９点、「永楽通宝」１点、「祥符通宝」１点、「寛永通宝」５点が採集されている。薙鎌は御陵山Ⅰc類、Ⅱ・Ⅲ類で、目を打ちつけのみとするもの３、貫通孔をもつもの３、目がないもの、貫通しないものが大半を占めている。薙鎌は形態的にまとまりをみせ、銭貨の様相から中世段階の可能性がある。

⑤諏訪大社蔵薙鎌　薙鎌を打ち込んだ角棒に天正18年（1590）の墨書がある。薙鎌は小型で胴部と頭部は一続き。ヒレは上向き。尾は直。御陵山には類例はない。

⑥上田市生島足島神社資料　右面に天正20年（1592）の銘をもつ。やや直立ぎみで、頭は丸くとび出し、くちばしは長い。ヒレは角形で下向き。御陵山Ⅰｂ類に類似。

⑦伊那市青島諏方神社　寛文2年（1662）創建と伝えられる。「御玉会」の包みに薙鎌が入れられ、箱書きから安政５年（1858）に存在したことがわかる。御陵山Ⅴ類に類似。

⑧高遠商家池上家資料　66cm×17cmの板に小型、無文の薙鎌が多数打ち付けられた珍しい資料。御陵山Ⅴ類と同じ。背と尾を同時に打ち付ける。

⑨小谷村資料　左面に明治17年（1884）の銘あり。鳥形で、ヒレはくちばしから頭部、胴上半に限られる。

以上により、御陵山資料にはない一群（①・②）と類似もしくは同一の一群（③・④・⑦・⑧）を指摘でき、御陵山Ⅰa類が16世紀前半、Ⅰｂ類が16世紀後半、Ⅴ類がおおよそ19世紀と考えられる。

大きな流れとしては、当初Ｃ字形で体部と頭部が一体化していたのが、頭部が発達して、頭が丸く突出し、やがて直立ぎみになる。さらに口を大きく開けて頭部が大きく胴が直立する抽象的な形態へと変遷する。したがってⅠａ類→Ⅰｂ類→Ⅴ類となるが、その他の類に関しては位置付けはどう考えられるだろうか。

目やヒレなどの細部に関しては小柳氏の見解が参考になる。目の形態に着目すると、目を全くもたないもの（目なし）に58～60・63～65・67・71・73・76・79・91・92、目を貫通させず、敲打しただけのもの（タガネ目）に4・5・14・26・28・29・44・

45・83・93、小さな孔が開くもの（小孔目）に1・2・9・23・31・35・41・48・53・61・68、大きな円孔もしくは四角孔の目をもつもの（大孔目）がある。目なし→タガネ目→小孔目→大孔目、という流れを想定するならば、大きくは正しいと考えられるものの、先の形態変化とは矛盾が生じる。いずれにしてもⅠ類にタガネ目、小孔目が多く、Ⅲ・Ⅳ類にもタガネ目、小孔目があるほか、目なしもある。したがって小柳氏の変遷観に基づくならば、Ⅰ類の流れとは別にⅢ・Ⅳ類の系譜があることがわかる。なお、ヒレの向きでは上向きに古いものが多く、目の形態変化と相関する傾向がある。なお、105・106はⅤ類と同様に抽象的な一群と考えられる一方、木の葉形で鎌の模倣形態に近いこと、遊行上人絵や四阿山例に近い形ともいえ、目は円孔が開くものの、15世紀以前にさかのぼる可能性も考えられる。

Ⅲ類の系譜として考えられるのは臼田町五庵古墳例である。御陵山資料92・93に近い形であるが、S字形で、7世紀末から8世紀に位置付けられるという。一応、Ⅲ類の祖形としておきたい。

薙鎌の変遷案（第33図）　ここでは目の変化を手がかりに、4段階の変遷案を提示しておく。形態の系列としては、1・2段階は頭部が小さいⅠa類、頭部が体部から丸く連続するⅠb類、頭部が長いⅠc類、体部が直行するⅢ類、Z字状のⅣ類の5系列、3段階が魚状を呈するⅡ類、体部直行のⅢ類、Z字状のⅣ類の3系列、4段階が鎌形のⅦa類、頭部が大きく発達し、抽象的なⅤ類の2系列である。

1段階は目をタガネで打ちつけただけのタガネ目で、目が全くないものは型式変遷上、本段階の古段階として位置づけられる。口はないか、タガネで線刻した程度の閉じた口、あるいは小さく開いたものもある。ヒレの線は細く、上向きがやや多い。

2段階は目を小さく打ち抜いた小孔目。口はないもの、閉じた口、小さく開いた口が見られる。ヒレは上向きが多く、線刻はやや長くはっきりする。2段階の後半としてⅠb類の一部が相当する。

3段階は目を大きく打ち抜いた大孔目で、開いた口が多い。ヒレは下向きが多い。

4段階は目が丸く大きい大孔目で、体部は無文。口は大きく開くものが多い。

先の年代観を当てはめるならば、以下のようになる。

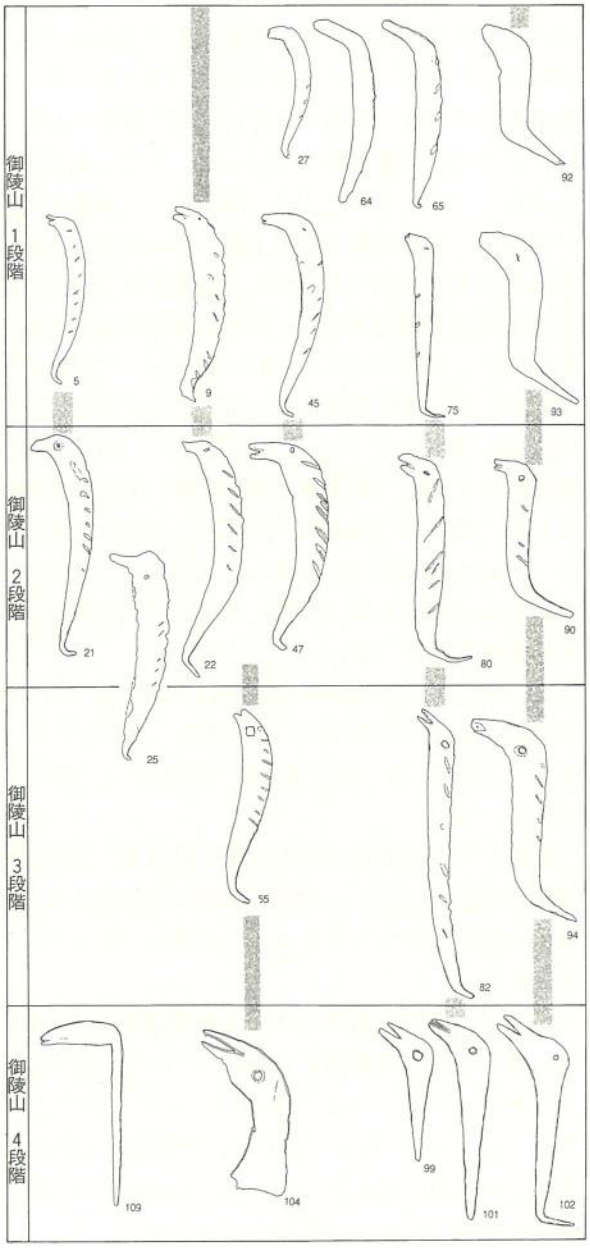
御陵山1段階　15世紀代？

御陵山2段階　16世紀（前半—16世紀前半、後半—16世紀後半）

御陵山3段階　17～18世紀

御陵山4段階　19世紀

目の形態変遷で薙鎌の変遷が可能とはいえないが、大きな流れは把握できそうである。形態の変化については、富山県平諏訪神社で数十年幅での変遷が把握されているが、打ちつける大木が枯死したために板に打ちつけるようになったことで、鯛形へと大きく形態が変化している。同様に御陵山例3段階と4段階の間に何らかの要因があったことも推測されるが、むしろ高遠池上家の例からは信州一律での



第33図　薙鎌の変遷案

変化のようである。諏訪大社配布品の模倣という仮定に立って論を進めてきたが、それには諏訪大社配布品の形態変遷と比較する必要があり、検討には時間を要することから今後の課題としたい。

薙鎌の大量保管　大量に保管されていた例としては、やはり平諏訪神社の状況が参考になる。本来、２本ずつの対で毎年、ご神木に打ちつけられていたものが、ご神木の枯死によって枯れた木から回収され、今日まとめて保管されている。薙鎌は、ご神木が枯れた後も神の依代として大切に扱われる性格であったことがわかる。したがって御陵山例も、本来は毎年の祭礼行事のなかで、薙鎌を御陵山のご神木に打ちつける行事として南相木村諏訪神社によって執り行われたものではないだろうか。それがご神木の枯死等の結果、木の根元の祠内にまとめられ、刀形あるいは剣形の奉納へと変化したと想像される。

剣形の年号と文書資料　剣形では、年号の記載例から天保２・４・５年（1831・33・34）の奉納が判明している。文書資料では川上村大深山林野保護組合文書によると（川上村1994）、寛延２年（1749）盤古大王祭礼を初見として、宝暦９年(1759)、安永２年（1773）、安永５年（1776）、安永10（1781）まで「盤古大王」祭礼が見られ、弘化４年（1847）に「盤古様」になっている。また雨乞い（雨声、雨考、雨乞、あまごい）の記事は明和８年（1771）を初見として、弘化２（1845）、弘化4年（1847）、嘉永２年（1849）、安政４年（1857）、元治２年（1865）と続いた後、慶応７年（1867）からは「天気祭り」等と名称変更している。

同じ川上村の原村林野保護組合文書では（川上村1994）、明和８年（1771）に「雨乞」「風祭」、文政２年（1819）に「雨こゑ」、天保２年（1831）に「風祭」とある。

限られた文書資料ではあるが、盤古大王信仰は18世紀中頃から存在し、雨乞い祭事は18世紀後半に出現、19世紀前半から後半にかけて盛んであったことがわかる。

川上村の事例は御陵山社とは無関係ではあるものの、南相木村とは隣接する結びつきの強い村であることから、同じような祭事が行われたとみてよい。ちょうど、剣形にある天保年間は19世紀前半であり、雨乞いの利器である剣、あるいは刀が18～19世紀に盛んに奉納されたのではないだろうか。

諏訪神社の祭事の象徴である薙鎌と、雨乞い祭祀がどのように使い分けされていたのか不明であるが、春の諏訪神社の祭礼、秋の雨乞い、というような季節による祭礼時期の違い、あるいは村の年中行事としての神社主体の祭事、より地域的な祭事という違いも考えられる。

御陵山の祭祀　現在、祠の裏側にはヒメコマツの古木が枝を大きく広げ、祠のご神木のような体裁をなしている。その場所にかつて、薙鎌を打ち付けるにふさわしい立木があったのであろう。御陵山社の位置からは南相木村三川の集落がよく見えることから、三川集落側から見上げたときにはっきりとわかる高木であったと空想される。

なお、木の根元は小さな塚状をなしている。人工的なものと思われるが、定かではない。ただ、御陵山という山名が示すように何らかの墓所という言い伝えが古くからあったようで、盤古王の墓とも、里仁親王の墓ともいわれている。墓所の可能性は少ないと思われるが、薙鎌奉納以前に祭祀地点であった可能性が十分にあり、展望がよいことから経塚の立地としてもふさわしい。

参考文献

森浩一　1983「稲と鉄の渡来をめぐって―民俗文化の伝統を再評価する―」『日本民俗文化体系』3　小学館
松平定能編　文化11（1814）『甲斐国志』　雄山閣
畑大介　1993「芦川村周辺の山岳信仰遺跡」『甲斐路』77　山梨郷土研究会
川上村誌刊行会　1994『川上村誌資料編　大深山・原林野保護組合文書』

Ⅶ．おわりに

御陵山社の資料の図化を通して、御陵山の信仰の様相、御陵山信仰と南相木村のかかわりについて考え、とくに多量に発見された薙鎌については研究史を紐解き、小柳氏の先行研究をもとに、これまでの編年観の見直し、各地の資料集成を行った。また、かつての南相木村の諏訪神社の祭礼日と「おみはか様」の祭礼日が同じことから、御陵山と諏訪神社との関連を想定し、薙鎌の存在と関連させた。

多量の薙鎌を奉納するに至った要因として、南相木村での諏訪信仰のあり方に興味がもたれ、諏訪大社との特別な関係があったか、薙鎌祭祀が雨乞い等と結びついて地域的に発展をみた可能性が考えられる。また川上村、南相木村境にあるということで、

従来からいわれるように境の祭りとしての薙鎌の性格が注目されるところである。いずれにしても112点という薙鎌は従来知られてきた資料数を圧倒する量であり、今後の薙鎌研究にきわめて重要な資料となることは間違いない。他の刀形、剣形などの鉄製品と合わせて、今後も山岳への鉄製品の奉納の意義を探っていきたい。

さて、今後の資料の扱いに関してであるが、奉納品は本来祠内で祀られねばならない。しかし鏡の例が示すように祠内に戻すことは盗難のおそれがあるうえ、錆化など資料保存の観点から好ましくなく、適切な保存処理をしたうえで地域の資料館等に保存すべきである。そのためには資料的価値を地域住民の方々に認識していただいたうえで、保存のためにも文化財指定をすべきではないだろうか。

なお、本稿は櫛原が執筆し、信藤が目を通した。薙鎌の全国分布図、集成表、文献一覧は望月が作成した。

謝辞

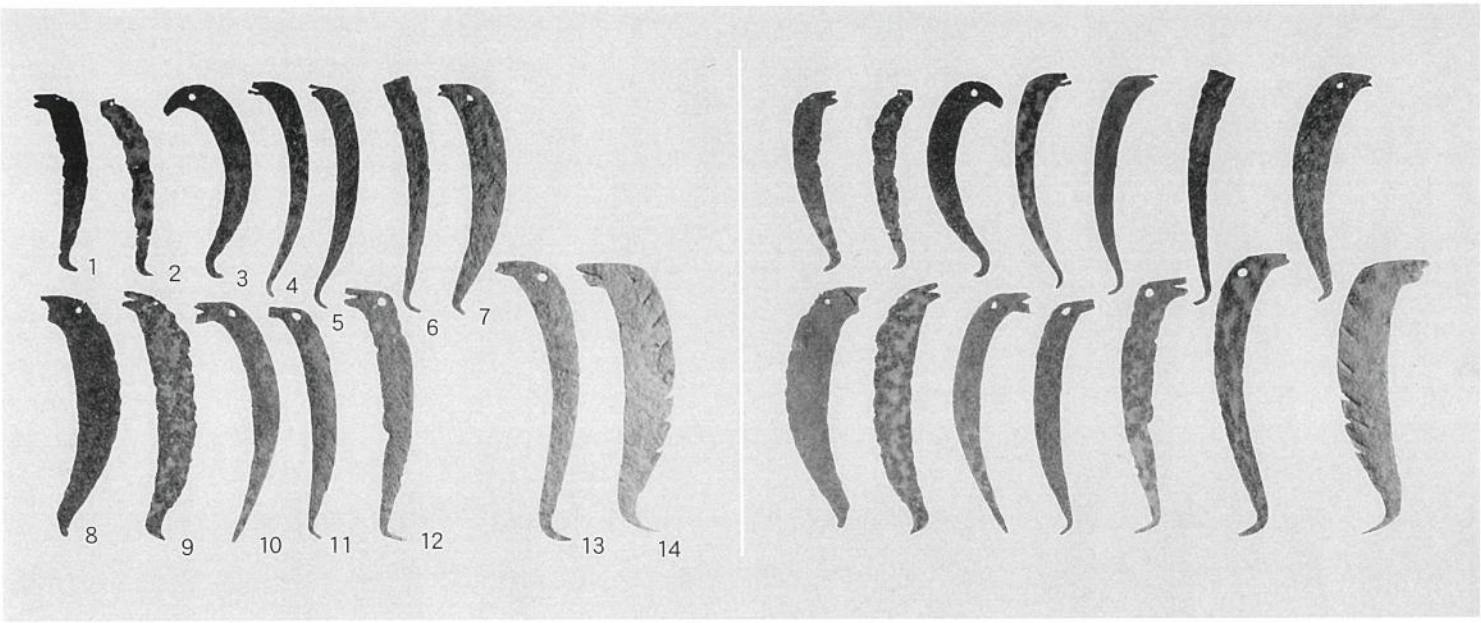
最後になりましたが、本稿執筆にあたり下記の多くの方々、諸機関に御世話になり、ご教示、ご協力、資料提供をいただきました。記して感謝申し上げます。

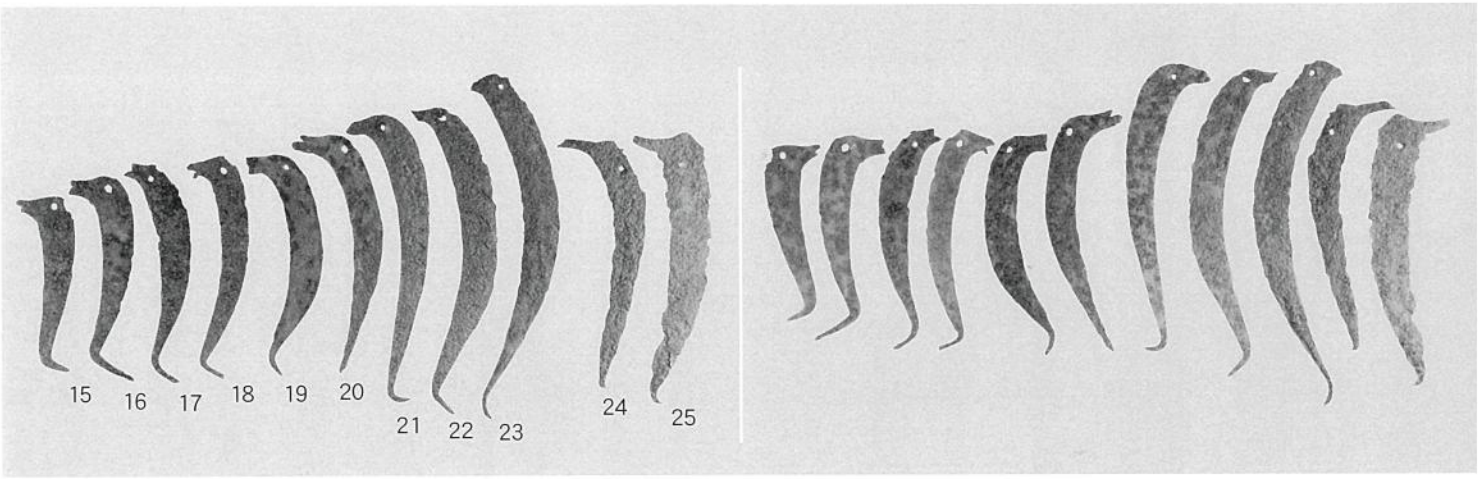
小柳義男・小林純子・堤隆・長崎治・猿谷眞弘・由井港・五味裕史・笹本正治・堀内真・初鹿野博之・塩谷風季・土屋健作・萩原忠・今福利恵・鵜飼幸雄・小林深志・諏訪市博物館・川上村教育委員会・南相木村教育委員会

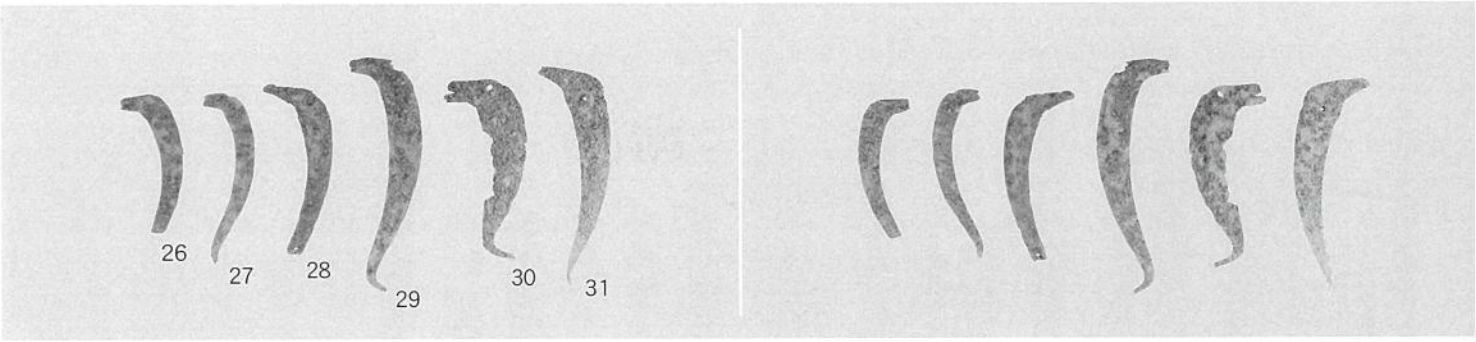
薙鎌関係文献一覧（第３表文献と対応）

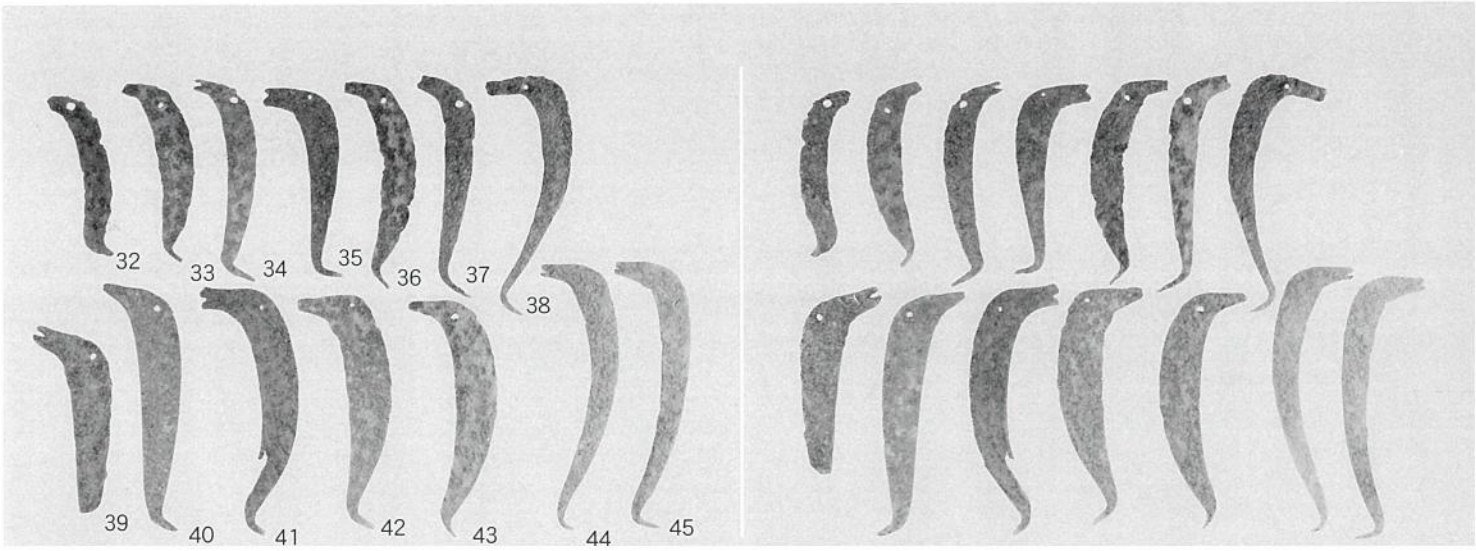
1　長野県　1880（明治13）『信濃国神社宝物古器物古文書目録帳』
2　柳田国男　1911「掛神の信仰に就いて」『仏教史学』1-8
3　折口信夫　1915・1916「髯籠の話」『郷土史研究』3-2・3
4　柳田国男　1917「矢立杉の話」『黒潮』2-1
5　中山太郎　1920「諏訪神社の薙鎌」『考古学雑誌』11-1
6　後藤守一　1920「上代に於ける鎌」『考古学雑誌』第11巻第1号
7　宮地直一　1921『諏訪史』2巻前
8　柳田国男　1930「矢立の木」『旅と伝説』3-1
9　柳田国男　1931「御頭の木」『郷土』1-3
10　南安曇郡誌改訂編纂会　1931『南安曇郡誌』二下
11　『新編会津風土記』巻之十二　1932　雄山閣
12　上田貢　1934『霧ケ峰を語る』
13　長野県町村誌刊行会　1936『長野県町村誌北信編』
14　長野県町村誌刊行会　1936『長野県町村誌東信編』
15　宮地直一　1937『諏訪史』２巻後
16　早川孝太郎　1942「農と能」『演劇』1-6
17　大場磐雄　1942『神道考古学論攷』
18　今井黙天　1945『諏訪神社なぎ鎌の研究』
19　上田貢　1953『霧ケ峯と蓼科高原』朋文堂
20　今井広亀　1955『諏訪の歴史』諏訪市教育委員会
21　飯塚久敏・宮坂恒由　1956『諏訪旧蹟誌』
22　宮坂清通　1956『諏訪の御柱祭』
23　小林国男　1957『山の驚異』学生社
24　金井典美　1960「長野県霧ケ峰旧御射山祭祀（苑）遺跡調査概報」『考古学雑誌』46-1
25　長野県神社庁北安曇支部　1961『大町市北安曇郡神社誌』
26　藤森栄一　1962「薙鎌考―諏訪神社の考古学的研究(五)―」『信濃』」　14－11
27　藤森栄一　1962「下社附近出土品の調査(下）－諏訪神社の考古学的研究(三)-」『信濃』」14－3
28　稲田泰策　1962「内鎌の示す姿の国境」『信濃』」14-10
29　千葉徳璽　1962「民間狩猟の作法にみられる諏訪信仰」信濃」14-9
30　長野県神社庁上水内支部　1963『上水内神社誌』
31　金井典美　1965「長野県霧ヶ峰旧御射山祭祀遺跡調査報告（第二次・第三次）」『考古学雑誌』第51巻第2号
32　桐原健　1967「長野県北佐久郡立科町雨境峠祭祀遺跡群の踏査」『信濃』」19-6
33　長野県教育委員会　1969『信州の民俗』
34　白根町　1969「第2節古墳時代から古代」『白根町誌』
35　千葉徳璽　1969『狩猟伝承研究』風間書房
36　信濃史料刊行会　1971「諏訪大明神絵詞」『新編信濃史料叢書』第三巻
37　桐原健　1971「長野県北佐久郡立科町雨境峠祭祀遺跡群の踏査」『信濃』第19巻第６号
38　奥村正二　1973『小判、生糸、和鉄』岩波新書
39　真田町教育委員会　1973『真田町日向向畑遺跡』
40　長野県教育委員会　1973『昭和47年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－下伊那・松川町』
41　信濃町教育委員会　1974『手打ち信州鎌の技法』
42　長野県教育委員会　1974『昭和48年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－下伊那－斜坑広場その二
43　向山雅重　1975『日本の民俗－長野』
44　豊丘村誌編纂委員会　1975『豊丘村誌』
45　長野県教育委員会　1975『昭和49年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－宮田村その二』
46　長野県教育委員会　1975『昭和49年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－諏訪市その3』
47　浅川清栄　1976「風祭り」『諏訪市史』下巻
48　信濃史料刊行会　1976「神道集」『新編信濃史料叢書』第十三巻
49　桐原健　1977「薙鎌私考」『信濃』」29－38
50　小谷村教育委員会　1979『小谷民俗誌』
51　長野県教育委員会ほか　1982『長野県中央道埋蔵文化財

包蔵地発掘調査報告書－茅野市　その5－』
52 長野市若穂文化財調査委員会　1983『長野市若穂の文化財』
53 小林増巳　1983「八ヶ岳名称の起源と霊場遺跡」『高原の自然と文化』第５号
54 大鹿村誌編纂委員会　1984『大鹿村誌　下巻』
55 川上村　1986「第5章　信仰」『川上村誌』
56 小林増巳　1986「諏訪信仰　霊鷲山と御射山」『オール諏訪』№31　４・５月号
57 小境卓治　1987「氷見市平諏訪神社の「カマ」（金属製魚型）の献納」『平成元年度　氷見市博物館年報』第８号
58 菊池清人　1989「中世の神社と信仰」『佐久の神社と信仰』信濃教育会出版部
59 小柳義男　1990「四阿山の山岳信仰」『長野県立歴史館紀要』5
60 市川武治　1990「大伴神社について」伴野氏館跡保存会
61 小林増巳　1991「八ヶ岳の山岳信仰」『オール諏訪』№78　４・６月号
62 宮坂光昭　1992「悪魔を退散させる剣」『諏訪大社の御柱と年中行事』郷土出版社
63 池田町誌編纂委員会　1992『池田町誌　歴史編Ⅰ』
64 金井喜久一郎　1993「五束神社の草創」『飯山市誌　歴史編上』
65 杉本好文　1993「諏訪信仰と薙鎌打ち神事」『小谷村誌社会編』
66 金峰山修験道遺跡発掘調査団　1994『金峰山修験道遺跡』川上村教育委員会
67 宮坂光昭　1995「薙鎌信仰」『諏訪市史　上巻』
68 小林幹男　1995「中与惣塚」『雨境峠－祭祀遺跡と古道－』立科町教委
69 丸山正敏1996「五庵古墳の薙鎌」『幸神古墳群』臼田町教　委
70 山田民郎　1996「薙鎌の謎－鎌様古代鉄片をめぐって」『信州の人と鉄』
71 丸山正敏　1998「薙鎌信仰・鉄鐸」『南佐久郡誌　考古編』南佐久郡誌刊行会
72 桐原健　1999「薙鎌研究の新展開」『佐久考古通信』№75
73 小柳義男　1999a「四阿山の山岳信仰－山頂採集遺物の検討を中心に－」『長野県立歴史館　研究紀要』第５号
74 小柳義男　1999b「薙鎌の起源と変遷」長野県立歴史館学芸研究会発表要項
75 小柳義男　1999c「真光寺本遊行上人縁起絵に描かれた薙鎌」長野県立歴史館学芸研究会発表要項
76 島田潔　1999「諏訪の薙鎌」『季刊悠久』第79号　特集『風の神信仰』
77 山梨県史編纂室　2000「地蔵岳信仰　韮崎市・芦安村・武川村」『山梨県史だより』第20号
78 櫛原功一　2003「山岳遺跡の考古学的調査－甲州での近年の調査事例から－」『帝京大学山梨文化財研究所報』第46号
79 信藤祐仁　2003「資料報告　御陵山の信仰遺物」『帝京大学山梨文化財研究所報』第46号
80 諏訪市博物館　2004『企画展　御柱と薙鎌－諏訪信仰の表徴－』

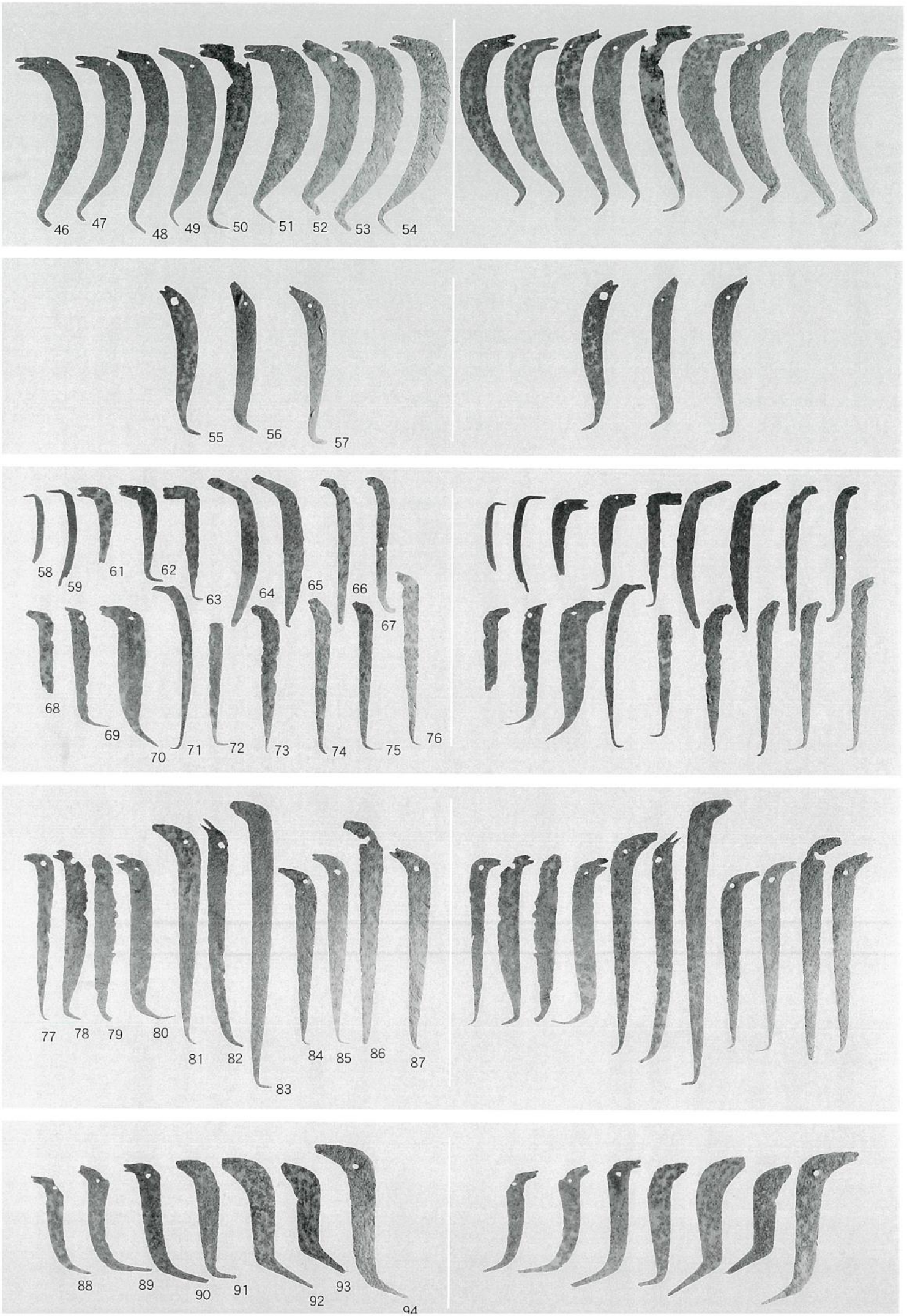

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14

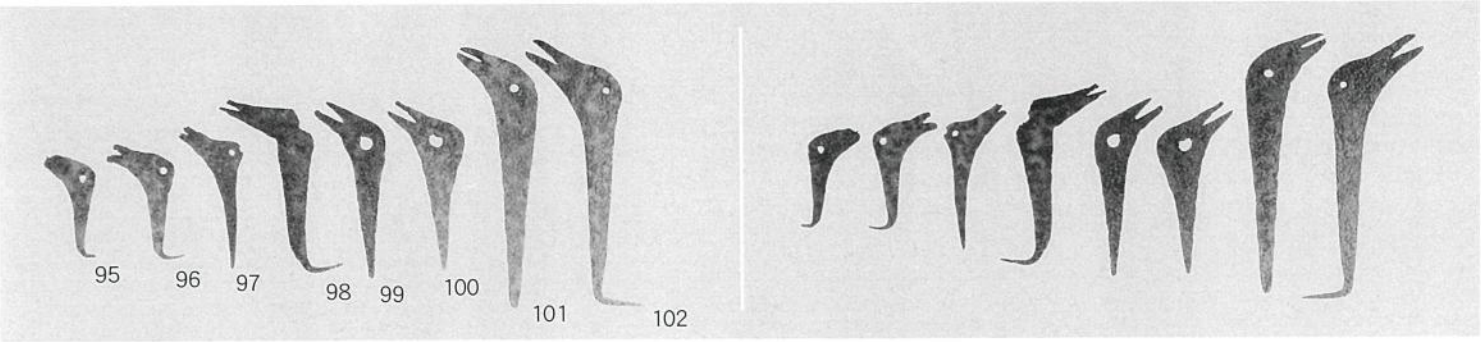

15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

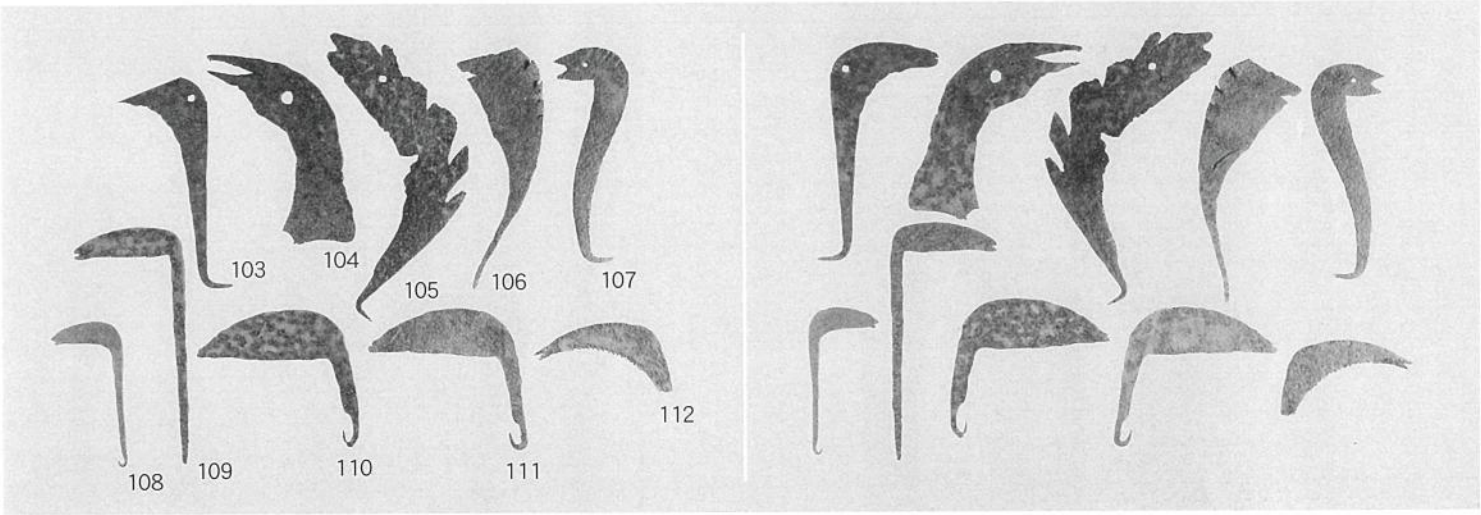

26
27
28
29
30
31

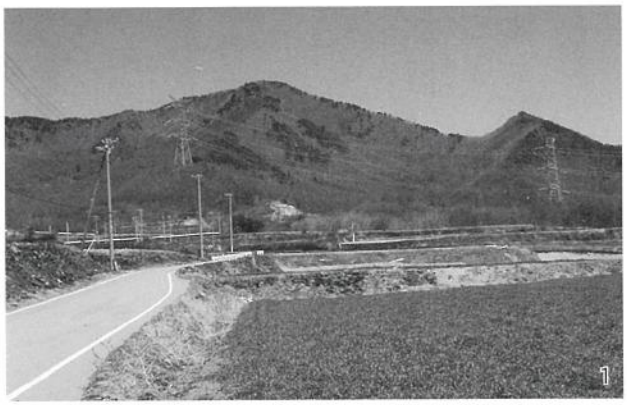

32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45

図版 2


46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94







1：山頂遠景

2：祠（南より、2003年5月10日）

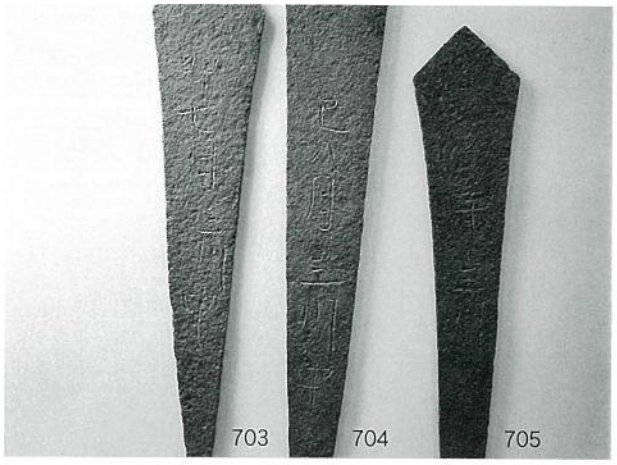
3：祠（西より、2003年9月9日）

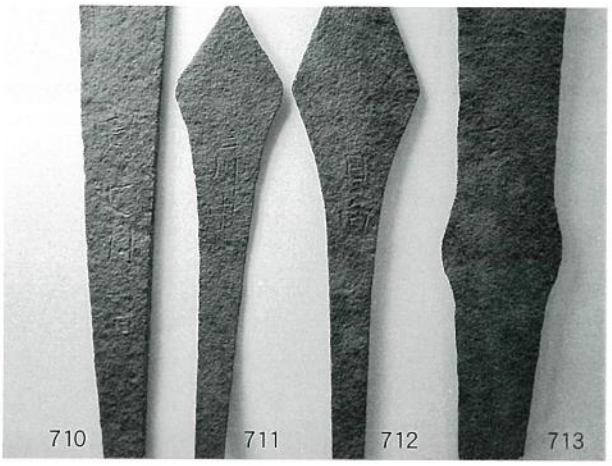
4：祠内部の様子（2003年9月9日、ほとんどの遺物を取り出した後の残存状況）

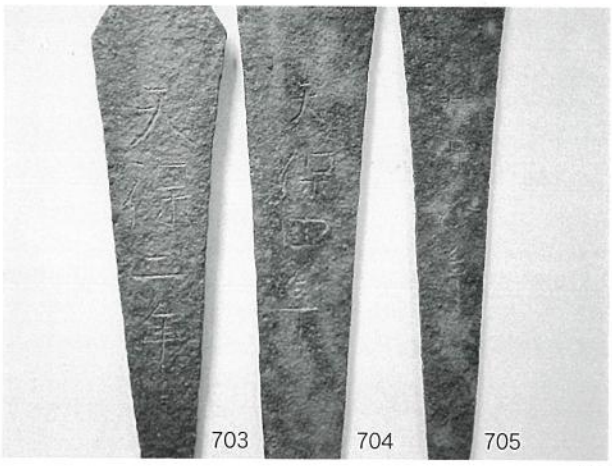
5：祠南西隅の礫中の状況（2003年9月9日）

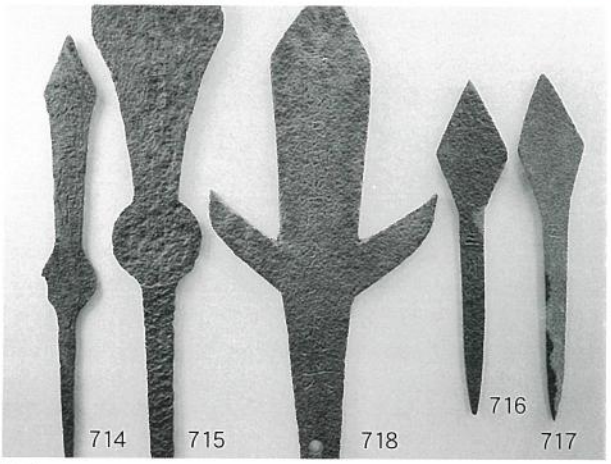
6：祠下の状況（2003年9月9日）

図版 4



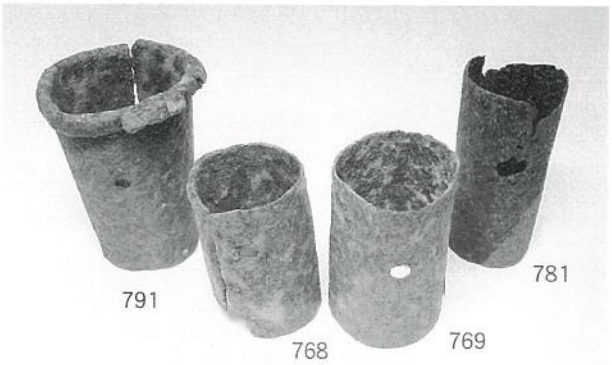




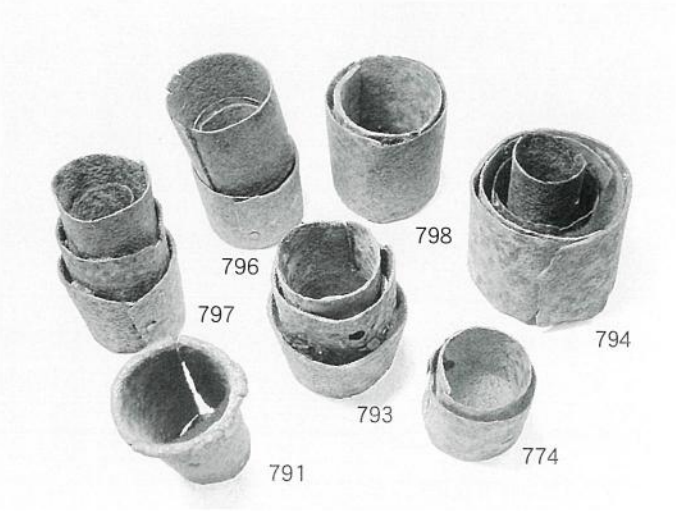


剣形の文字資料

刀形の文字資料



側板に孔をもつ容器形の諸例



入れ子の容器形ほか

底部円板の状況

鋲留の状況

底部円板の留め方の例